

講義名	スポーツと科学						
教員名	田原 麗衣						
講義コード	120630010	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2026 前期 (オンライン)
<p>[テーマ・概要] 本科目では、運動・スポーツとくにそのパフォーマンスに着目し、自然科学的なアプローチをすることで、より理解を深めることを主たる目的とする。スポーツパフォーマンスを構成する・支える要素は、「スキル・フィットネス・モチベーション」といわれ、日本でも古来から「心・技・体」といわれるように、世界共通である。また、近年注目されるようになってきた「戦術・戦略」などの要素がある。これらの要素をもとに、スポーツパフォーマンスを支える科学について授業を展開、検証する。 運動・スポーツを題材とし、それぞれの要素を科学的に検証し、要素還元論的な考察をする過程を通して、合目的に活動するための教養を高めてもらいたい。</p>							
<p>[科目内容を踏まえた到達目標の詳細] ①スポーツ・運動に関する科学的根拠を理解でき、スポーツ関連諸科学の学問内容や方法が理解できる。 ②自己やスポーツ・運動を客観的に把握・分析し、論理的に説明できる。さらに、様々な知識、原理原則等を活用できるようになる。</p>							
[授業の計画と準備学修]							
回数	授業の計画・内容			準備学修 (予習・復習等)		準備学修の目安 (分)	
第1回	ガイダンス： シラバスの内容、授業の進め方、評価基準等について把握する。			シラバスからあらかじめ授業内容を把握し、授業の全体像や進め方、評価基準について確認する。		60	
第2回	スポーツパフォーマンスを構成する要素： スポーツパフォーマンスを構成する要素や体力トレーニングの理論について把握する。			【予習】スポーツパフォーマンスに影響を及ぼしている要素を考えてみる。 【復習】自身の体力向上のためのトレーニング計画を立ててみる。		60	
第3回	スポーツと体力科学： ピリオダイゼーション (期分け) とトレーニングプログラムについて把握する。			【予習】トレーニング計画を立てる上で注意すべき事項について考えておく。 【復習】スポーツにおけるピリオダイゼーション (期分け) について、各期の課題を説明できるようにする。		60	
第4回	スポーツと体力科学： 各機能を高めるためのトレーニング方法についての理論や方法を理解する。			【予習】現在 (過去) 行っている練習で高められる機能には、どのような要素があるか考えてみる。 【復習】目的に応じたトレーニングの方法を説明できるようにする。		60	
第5回	スポーツと体力科学： ウォーミングアップやクールダウンの意義や正しい方法を理解する。 熱中症や正しい水分補給についての理解を深める。			【予習】ウォーミングアップやクールダウンの意義を考えてみる。 【復習】自分が行うウォーミングアップやクールダウンの計画を立ててみる。		60	
第6回	スポーツと技術の科学： 運動やスポーツにおける技術の定義や技術における動作の局面構造と運動協調について把握する。			【予習】運動・スポーツにおける技術的な上手さ (巧さ) とはどのような状態を指すか考えておく。 【復習】技術における動作の局面構造を説明できるようにする。		60	
第7回	スポーツと技術の科学： スポーツの技術に関する能力段階と技術トレーニングについて理解する。			【予習】運動学習の段階について調べておく。 【復習】技術に関する能力段階に応じた、技術トレーニングについて計画を立ててみる。		60	
第8回	スポーツと心理学： メンタルトレーニングの基礎理論とアセスメントについて把握する。			【予習】スポーツにおいて用いられているメンタルトレーニングについて調べておく。 【復習】自身のメンタルアセスメントを元に、自身の状況を分析してみる。		60	
第9回	スポーツと心理学： スポーツにおけるリラクゼーションや様々なメンタルトレーニングプログラムについて把握する。			【予習】メンタルトレーニングプログラムについて調べておく。 【復習】授業で扱ったリラクゼーション法やメンタルトレーニングプログラムを実践してみる。		60	
第10回	コンディショニングの科学： スポーツにおけるコンディショニングについて把握する。リカバリーの方法として、栄養面からのアプローチや体のケアの方法などを理解する。			【予習】最大限のパフォーマンス発揮のために必要な要素について考えておく。 【復習】自身の重要な場面 (スポーツに限らなくても良い) に向けたコンディショニングについて考えてみる。		60	
第11回	スポーツと戦術・戦略の科学： スポーツにおける戦術・戦略、作戦について基本的な理論を把握する。			【予習】スポーツにおいて、戦術・戦略がどのように活用されているか調べてみる。 【復習】戦術・戦略や作戦について具体的に説明できるようにする。		60	
第12回	スポーツと戦術・戦略の科学： スポーツにおけるゲーム分析やデータの活用について把握する。			【予習】スポーツにおけるゲーム分析やデータの活用について、具体例を調べておく。 【復習】より有効にデータを活用し、戦術・戦略を立てる方法を考えてみる。		60	
第13回	スポーツとデータの活用と展開：スポーツにおけるデータの活用と展開について考察する。			【予習】データを活用している身近な例を考えておく。 【復習】今後のスポーツにおけるデータの活用と展開について考察する。		60	
第14回	講義のまとめ： これまでに行った学修内容をまとめ、学修内容を確認する。(理解度確認テストを実施予定)			【予習】これまでの回で学んだ内容を確認しておく。 【復習】理解度確認テストを通して自身の理解度を確認し、理解度が足りない点は復習する。		90	
<p>[授業の方法] この授業はオンデマンドで実施する。 各回のテーマに則した資料 (スライド、動画資料、配布資料) を用いて講義形式で授業を展開する。 授業内課題レポートを課すので、そのレポートを利用して受講生とのコミュニケーションを図り、出来る限り双方向の授業を展開する。 ただし、授業の進捗状況等によって、内容を一部変更する場合がある。</p>							

<p>[パソコンに関する受講者への指示 (特別なソフトウェアのインストール等)]</p>
<p>[課題等へのフィードバック方法]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コメントシートへのフィードバックは CoursePower を通じて行います。 ・授業の初めに、コメントシートや小テストの講評、解説を行います。
<p>[成績評価の方法]</p> <p>課題提出状況 60%、平常点 (授業への参加状況を含む) 40% により総合的に評価する。 最終週に理解度確認テストを実施する。</p>
<p>[成績評価の基準]</p> <p>成蹊大学の成績評価基準 (学則第 38 条、39 条) に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 上記、到達目標の達成度にもとづいて評価する。</p>
<p>[必要な予備知識/先修科目/関連科目]</p> <p>予備知識や先修科目は特に必要としない。 関連科目として、健康・スポーツ科目の「健康と科学」、「スポーツと社会」、「スポーツと文化」の講義科目、「健康・スポーツ演習 A」、「健康・スポーツ演習 B」の実技科目がある。</p>
<p>[テキスト]</p> <p>特になし。必要な資料は授業内に配布・掲示する。</p>
<p>[参考書]</p> <p>参考書は授業中に適宜指示する。</p>
<p>[質問・相談方法等 (オフィス・アワー)]</p> <p>授業終了後に CoursePower にて受け付ける。 その他の質問・相談方法はポータルサイトで周知する。</p>
<p>[特記事項]</p>

講義名	スポーツと文化						
教員名	稲葉 佳奈子						
講義コード	120630110	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2026 後期
<p>[テーマ・概要] 本科目は、スポーツの文化的特質に着目する。スポーツ文化の成立と発展プロセス、スポーツの多様なあり方、スポーツが直面する課題を具体的事例から示し、歴史的・社会的背景と関連させて概説する。 講義および各回のテーマに関する考察を通じて文化的側面から運動・スポーツへの理解を深め、視野を広げることを目指す。</p>							
<p>[科目内容を踏まえた到達目標の詳細] ① スポーツが固有にもつ文化的特質について、具体的現象と歴史的・社会的背景との関連から理解することができる。 ② スポーツの文化的特質に関する理解を、学問的知見と関連づけて論理的に考察および表現することができる。</p>							
[授業の計画と準備学修]							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	ガイダンス：授業の概要、成績評価の方法、必要な予備知識等についての説明			シラバスの内容を確認する。		60	
第2回	スポーツとは何か			配付資料にもとづき講義内容をふりかえる。		60	
第3回	近代スポーツの成立と発展			配付資料にもとづき講義内容をふりかえる。		60	
第4回	階級文化としてのルール			配付資料にもとづき講義内容をふりかえる。		60	
第5回	平和運動としてのオリンピック			配付資料にもとづき講義内容をふりかえる。		60	
第6回	スポーツとメディア			配付資料にもとづき講義内容をふりかえる。		60	
第7回	スポーツの商業化			配付資料にもとづき講義内容をふりかえる。		60	
第8回	東京オリンピックと都市開発			配付資料にもとづき講義内容をふりかえる。		60	
第9回	日本におけるスポーツの受容			配付資料にもとづき講義内容をふりかえる。		60	
第10回	「体育会系」文化とは何か			配付資料にもとづき講義内容をふりかえる。		60	
第11回	「自然な身体」とは何か			配付資料にもとづき講義内容をふりかえる。		60	
第12回	スポーツと社会問題			配付資料にもとづき講義内容をふりかえる。		60	
第13回	これからのスポーツ文化を考える			配付資料にもとづき講義内容をふりかえる。		60	
第14回	全体のふりかえり			学修内容を総合的にふりかえる。		60	
<p>[授業の方法] ○ PowerPoint等のスライド資料を提示して講義する。 ○ 授業の進捗によって、内容を一部変更する場合がある。 ○ 各回の講義内容に即した授業内課題を指示する。</p>							
[パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）]							
<p>[課題等へのフィードバック方法] 授業時間内の課題に対するフィードバックは、次回授業時の冒頭におこなう。</p>							
<p>[成績評価の方法] 授業時間内に取り組み課題（30%）、学期末試験（70%）をもとに総合的に評価する。</p>							

<p>〔成績評価の基準〕</p> <p>成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 次の点に着目し、その達成度により評価する。</p> <p>○ 学問的知見と具体的現象との関わりが適切に理解できているか。 ○ 授業内容の理解をふまえた論理的な考察・表現ができているか。</p>
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕</p> <p>関連科目として講義科目「スポーツと科学」、「健康と科学」、「スポーツと社会」、演習科目「健康・スポーツ演習 A」、「健康・スポーツ演習 B」がある。</p>
<p>〔テキスト〕</p> <p>特になし。必要な資料等は Course Power を通じて配布する。</p>
<p>〔参考書〕</p> <p>特になし。</p>
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕</p> <p>ポータルサイトで周知する。また、授業終了後に教室で受け付ける。</p>
<p>〔特記事項〕</p>

講義名	スポーツと社会						
教員名	岡田 光弘						
講義コード	120630210	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2026前期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>本科目は、運動・スポーツと社会との関わりについて理解を深めることを主な目的とする。 運動・スポーツ、および、様々な社会構造について、概念的な理解を深めることで、運動・スポーツを実践し、享受し、支えることの社会的な意義を理解し、自らその環境を活用するための教養を高めることを目指す。</p>							
<p>〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕</p> <p>①スポーツの社会的側面について理解でき、関連する諸科学分野の学問内容や方法を理解できる。 ②スポーツに関する政治・経済などの社会の仕組みと動きを理解し、その活用について考えることができる。 上記2点を到達目標とし、DP2（教養の修得）、DC3（課題の発見と解決）の実現を目指す。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の 目安（分）	
第1回	ガイダンス			シラバスを読み、あらかじめ授業内容や全体像、進め方、評価基準等について確認する。		60	
第2回	スポーツについて概念的に把握する。			スポーツ・ゲーム・プレイについて、具体例を挙げられるようにしておく。 具体例について、講義で学んだ概念や用語と結びつけて理解する。		60	
第3回	社会学について、概念的に把握する。			全体社会や社会構造について、具体例を挙げられるようにしておく。 具体例について、講義で学んだ概念や用語と結びつけて理解する。		60	
第4回	質的な社会学について、概念的に把握する。			社会の中のスポーツ実践について、具体例を挙げられるようにしておく。 具体例を講義で学んだ概念や用語と結びつけて理解する。		60	
第5回	近代スポーツの成立と発展について、概念的・歴史的に把握する。			近代スポーツの成立と発展について、具体例を挙げられるようにしておく。 具体例を講義で学んだ概念や用語と結びつけて理解する。		60	
第6回	メディア化するスポーツについて、概念的に把握し、若干の例示を行う。			メディア化するスポーツについて、具体例を挙げられるようにしておく。 具体例を講義で学んだ概念や用語と結びつけて理解する。		60	
第7回	消費文化としてのスポーツについて、概念的に把握し、若干の例示を行う。			消費文化としてのスポーツについて、具体例を挙げられるようにしておく。 具体例を講義で学んだ概念や用語と結びつけて理解する。		60	
第8回	スポーツと政治・権力について、概念的に把握し、若干の例示を行う。			スポーツと政治・権力について、具体例を挙げられるようにしておく。 具体例を講義で学んだ概念や用語と結びつけて理解する。		60	
第9回	スポーツとジェンダーについて、概念的に把握し、若干の例示を行う。			スポーツとジェンダーについて、具体例を挙げられるようにしておく。 具体例を講義で学んだ概念や用語と結びつけて理解する。		60	
第10回	スポーツする身体について、概念的に把握し、若干の例示を行う。			スポーツする身体について、具体例を挙げられるようにしておく。 具体例を講義で学んだ概念や用語と結びつけて理解する。		60	
第11回	身体教育について、概念的に把握し、若干の例示を行う。			身体教育について、具体例を挙げられるようにしておく。 具体例を講義で学んだ概念や用語と結びつけて理解する。		60	
第12回	スポーツと社会問題について、概念的に把握し、若干の例示を行う。			スポーツと社会問題について、具体例を挙げられるようにしておく。 具体例を講義で学んだ概念や用語と結びつけて理解する。		60	
第13回	職業としての（プロ）スポーツや視聴者としての消費について、概念的に把握し、若干の例示を行う。			職業としてのスポーツや視聴者としての消費について、具体例を挙げられるようにしておく。 具体例を講義で学んだ概念や用語と結びつけて理解する。		60	
第14回	まとめの講義			これまでの学修を総合的にふり返る。		60	
<p>〔授業の方法〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 各回のテーマに即した資料（スライド、動画資料、配布資料）を用いながら講義形式で授業を進める。 毎回授業内でレポートを課する。 授業の進捗によって、予習内容について報告（プレゼンテーション）を求める、オンラインでの講義など、内容を一部変更する場合がある。 							
〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕							

<p>〔課題等へのフィードバック方法〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CoursePowerでの質問の機能を利用する。 ・授業の進捗によって、フィードバックのための報告を求めるなど、内容を一部変更する場合がある。
<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>「学期末試験」「期末レポート」は実施しない。 各回のレポート（受講状況を含む）60%、 最終回まとめのレポート40%をもとに、総合的に評価する。</p>
<p>〔成績評価の基準〕</p> <p>成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。 Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. また、次の点に着目し、その達成度により評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業のテーマと内容について基本的な理解ができているか。 ・キーワードを用いて学習した内容を論理的に説明できるか。
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕</p> <p>関連科目として、健康・スポーツ科目の「健康と科学」、「スポーツと科学」、「スポーツと文化」の講義科目、「健康・スポーツ演習A」、「健康・スポーツ演習B」の演習科目がある。</p>
<p>〔テキスト〕</p> <p>改訂版『よくわかる スポーツ文化論』、井上俊・菊幸一編著、ミネルヴァ書房、2500円</p>
<p>〔参考書〕</p> <p>『現代メディアスポーツ論』、橋本純一編、世界思想社、2300円</p>
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕</p> <p>CoursePowerでのやりとりに加えて、木曜日の出講時（2時限語.3時限後）には、体育館の講師室でも受け付けます。</p>
<p>〔特記事項〕</p>

講義名	健康と科学						
教員名	境 広志						
講義コード	120630310	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2026 前期 (オンライン)
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>生涯を通じて健康に過ごすためには、大学生のときから健康について考え、正しい知識を身につけておく必要があります。健康づくりには運動、栄養、休養(睡眠)の3要素が欠かせません。本講義では、健康を維持・増進するための3要素と生活習慣病、感染症、喫煙、飲酒などの健康に関する科学的根拠に基づく知識について学びます。</p>							
<p>〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕</p> <p>① 健康づくりの必要性を認識し、科学的根拠に基づいた健康の維持・増進に関する知識について理解し、それらを自己の健康実現と結びつけて考えることができる。</p> <p>② 健康の維持・増進を目的としたライフスタイルを安全かつ効果的に実践するための方法を科学的に説明できる。</p> <p>上記2点を到達目標とし、DP2(教養の修得)、DP3(課題の発見と解決)の実現を目指す。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修 (予習・復習等)		準備学修の目安 (分)	
第1回	インTRODクシオン 1. 授業の全体像、進め方、予習・復習の仕方、課題レポートについて、評価基準の説明 2. 講義内容に関するミニテストの実施			【予習・復習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。授業の全体像や進め方、評価基準等について確認する。		60	
第2回	運動による健康の維持・増進 1. 運動不足による体への影響 2. 過剰な運動による体への影響			【予習】『事前学習しておくべき用語』に挙げているキーワードを調べる。 【復習】キーワードを用いて学習した内容を要約する。		60	
第3回	運動の効果と実践 1. 運動の種類と効果 2. 運動の環境づくりと実践			【予習】『事前学習しておくべき用語』に挙げているキーワードを調べる。 【復習】キーワードを用いて学習した内容を要約する。		60	
第4回	生活リズムと食事 1. 規則正しい食生活 2. バランスの良い食事			【予習】『事前学習しておくべき用語』に挙げているキーワードを調べる。 【復習】キーワードを用いて学習した内容を要約する。		60	
第5回	ダイエットと食事 1. 身体に与える影響 2. 健康的な体重の維持・管理			【予習】『事前学習しておくべき用語』に挙げているキーワードを調べる。 【復習】キーワードを用いて学習した内容を要約する。		60	
第6回	スポーツと食事 1. スポーツ選手の食事 2. サプリメントの使用と効果			【予習】『事前学習しておくべき用語』に挙げているキーワードを調べる。 【復習】キーワードを用いて学習した内容を要約する。		60	
第7回	睡眠と健康 1. 睡眠とは 2. 睡眠が身体に与える影響			【予習】『事前学習しておくべき用語』に挙げているキーワードを調べる。 【復習】キーワードを用いて学習した内容を要約する。		60	
第8回	快適な睡眠のために 1. 睡眠への工夫 2. 休養のすすめ			【予習】『事前学習しておくべき用語』に挙げているキーワードを調べる。 【復習】キーワードを用いて学習した内容を要約する。		60	
第9回	生活習慣病とその予防 1. 生活習慣病とは 2. 生活習慣病の予防			【予習】『事前学習しておくべき用語』に挙げているキーワードを調べる。 【復習】キーワードを用いて学習した内容を要約する。		60	
第10回	感染症とその予防 1. 感染症の問題 2. 感染経路と予防・対策			【予習】『事前学習しておくべき用語』に挙げているキーワードを調べる。 【復習】キーワードを用いて学習した内容を要約する。		60	
第11回	喫煙と健康 1. たばこの依存性 2. 身体に与える影響 3. 喫煙への対策			【予習】『事前学習しておくべき用語』に挙げているキーワードを調べる。 【復習】キーワードを用いて学習した内容を要約する。		60	
第12回	飲酒と健康 1. 飲酒の健康影響(急性作用) 2. 飲酒の健康作用(長期的作用) 3. 正しいお酒の飲み方			【予習】『事前学習しておくべき用語』に挙げているキーワードを調べる。 【復習】キーワードを用いて学習した内容を要約する。		60	
第13回	ストレスとその対処 1. ストレスとは何か 2. ストレスへの対処法			【予習】『事前学習しておくべき用語』に挙げているキーワードを調べる。 【復習】キーワードを用いて学習した内容を要約する。		60	
第14回	まとめ 1. 全体のふりかえり 2. 期末レポートの紹介			【予習】作成した期末レポートをふりかえる。 【復習】他の受講生の期末レポートについてふりかえる。		120	
<p>〔授業の方法〕</p> <p>基本的にはオンデマンド形式で行います。授業日の朝 8 時に授業を配信しますので、1 週間以内に受講(視聴)してコースパワーにふりかえりを提出してください。</p>							
〔パソコンに関する受講者への指示 (特別なソフトウェアのインストール等)〕							
〔課題等へのフィードバック方法〕							

ふりかえり、期末レポートへのフィードバックは授業時(基本的には次回の授業)にて講評し、解説します。

〔成績評価の方法〕

以下の基準で総合的に評価します。

- ・授業への参加・取組状況など(ふりかえりの提出状況と内容を含む)：40%
- ・期末レポート：60%

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準(学則第38条、39条)に準拠する。

次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ・ 毎回の授業のテーマと内容について基本的な理解ができているか。
- ・ キーワードを用いて学習した内容を論理的に説明できるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

関連科目として、健康・スポーツ科目の「スポーツと科学」、「スポーツと社会」、「スポーツと文化」がある。また、法学部生は、学部開講の「健康政策論」を併せて履修することが望ましい。

〔テキスト〕

テキストは特にあります。授業内で『わたしたちのからだと健康』(医学映像教育センター)の視聴覚資料(DVD)を使用します。

〔参考書〕

参考書は授業中に適宜指示します。

〔質問・相談方法等(オフィス・アワー)〕

ポータルサイトの『オフィスアワー』で周知します。

〔特記事項〕

講義名	現代社会と哲学						
教員名	関口 浩						
講義コード	120710210	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 後期
<p>[テーマ・概要]</p> <p>近年、サステナビリティ、持続可能性ということが、日本においてまた国際的にも大いに議論されている。2015 年に国連によって設けられた持続可能な開発の諸目標>、SDGs は、今日、流行語のようになって、様々なメディアで取り上げられ、しばしば論じられている。この講義では、まずは気候変動の問題を例に、サステナビリティの問題を、専門にとらわれないより広い視野で、つまり哲学的に考察していきたいと思う。</p>							
<p>[科目内容を踏まえた到達目標の詳細]</p> <p>現代という時代のいちばん深いところを洞察しようとする根本的な思索について、それを単に知識として学習するのではなく、むしろ履修者各自が自分自身の精神のなかでそうした<事柄>を共に経験してもらいたい。さらに、履修者各々もまた、自分自身でそのような<事柄>を思索できるようになってもらいたいと思います。</p>							
[授業の計画と準備学修]							
回数	授業の計画・内容			準備学修 (予習・復習等)		準備学修の 目安 (分)	
第 1 回	サステナビリティ議論の歴史。 ローマ・クラブ『成長の限界』から SDGs へ。			復習として、配布された資料をあらためて熟読すること。		60 分	
第 2 回	サステナビリティの現状。 危機を技術的に克服する努力。サーキュラー・エコノミーについて。			復習として、配布された資料をあらためて熟読すること。またこれまでの 2 回の授業を通じて問題となっていたサステナビリティの問題を、より身近な事柄としてあらためて考えること。		60 分	
第 3 回	技術文明への疑問。 科学への疑問——アインシュタインとオープンハイマー。脱成長論者による批判——有限の地球環境と無限の成長との矛盾を指摘。			復習として、配布された資料をあらためて熟読すること。		60 分	
第 4 回	技術文明の本質について歴史的考察 (1) 17 世紀の科学革命——ガリレイとデカルト。自然の支配。全面的合理化の過程 (マックス・ヴェーバー)。			復習として、すでに配布したアインシュタインとオープンハイマーの資料を再度熟読すること。		60 分	
第 5 回	技術文明の本質について歴史的考察 (2) 資本主義についてその成立当初の精神にまで遡り、さらにその精神の起源としての西欧中世の修道院での生活に関して考察する。			復習として、配布された資料をあらためて熟読すること。		60 分	
第 6 回	技術文明の本質について歴史的考察 (3) 技術文明を推し進める「労働」ということを、人類の自己家畜化 (川田順造) から考える。			復習として、配布された資料をあらためて熟読すること。		60 分	
第 7 回	自己家畜化する以前の人類についての考察 (1)。 ソポクレス作「オイディプス王」において家畜化されざる「野生の人」の本質を検討する。			習として、配布された資料をあらためて熟読すること。ソポクレス作「オイディプス王」を読んでおくこと。		60 分	
第 8 回	自己家畜化する以前の人類についての考察 (2)。 アブラハム、イエス、ブッダ、孔子に共通する自己家畜化を拒否する思想について検討する。			復習として、配布された資料をあらためて熟読すること。 新旧聖書に関して不明な点は各々が原典を調べて理解すること。		60 分	
第 9 回	現代において「野生」を取り戻す方途としての芸術。 芸術において合理化する思考とは別なる思考を見出そうとする試み。脱成長論者の芸術論。ハイデガーの技術論中の芸術論。ジョン・ケージの芸術思想。			復習として、配布された資料をあらためて熟読すること。		60 分	
第 10 回	現代において家畜化されざる野生の人を求めて (1)。 A・アインシュタインの思想について彼自身による『私の世界観』またウィリアム・ヘルマンズ『アインシュタイン、神を語る』などのテキストを参照する。			復習として、配布された資料をあらためて熟読すること。		60 分	
第 11 回	現代において家畜化されざる野生の人を求めて (2)。 遠藤周作の「意味ある偶然の一致」に関する思索を検討する。			復習として、配布された資料をあらためて熟読すること。		60 分	
第 12 回	自然の支配の次に来るもの、人間存在自体が合理化されること。 死への欲動 (フロイト) は理性的な冷静さ。ストレス社会の現実。			復習として、配布された資料をあらためて熟読すること。		60 分	
第 13 回	少子化の問題。少子化の現状と対策。 オルナ・ドーナト『母親になって後悔してる』。			予習として、前回配布のテキストをもう一度読んでおくこと。 復習として、配布された資料をあらためて熟読すること。		60 分	
第 14 回	今学期の講義全体について再確認。			予習として、今学期の講義全体を回想すること。		60 分	
<p>[授業の方法]</p> <p>絵画や写真、映画などヴィジュアルな資料も必要に応じて使っていきたいと思っています。</p>							
[パソコンに関する受講者への指示 (特別なソフトウェアのインストール等)]							

<p>〔課題等へのフィードバック方法〕 特に優れた回答レポートに関しては、授業時間中に回答者の名前を伏せて講評します。また類似の内容のものが多かった回答に関しても、同様に講評します。</p>
<p>〔成績評価の方法〕 定期試験期間中に試験を行います。課題についてのレポートを書いてもらいます。80% 自主的に提出するレポートなど、平常点。20%</p>
<p>〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.</p>
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 いかなる予備知識も求めません。 関連科目は「哲学の基礎」。</p>
<p>〔テキスト〕 とくに定めません。（毎回、資料を配布する）</p>
<p>〔参考書〕 授業時間中に指示します。</p>
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 質問等は授業前・授業後に受け付けます。 またメールでの質問にも応えます。</p>
<p>〔特記事項〕</p>

講義名	現代社会と倫理学						
教員名	佐藤 雅男						
講義コード	120710310	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2026 後期
<p>[テーマ・概要] [テーマ] 混迷状況からの出発 [概要] 近代日本を代表する文学者や思想家を取り上げ、私達が現代社会を生きる意味を考える。福沢諭吉は、『文明論之概略』「緒言」で、日本人が、異常な過度期を生き抜かざるを得ない理由で、自らの過去の経験によって、新たに学び知った文明を照合することが出来ると言った。そこには、眼前の否定的な混迷状況を、逆に、「今の一世を過ぐれば、決して再び得べからざる」ような「好機」と見なす精神構造がある。 こうした状況は、現代社会にも存続し、私達は混迷の渦中で、自己の生活経験を整理しなければならない。そこで問題になるのが、人生の意味や価値であり、倫理学の根本は、「如何に生きるべきか」である。 近代日本を先導した人達の思想表現の特質を検討しながら、現代社会における人間について考えてみたい。(DP2-DP5)</p>							
<p>[科目内容を踏まえた到達目標の詳細] [到達目標] ・近代日本を先導した文学者や思想家の文章を読みながら、その言葉の意味を考えることで、今を生きる私達の指針を形成する。 ・物事を多角的にとらえる発想を身につける。</p>							
[授業の計画と準備学修]							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	授業のガイダンス。 近代日本の特徴。			授業のテーマと全体像を描く。		60	
第2回	明治維新と文明開化。			歴史的な時代背景と国際情勢を理解する。		60	
第3回	啓蒙思想－福沢諭吉。			「独立の気力」について考える。		60	
第4回	自由民権思想－中江兆民。			「東洋のルソー」と言われた人物像を把握する。		60	
第5回	キリスト教－内村鑑三。			「無教会主義」の意味を把握する。		60	
第6回	国民道徳－教育勅語。			中味の再検討をする。		60	
第7回	東洋の美－岡倉天心。			「自我の顕現」の意味を把握する。		60	
第8回	浪漫主義－北村透谷。			「内部生命」の意味を把握する。		60	
第9回	自然主義－田山花袋と島崎藤村。			日本特有の「私小説」の意味を把握する。		60	
第10回	夏目漱石の文明論。			「内発的開化」の意味を把握する。		60	
第11回	森鷗外の文明論。 下田歌子や与謝野晶子の思想。			「利他的個人主義」や「貞操論」の意味を把握する。		60	
第12回	西田幾多郎の哲学。			「純粹経験」の意味を理解する。		60	
第13回	和辻哲郎の倫理学。 レポートの書き方			「間柄的存在」の意味を理解する。		60	
第14回	小林秀雄の批評。 レポートの書き方。			「宿命の人間学」の意味を理解する。		60	
<p>[授業の方法] 毎回の授業に、資料を配布する。それを基に授業を進める。</p>							
[パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）]							
[課題等へのフィードバック方法]							

<p>〔成績評価の方法〕 授業への積極的参加（10%）。最終回の到達度の確認レポート（90%）で評価する。授業中に配布した資料を引用して、1200字程度のレポートを書いてもらう。書き方に関しては、一回目の授業で概略を言うが、年末年始の頃の授業で、より詳しく説明する。</p>
<p>〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。</p>
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし。</p>
<p>〔テキスト〕 資料を配布する。</p>
<p>〔参考書〕 『述語集Ⅰ』『述語集Ⅱ』（中村雄二郎、岩波新書） 『日本の思想』（丸山真男、岩波新書） 『墮落論』（坂口安吾、新潮文庫）</p>
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 授業終了後に教室で受け付けます。</p>
<p>〔特記事項〕</p>

講義名	芸術への招待<1>						
教員名	西釋 英里香						
講義コード	120710510	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2026 前期 (オンライン)
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>本授業では、ドイツの小説家にして、音楽に関する著述も多いエルンスト・テオドール・アマデウス・ホフマン (Ernst Theodor Amadeus Hoffmann, 1776-1822、以下 E. T. A. ホフマン) とその作品にまつわる様々なピアノ曲、交響曲、オペラについて考察・分析を行う。</p>							
<p>〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕</p> <p>DP2-1 (教養の修得) を実現するため、次の2点を到達目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●西洋音楽史における代表的な作曲家とその作品についての知識を修得する。 ●音楽のみならず、文学にも興味を持ち、その関わりを説明できる。 							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修 (予習・復習等)		準備学修の目安 (分)	
第1回	E. T. A. ホフマン E. T. A. ホフマンの生涯と作品を概観する。			授業内容を整理してまとめる。		60	
第2回	E. T. A. ホフマンによるベートーヴェン《交響曲第5番》批評 E. T. A. ホフマンの音楽観を知るために、彼の批評を読む。とくに L. v. ベートーヴェン (Ludwig van Beethoven, 1770-1827) の第5交響曲の批評を通して、「古典派とロマン派」「声楽と器楽」について考える。			授業内容を整理してまとめる。		60	
第3回	調性格論 E. T. A. ホフマンの調性格論を、J. マッテゾン (Johann Mattheson, 1681-1764) や C. F. D. シューバルト (Christian Friedrich Daniel Schubart, 1739-91) の論考とも比較しながら考察する。			授業内容を整理してまとめる。		60	
第4回	ローベルト・シューマン E. T. A. ホフマンの小説を愛読し、そこからインスピレーションを得て作曲した R. シューマン (Robert Schumann, 1810-56) の生涯と音楽を概観する。			授業内容を整理してまとめる。		60	
第5回	《クライスレリアーナ》その1 シューマンのピアノ曲《クライスレリアーナ Kreisleriana》 op. 16 (1838年作曲) のタイトルは、E. T. A. ホフマンの小説の登場人物「クライスラー」に由来する。今回は、ホフマンの『カロ風幻想小品集』の「クライスレリアーナ」を読みつつ、シューマンの音楽を考察する。			授業内容を整理してまとめる。		60	
第6回	《クライスレリアーナ》その2 今回は、ホフマンの『牡猫ムルの人生観』を読みつつ、シューマンのピアノ曲《クライスレリアーナ》を考察する。			授業内容を整理してまとめる。		60	
第7回	謝肉祭とコメディア・デラルテ シューマンのピアノ曲《謝肉祭 Carnival》op. 9 (1834~35年作曲) とホフマンの小説および、イタリアの仮面即興劇コメディア・デラルテとの関わりをとりあげたのち、コメディア・デラルテのキャラクターが登場する R. シュトラウス (Richard Strauss, 1864-1949) のオペラ《ナクソス島のアリアドネ Ariadne auf Naxos》(1911~12年作曲、1916年改訂版作曲) を鑑賞する。			授業内容を整理してまとめる。		60	
第8回	マーラーとシューマン〜E. T. A. ホフマン、そしてジャン・パウル〜 G. マーラー (Gustav Mahler, 1860-1911) の《交響曲第1番》は、E. T. A. ホフマン及び、同じくドイツの作家 J. パウル (Jean Paul, 1763-1825) の作品との関わりがあるとされる。J. パウルはシューマンが愛読した作家でもあるので、シューマンの音楽も交差させながら、マーラーのこの交響曲を鑑賞する。			授業内容を整理してまとめる。		60	
第9回	モーツァルトの《ドン・ジョヴァンニ》と E. T. A. ホフマン E. T. A. ホフマンの小説『ドン・ファン』(1813年発表、1814年『カロ風幻想作品集』所収) を読みながら、W. A. モーツァルト (Wolfgang Amadeus Mozart, 1756-91) の歌劇《ドン・ジョヴァンニ Don Giovanni》(1787年作曲) を鑑賞する。			授業内容を整理してまとめる。		60	
第10回	19世紀のバリの劇場とオッフエンバック 第11回以降、フランスの作曲家 J. オッフエンバック (Jacques Offenbach, 1819-80) の歌劇《ホフマン物語 Les contes d' Hoffmann》をとりあげるにあたり、まずは19世紀バリの劇場の状況を概観する。オッフエンバックのオペレッタ作品も鑑賞する。			授業内容を整理してまとめる。		60	
第11回	オッフエンバック《ホフマン物語》その1 《ホフマン物語》は E. T. A. ホフマンとその作品			授業内容を整理してまとめる。		60	

	をモチーフとしたオペラであるが、オッフェンバックの死により未完のまま残された。その創作の経緯、および構成について概観したのち、序幕を鑑賞する。		
第12回	オッフェンバック《ホフマン物語》その2 《ホフマン物語》の〈オランピアの幕〉および〈アントニアの幕〉を、原作のE. T. A. ホフマンの小説と対応させながら鑑賞する。	授業内容を整理してまとめる。	60
第13回	オッフェンバック《ホフマン物語》その3 《ホフマン物語》の〈ジュリエッタの幕〉および〈終幕〉を鑑賞する。その際、複数の映像を聴き比べる予定。	授業内容を整理してまとめる。	60
第14回	総括 E. T. A. ホフマンが作曲した音楽作品を鑑賞するとともに、授業のまとめをする。	期末レポートに向けて復習する。	60
<p>〔授業の方法〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「オンデマンド型（録画提供）」で授業を実施する。授業方法の詳細については、授業開始の2週間程前にポータル及びCourse Powerにて告知する。 ●授業内容を理解しているかどうかを確認するきわめて簡単なテストを毎回実施する。 ●学期末レポートでは、授業でとりあげた作曲家やその作品等について論じてもらう。 ●授業の進捗によって、内容を一部変更する場合がある。 			
〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕			
<p>〔課題等へのフィードバック方法〕</p> <p>実施した課題については、Course Powerを通じて解答・解説を配布する。</p>			
<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>平常点（課題の提出状況）70%、及び学期末レポート30%により評価する。ただし、期末レポートを提出しない場合は平常点の点数に関わりなく、単位取得不可とする。また、レポート等の課題において、ChatGPT等の生成AIの出力をそのまま、あるいは多少表現を変えた程度で提出することは認めない。</p>			
<p>〔成績評価の基準〕</p> <p>成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No39. 次の点に着目し、その達成度により評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●授業でとりあげた作曲家とその作品について基礎的な知識を獲得し、明確に説明できる。 ●西洋クラシック音楽について自分なりの興味を深め、自由に論じることができる。 			
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕</p> <p>楽譜を読むことが望ましいが、もちろん読めなくても履修可。 西洋クラシック音楽を中心に扱うことを了承されたい。</p>			
<p>〔テキスト〕</p> <p>特になし。</p>			
<p>〔参考書〕</p> <p>授業中に適宜紹介する。</p>			
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕</p> <p>電子メールで受け付けます。メールアドレスは講義時に告知します。</p>			
〔特記事項〕			

講義名	芸術への招待<2>						
教員名	人見 伸子						
講義コード	120710520	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2026 前期 (オンライン)
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>古今東西の美術作品には、特定のモチーフが繰り返し描かれてきた。それは自然現象や天体、動植物、私たちの身の回りにある品々など多岐にわたり、年月を経て特別の意味をもつようになったものもある。この授業では特に人気があったモチーフを選び、時代や地域によって異なる意味や象徴性について、具体的な作品例をあげながら検証していく。普段の生活の中に、新たな気づきを見出すことを期待する。</p>							
<p>〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕</p> <p>①古今東西を問わず、各々のモチーフが表現された作品の具体例を確認し、その多様性の一端に触れるとともに、象徴的な意味を考えてみよう。美術のみならず、文学や音楽など他のジャンルにも、考察が深まることが望ましい。</p> <p>②世界史全体の流れのなかに世界美術史を位置づけ、その特質や意義を説明できるようにする。</p> <p>③DP2（教養の修得）を実現するため、歴史的思考力を養うことを目標とする。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	授業の概要 / 月のモチーフ ・神秘的な存在の月は古代神話の女神として、繰り返し描かれてきた。ルネサンス以降から、近現代の風景画に至るまで、月のモチーフの作例を検証する。			シラバスをよく読み、授業計画や概要を理解しておく。		60分	
第2回	虹のモチーフ ・虹は神との契約のしるし、天と地をつなぐ架け橋であると同時に、はかなさ故に移ろいの象徴でもあった。その多様性を振り返る。			テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネットを利用して、他の事例を確認する。		60分	
第3回	海を描く ・印象派の描いた海、あるいは象徴的な意味をもつ海景画など、さまざまな美術作品を取り上げる。			テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネットを利用して、他の事例を確認する。		60分	
第4回	動物（1）馬 ・古くから人間の身近にいた馬を描いた美術作品を紹介し、馬とどのように向きあってきたか検証する。			テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネットを利用して、他の事例を確認する。		60分	
第5回	動物（2）タカ / ワシ 猛禽類のワシは権力の象徴として、表現されることが多い。日本美術の作例を含めて紹介する。			テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネットを利用して、他の事例を確認する。		60分	
第6回	動物（3）ドラゴン / 竜 ・想像上の動物であるドラゴンは西洋では悪の象徴だが、中国では聖獣であり、皇帝のシンボルとなった。			テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネットを利用して、他の事例を確認する。		60分	
第7回	植物（1）ユリ / アイリス ・ユリやアイリスはキリスト教美術において、重要なモチーフだった。紋章の例や日本美術のカキツバタも含めて、その多様性を紹介する。			テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネットを利用して、他の事例を確認する。		60分	
第8回	植物（2）ヒマワリ ・ギリシア神話に基づく作品やゴッホの絵画を中心に、ヒマワリのモチーフを検証する。			テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネットを利用して、他の事例を確認する。		60分	
第9回	植物（2）樹木 ・人間は古くから樹木を育て、利用してきた。オリーブ、月桂樹、棕櫚（シュロ）を中心に、樹木のモチーフを取り上げる。			テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネットを利用して、他の事例を確認する。		60分	
第10回	楽器と音楽 さまざまな楽器のモチーフがもつ意味について、神話画から20世紀絵画にいたるまで検証する。			テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネットを利用して、他の事例を確認する。		60分	
第11回	手紙 / 本 / 読書 ・手紙や本は、風俗画の重要なモチーフであり、作品に象徴的な意味を添えてきた。17世紀オランダや近現代のフランスの作品を中心に紹介する。			テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネットを利用して、他の事例を確認する。		60分	
第12回	ダンスと身体表現 ・古代ギリシアの身体表現から、近現代のダンスの作例まで、幅広く取り上げる。			テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネットを利用して、他の事例を確認する。		60分	
第13回	眼りと夢 芸術家たちは「眼りと夢」をどのように描いてきたかを検証するとともに、夢の新しい解釈に基づく現代美術も紹介する。			テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネットを利用して、他の事例を確認する。		60分	
第14回	鉄道 ・19世紀初頭、ヨーロッパに登場した鉄道は人々の生活を一変するとともに、近代化の象徴として繰り返し描かれるようになった。その変遷をたどり、考察を深める。			テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネットを利用して、他の事例を確認する。		60分	
<p>〔授業の方法〕</p> <p>基本的にはオンデマンド形式のオンライン授業である。Course Power を利用して毎回の授業のレジュメとビデオを配信し、視聴後には内容に関するアンケートに回答してもらう。中間の報告レポート、および学期末には課題レポートの提出が必要である。</p>							
〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕							
〔課題等へのフィードバック方法〕							

授業終了後に提出するアンケートについて、次回授業の冒頭で全体の講評を行う。

〔成績評価の方法〕

アンケートを基にした平常点（30%）、および2回の課題レポート（合計70%）から、総合的に判断して評価する。単位認定には、3分の2以上の出席と期末の課題レポートの提出が必須条件である。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

一般的な世界史の知識が必要だが、必須ではない。

〔テキスト〕

特になし。

〔参考書〕

宮下規久朗著 『モチーフで読む西洋美術史』1&2 ちくま文庫 2013&15年
高階秀爾監修 増補新装 『カラー版：西洋美術史』 美術出版社 2002年初版
ジェイムズ・ホール 『西洋美術解説辞典』 河出書房新社 1988年初版
その他、テーマ毎に授業で随時紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

Course Power Q&A で質問や相談に回答する。

〔特記事項〕

講義名	芸術への招待<3>						
教員名	人見 伸子						
講義コード	120710530	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2026 後期 (オンライン)
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>古今東西の美術作品には、特定のモチーフが繰り返し描かれてきた。それは自然現象や天体、動植物、私たちの身の回りにある品々など多岐にわたり、年月を経て特別の意味をもつようになったものもある。この授業では特に人気があったモチーフを選び、時代や地域によって異なる意味や象徴性について、具体的な作品例をあげながら検証していく。普段の生活の中に、新たな気づきを見出すことを期待する。</p>							
<p>〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕</p> <p>①古今東西を問わず、各々のモチーフが表現された作品の具体例を確認し、その多様性の一端に触れるとともに、象徴的な意味を考えてみよう。美術のみならず、文学や音楽など他のジャンルにも、考察が深まることが望ましい。</p> <p>②世界史全体の流れのなかに世界美術史を位置づけ、その特質や意義を説明できるようにする。</p> <p>③DP2 (教養の修得) を実現するため、歴史的思考力を養うことを目標とする。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修 (予習・復習等)		準備学修の目安 (分)	
第1回	授業の概要 / 月のモチーフ ・神秘的な存在の月は古代神話の女神として、繰り返し描かれてきた。ルネサンス以降から、近現代の風景画に至るまで、月のモチーフの作例を検証する。			シラバスをよく読み、授業計画や概要を理解しておく。		60分	
第2回	虹のモチーフ ・虹は神との契約のしるし、天と地をつなぐ架け橋であると同時に、はかなさ故に移ろいの象徴でもあった。その多様性を振り返る。			テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネットを利用して、他の事例を確認する。		60分	
第3回	海を描く ・印象派の描いた海、あるいは象徴的な意味をもつ海景画など、さまざまな美術作品を取り上げる。			テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネットを利用して、他の事例を確認する。		60分	
第4回	動物 (1) 馬 ・古くから人間の身近にいた馬を描いた美術作品を紹介し、馬とどのように向きあってきたか検証する。			テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネットを利用して、他の事例を確認する。		60分	
第5回	動物 (2) タカ / ワシ 猛禽類のワシは権力の象徴として、表現されることが多い。日本美術の作例を含めて紹介する。			テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネットを利用して、他の事例を確認する。		60分	
第6回	動物 (3) ドラゴン / 竜 ・想像上の動物であるドラゴンは西洋では悪の象徴だが、中国では聖獣であり、皇帝のシンボルとなった。			テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネットを利用して、他の事例を確認する。		60分	
第7回	植物 (1) ユリ / アイリス ・ユリやアイリスはキリスト教美術において、重要なモチーフだった。紋章の例や日本美術のカキツバタも含めて、その多様性を紹介する。			テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネットを利用して、他の事例を確認する。		60分	
第8回	植物 (2) ヒマワリ ・ギリシア神話に基づく作品やゴッホの絵画を中心に、ヒマワリのモチーフを検証する。			テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネットを利用して、他の事例を確認する。		60分	
第9回	植物 (2) 樹木 ・人間は古くから樹木を育て、利用してきた。オリーブ、月桂樹、棕櫚 (シュロ) を中心に、樹木のモチーフを取り上げる。			テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネットを利用して、他の事例を確認する。		60分	
第10回	楽器と音楽 さまざまな楽器のモチーフがもつ意味について、神話画から20世紀絵画にいたるまで検証する。			テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネットを利用して、他の事例を確認する。		60分	
第11回	手紙 / 本 / 読書 ・手紙や本は、風俗画の重要なモチーフであり、作品に象徴的な意味を添えてきた。17世紀オランダや近現代のフランスの作品を中心に紹介する。			テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネットを利用して、他の事例を確認する。		60分	
第12回	ダンスと身体表現 ・古代ギリシアの身体表現から、近現代のダンスの作例まで、幅広く取り上げる。			テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネットを利用して、他の事例を確認する。		60分	
第13回	眠りと夢 芸術家たちは「眠りと夢」をどのように描いてきたかを検証するとともに、夢の新しい解釈に基づく現代美術も紹介する。			テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネットを利用して、他の事例を確認する。		60分	
第14回	鉄道 ・19世紀初頭、ヨーロッパに登場した鉄道は人々の生活を一変するとともに、近代化の象徴として繰り返し描かれるようになった。その変遷をたどり、考察を深める。			テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネットを利用して、他の事例を確認する。		60分	
<p>〔授業の方法〕</p> <p>基本的にはオンデマンド形式のオンライン授業である。Course Power を利用して毎回の授業のレジュメとビデオを配信し。視聴後には内容に関するアンケートに回答してもらう。中間の報告レポート、および学期末には課題レポートの提出が必要である。</p>							
〔パソコンに関する受講者への指示 (特別なソフトウェアのインストール等)〕							
〔課題等へのフィードバック方法〕							

授業終了後に提出するアンケートについて、次回授業の冒頭で全体の講評を行う。

〔成績評価の方法〕

アンケートを基にした平常点（30%）、および2回の課題レポート（合計70%）から、総合的に判断して評価する。単位認定には、3分の2以上の出席と期末の課題レポートの提出が必須条件である。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

一般的な世界史の知識が必要だが、必須ではない。

〔テキスト〕

特になし。

〔参考書〕

宮下規久朗著 『モチーフで読む西洋美術史』1&2 ちくま文庫 2013&15年
高階秀爾監修 増補新装 『カラー版：西洋美術史』 美術出版社 2002年初版
ジェイムズ・ホール 『西洋美術解説辞典』 河出書房新社 1988年初版
その他、テーマ毎に授業で随時紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

Course Power Q&A で質問や相談に回答する。

〔特記事項〕

講義名	カルチュラル・スタディーズ<1>						
教員名	清水 均						
講義コード	120710610	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2026 前期
<p>[テーマ・概要]</p> <p>「カルチュラル・スタディーズ=文化研究」はその根底に「文化を特定の歴史や社会状況における構築物としてとらえる問題意識」を持つ(本橋哲也『カルチュラル・スタディーズへの招待』大修館書店 2002年2月)。即ち、「文化」というものを静態的なもの(あるいは権威的なもの)として捉えるのではなく、時代や人間の営みのダイナミズムの中で生成する動態的なものとして捉えるということである。それゆえ、私たちは「文化」を特定の作品(名作)や高尚な趣味(エリートによる高級文化)に限定するのではなく、人々の「生活様式の総体=私たちが日々暮らしている生活のあり方そのもの」として捉える考え方が必要とされる。</p> <p>かつては「サブカルチャー」とみなされ、文字通り「サブ」扱いされていた(ポジティブにもネガティブにも)アニメやマンガといった文化領域が、メインカルチャーあるいはポップカルチャーとして「日本を代表する文化」という扱い方をされるようになって久しい。「文化」は私たちにとって何らかの価値や意味があるとされるが、特に、私たちの日々の営みと地続きに存在する「サブカルチャー/ポップカルチャー」は、意識的にも無意識的にも、あるいは好きでも嫌いでも、私たちの生活様式や生活感情そのものに価値や意味をもたらすものであり、私たちは嫌でもその強い影響下にあるといえる。その一方で、そうした文化環境にあって「文学」は「活字離れ」という一掃りの元でその地盤沈下がたびたび指摘されるが、では、現代の「文学」は「サブカルチャー/ポップカルチャー」から疎外された存在(=無関係)でいられるのであろうか?</p> <p>本講座では、「サブカルチャー/ポップカルチャー」を中心とする現代の文化状況を「カルチュラル・スタディーズ」の視点から俯瞰すると同時に、そうした文化状況における「文学」の立ち位置を、主に村上春樹において検証することとする。</p>							
<p>[科目内容を踏まえた到達目標の詳細]</p> <p>DP2(教養の修得)並びにDP3(課題の発見と解決)を実現するために以下の点を到達目標とする。</p> <p>①日本の現在の文化環境についての概要を知ることによって、現代人である私たちが、今どのような世界に存在しているのかを把握できる。</p> <p>②現代社会が戦後、特に高度経済成長期とバブル期を経てどのように形成されてきたかについて、主に「文化」の視点によってその歴史観を説明することができる。</p> <p>③私たちが生きる現代にあって、自らが他者や社会とどのように関わりながら生きていけるのかということのヒントを得ることができる。</p> <p>④様々な文化の中において現代日本文学は何を表現してきたのか、今後何を表現すべきなのかを見通すことができる。</p>							
[授業の計画と準備学修]							
回数	授業の計画・内容			準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)	
第1回	序、授業ガイダンス及びイントロダクション (1) 授業ガイダンス 授業内容、授業の進め方、成績評価等、この授業の概要を説明する。 (2) イントロダクション(導入) ①カルチュラル・スタディーズ:そもそも「文化」とはどのような概念なのか?			(予習) ・授業概要、授業計画について、事前にシラバスを確認しておく。 ※授業で使用する資料等を記載した詳細なコマシラバスを「第1回」の授業開始前に提示するので内容を確認しておく。 (復習) ・「コメントシート」の提出。 ・今日の授業の重要ポイントをまとめておき、「到達度確認レポート①」の作成をする。		60分~90分	
第2回	序、授業ガイダンス及びイントロダクション (2) イントロダクション(導入) ②「文化」を研究する方法:視点・物語(想像力/世界観・時代状況/世界のしくみ) ③戦後から現在に至る「文化変容」の分岐点を見定める。 ④テレビCMにおけるキャッチコピーの変遷 ⑤戦後~1980年代におけるキャッチコピーの変遷			(予習) ・Course Powerに掲示された授業資料を読んでおく。 (復習) ・「コメントシート」の提出。 ・今日の授業の重要ポイントをまとめておき、「到達度確認レポート①」の作成をする。		60分~90分	
第3回	I、高度経済成長の終焉前後-「個人主義」の拡張 *基礎知識:高度経済成長とはどのような時代だったのか/村上龍の問題提起 (1) 大衆音楽(ポピュラー音楽)の歌詞と時代性 ・高度経済成長期前後におけるフォークソングの歌詞の変容			(予習) ・Course Powerに掲示された授業資料を読んでおく。 (復習) ・「コメントシート」の提出。 ・今日の授業の重要ポイントをまとめておき、「到達度確認レポート①」の作成をする。		60分~90分	
第4回	I、高度経済成長の終焉前後-「個人主義」の拡張 (2) マンガ表現の変容:『巨人の星』から『タッチ』へ (3) 文化的ツールの変遷(ウォークマンの登場) (4) 村上春樹『風の歌を聴け』が描く「ディタッチメント」			(予習) ・Course Powerに掲示された授業資料を読んでおく。 (復習) ・「コメントシート」の提出。 ・今日の授業の重要ポイントをまとめておき、「到達度確認レポート①」の作成をする。		60分~90分	
第5回	II、バブルの崩壊前後-「自己の存在性」への問い *基礎知識:バブルとその崩壊 (1) 映画『バブルへGO!!』に見る「バブル期」の社会の様相 (2) 「虚構」というキーワード			(予習) ・Course Powerに掲示された授業資料を読んでおく。 (復習) ・「コメントシート」の提出。 ・今日の授業の重要ポイントをまとめておき、「到達度確認レポート①」の作成をする。		60分~90分	
第6回	II、バブルの崩壊前後-「自己の存在性」への問い (3) バブル期の村上春樹と女性作家(吉本ばなな・山田詠美)の時代性			(予習) ・Course Powerに掲示された授業資料を読んでおく。 (復習) ・「コメントシート」の提出。 ・今日の授業の重要ポイントをまとめておき、「到達度確認レポート①」の作成をする。		60分~90分	
第7回	II、バブルの崩壊前後-「自己の存在性」への問い (4) 1990年代の「言葉」 ①「応援ソング」と「詩的(人生訓的)フレーズ」の流行 ②J-POPの歌詞-Mr.Childrenの歌詞の変化			(予習) ・Course Powerに掲示された授業資料を読んでおく。 (復習) ・「コメントシート」の提出。 ・今日の授業の重要ポイントをまとめておき、「到達度確認レポート①」の作成をする。		60分~90分	
第8回	III、2000年代前後-「共生」「共同体」の形成 (1) 起点としての『新世紀エヴァンゲリオン』(引き籠もり系)から『デスノート』(決断主義系)へ			(予習) ・Course Powerに掲示された授業資料を読んでおく。 (復習) ・「コメントシート」の提出。		60分~90分	

		・今日の授業の重要ポイントをまとめておき、「到達度確認レポート①」の作成をする。	
第9回	Ⅲ、2000年代前後－「共生」「共同体」の形成 (2)「家族共同体」の見直しと劇場版『クレヨンしんちゃん・モーレツオトナ帝国の逆襲』 *昭和レトロブーム：「懐かしい」という感情の問題系 *「リセットすること」の可能性と不可能性：『時をかける少女』 *新しい「家族」の形の模索：ドラマ「ラストフレンズ」	(予習) ・Course Power に掲示された授業資料を読んでおく。 (復習) ・「コメントシート」の提出。 ・今日の授業の重要ポイントをまとめておき、「到達度確認レポート①」の作成をする。	60分～90分
第10回	IV、『3. 11』前後－「システム」の問題系 (1) 村上春樹「エルサレム賞受賞スピーチ」と伊坂幸太郎『モダンタイムス』の時代的共振	(予習) ・Course Power に掲示された授業資料を読んでおく。 ・「到達度確認レポート②」の準備。 (復習) ・「コメントシート」の提出。 ・今日の授業の重要ポイントをまとめておき、「到達度確認レポート①」の作成をする。	60分～90分
第11回	IV、『3. 11』前後－「システム」の問題系 (2) 村上春樹『1Q84』を読む	(予習) ・Course Power に掲示された授業資料を読んでおく。 ・「到達度確認レポート②」の準備。 (復習) ・「コメントシート」の提出。 ・今日の授業の重要ポイントをまとめておき、「到達度確認レポート①」の作成をする。	60分～90分
第12回	IV、『3. 11』前後－「システム」の問題系 (3) 『魔法少女まどか☆マギカ』と『PSYCHO-PASS』	(予習) ・Course Power に掲示された授業資料を読んでおく。 ・「到達度確認レポート②」の準備。 (復習) ・「コメントシート」の提出。 ・今日の授業の重要ポイントをまとめておき、「到達度確認レポート①」の作成をする。	60分～90分
第13回	IV、『3. 11』前後－「システム」の問題系 (4) 3.11を描く：『シン・ゴジラ』と新海誠アニメ	(予習) ・Course Power に掲示された授業資料を読んでおく。 ・「到達度確認レポート②」の準備。 (復習) ・「コメントシート」の提出。 ・今日の授業の重要ポイントをまとめておき、「到達度確認レポート①」の作成をする。	60分～90分
第14回	V、コロナ禍前後－コロナ禍は何をもたらしたのか (1) 村上春樹と短歌・推し活・Vtuber (2) AI と他者との関係性	(予習) ・Course Power に掲示された授業資料を読んでおく。 ・「到達度確認レポート②」の準備。 (復習) ・「コメントシート」の提出。 ・今日の授業の重要ポイントをまとめておき、「到達度確認レポート①」の作成をする。	60分～90分
<p>〔授業の方法〕</p> <p>・授業は講義形式で実施する。ただし、可能な限り受講生の考えや感想を共有するために、Course Power のアンケート機能を利用して毎回その回の授業についてのコメントシートの記述、提出を求め、その結果を翌回の授業内でフィードバックする。</p> <p>・授業で使用する資料等は事前に Course Power に掲示しておくので、各自授業時までダウンロードしておいてほしい。また、授業で使用する「資料」とともに「授業計画の詳細」を授業スタート時に Course Power にアップロードしておくので、そちらも合わせて参照した上で初回の授業に臨んでほしい。</p>			
<p>〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕</p> <p>PDF を利用出来るようにしておいてほしい。</p>			
<p>〔課題等へのフィードバック方法〕</p> <p>上記の「授業の方法」の中で示した「コメントシート」において、提出後に全員分を Excel で表にまとめ、Course Power に「資料」として掲示するとともに（受講生氏名は公表しない）、次の授業回の冒頭にこの「資料」に基づき口頭でフィードバックを行う。合わせて、他の受講生が記述したコメントや質問を全員で共有することを通じて、前回の授業内容の振り返りとその回の授業内容への導入を行う。</p>			
<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>平常点のみで評価する。</p> <p>○内容：「コメントシート」の提出状況に対して 50% ：「到達度確認レポート①」に対して 25% ：「到達度確認レポート②」に対して 25%</p> <p>○「到達度確認レポート①②」それぞれの課題内容は以下の通りである。</p> <p>・「到達度確認レポート①」：各回の授業内容のまとめを記述する。（復習） ・「到達度確認レポート②」：課題内容は授業の中で提示する。（応用）</p> <p>注記：「到達度確認レポート」は①②ともに必ず「Word」か「PDF」で提出すること。</p>			
<p>〔成績評価の基準〕</p> <p>成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 38, 39.</p> <p>以下の点に着目して、その達成度に応じて評価する。</p> <p>①「コメントシート」：提出をもって実質的な授業出席とし、提出回数を点数化（50 点換算）する。当該授業の内容に対して、自らの見解や感想、疑問、質問等がよくまとめられていることが求められる。個々の見解については、内容が充実しているものに対してプラス点を与える。</p> <p>②「到達度確認レポート①」：各回の授業内容を把握し、理解できていることが求められる。</p> <p>③「到達度確認レポート②」：課題内容を適切に理解した上で「作品」等の分析と考察が行き届いていることが求められる。</p> <p>注記：「到達度確認レポート」は①と②の両方を提出すること。片方のレポートの提出のみでは成績評価の対象外となる。</p>			
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕</p> <p>特にないが、「文化（特にサブカルチャー）」「文学」に関する興味関心を持ってほしい。</p>			
〔テキスト〕			

特に指定するものはない。随時、資料を **Course Power** にアップロードする。

〔参考書〕

適切であると思われるものについては授業時に紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

CoursePower の「質問」機能を利用するとともに、コメントシートに書かれた質問に対しては上記「フィードバックの方法」に記したように **Course Power** によって答える。また、メールでも受け付ける。
※メールアドレス：s10393@cc.seikei.ac.jp

〔特記事項〕

講義名	カルチュラル・スタディーズ<2>						
教員名	塩谷 昌之						
講義コード	120710620	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2026 後期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>この科目では、身近にあるさまざまな文化を理解し、分析・解釈するための知識と作法を学んでいく。カルチュラル・スタディーズということばには、文化の研究という意味合いのみにとどまらない固有の歴史がある。そこには文化現象の背景にある支配的な権力関係への意識と、カウンターカルチャーとしてそれらに対抗するような姿勢が見える。この対抗性への注目は、一見すると従属的であるように思える、ごく普通の人々のもつ文化の価値を際立たせることになった。</p> <p>正統的で伝統的な文化とは異なる、われわれ自身の文化に注目すること。それは身近な生活のなかに点在する文化に面白みを見出すことにつながり、現代ではメディア環境の整備を通じて、さらにその魅力が増している。授業では文化人類学的な議論にも少々触れながら、ストリートの文化、サブカルチャー、ポストコロニアリズム、ファン文化、参加型文化、限界芸術などについて、具体的なトピックや先行研究の分析視角に触れながら学修していく。</p>							
<p>〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕</p> <p>DP2【教養の修得】およびDP3【課題の発見と解決】を実現するため、以下のような到達目標を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化をめぐる様々なことばと概念を理解し、身近な文化現象に向き合うための知識を身に付ける。 ・身近にある文化現象を適切に分析・解釈するための諸作法を身に付ける。 							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	イントロダクション			【復習】配布した資料を参考に、興味関心をもったテーマを自ら深めていく。		120	
第2回	文化という概念			【復習】配布した資料を参考に、興味関心をもったテーマを自ら深めていく。		120	
第3回	文化とブリコラージュ			【復習】配布した資料を参考に、興味関心をもったテーマを自ら深めていく。		120	
第4回	文化と階級			【復習】配布した資料を参考に、興味関心をもったテーマを自ら深めていく。		120	
第5回	文化と大衆			【復習】配布した資料を参考に、興味関心をもったテーマを自ら深めていく。		120	
第6回	文化の送り手と受け手			【復習】配布した資料を参考に、興味関心をもったテーマを自ら深めていく。		120	
第7回	文化の対抗性①			【復習】配布した資料を参考に、興味関心をもったテーマを自ら深めていく。		120	
第8回	文化の対抗性②			【復習】配布した資料を参考に、興味関心をもったテーマを自ら深めていく。		120	
第9回	文化とファン①			【復習】配布した資料を参考に、興味関心をもったテーマを自ら深めていく。		120	
第10回	文化とファン②			【復習】配布した資料を参考に、興味関心をもったテーマを自ら深めていく。		120	
第11回	文化と密猟			【復習】配布した資料を参考に、興味関心をもったテーマを自ら深めていく。		120	
第12回	文化と限界芸術			【復習】配布した資料を参考に、興味関心をもったテーマを自ら深めていく。		120	
第13回	文化と快楽			【復習】配布した資料を参考に、興味関心をもったテーマを自ら深めていく。		120	
第14回	まとめ			【復習】配布した資料を参考に、興味関心をもったテーマを自ら深めていく。		120	
<p>〔授業の方法〕</p> <p>配布した資料および、スライドを用いて講義を行う。補足的に CoursePower を利用する。</p>							
〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕							
<p>〔課題等へのフィードバック方法〕</p> <p>毎回の授業終了後にコメントシートを回収し、次回授業の冒頭で取り扱うことで、フィードバックを行う。</p>							
〔成績評価の方法〕							

授業への意欲 50%
授業後に回収するコメントシートをもって評価する。
期末レポート 50%
レポートの評価基準については授業内で提示する。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
履修に際して、条件は設定しない。

〔テキスト〕
テキストや参考書は事前に指定せず、関連する資料等は授業ごとに適宜紹介する。

〔参考書〕
テキストや参考書は事前に指定せず、関連する資料等は授業ごとに適宜紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業終了後に教室で受け付ける。

〔特記事項〕

講義名	カルチュラル・スタディーズ<3>						
教員名	宮入 恭平						
講義コード	120710630	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2026 前期
<p>[テーマ・概要] カルチュラル・スタディーズは、わたしたちにとって身近な文化（ポピュラー文化）に注目しながら、学際的なアプローチをとまなう考察によって、日常生活の問題や課題を分析してきた。この授業では、ポピュラー文化の代表的な存在であるポピュラー音楽に焦点を当てながら、社会、経済、政治や文化との関係に着目しつつ、カルチュラル・スタディーズの視座から日常生活の問題や課題を読み解く作業を試みる。</p>							
<p>[科目内容を踏まえた到達目標の詳細] DP2（教養の習得）、DP3（課題の発見と解決）を実現するために、以下の3点を到達目標とする。 ・ポピュラー音楽と社会、経済、政治や文化との関連について、批判的な視座から読み解くことができる。 ・国内外のポピュラー音楽文化をとおして、カルチュラル・スタディーズの視座を理解することができる。 ・カルチュラル・スタディーズの視座から、日常生活の問題や課題について分析することができる。</p>							
[授業の計画と準備学修]							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	イントロダクション			シラバス、資料を確認する		60分	
第2回	カルチュラル・スタディーズとは何か			資料を確認する		60分	
第3回	コード化/脱コード化（メディア）			教科書、資料を確認する		60分	
第4回	文化産業（産業）			教科書、資料を確認する		60分	
第5回	クラブカルチャー（法律）			教科書、資料を確認する		60分	
第6回	カウンターカルチャー（政治）			教科書、資料を確認する		60分	
第7回	周縁からのまなざし（アイデンティティ）			教科書、資料を確認する		60分	
第8回	ポピュラー音楽（教育）			教科書、資料を確認する		60分	
第9回	ゴシップと人権（アイドル）			教科書、資料を確認する		60分	
第10回	クールジャパン（アニソン）			教科書、資料を確認する		60分	
第11回	真正性（ツーリズム）			教科書、資料を確認する		60分	
第12回	ストリートの思想（ストリート）			教科書、資料を確認する		60分	
第13回	日本のカルチュラル・スタディーズ（レジャー）			教科書、資料を確認する		60分	
第14回	まとめ			教科書、資料を確認する		60分	
<p>[授業の方法] 教科書と資料をもとに、パワーポイントによる映像や音楽を用いながら講義形式で進めます。</p>							
[パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）]							
[課題等へのフィードバック方法]							
<p>[成績評価の方法] リアクションペーパー（50%）、学期末レポート（50%）</p>							

<p>〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.</p>
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕</p>
<p>〔テキスト〕 『ライプカルチャーの教科書』、宮入恭平、青弓社、2,000 円、4787274228</p>
<p>〔参考書〕 特になし</p>
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知します。 また、授業終了後に教室で受け付けます。</p>
<p>〔特記事項〕</p>

講義名	カルチュラル・スタディーズ<4>						
教員名	北小路 隆志						
講義コード	120710640	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2026 後期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>テーマは、映画の「分析的な見方」を学ぶことです。そのうえで、映画についての「批評」を、対象となる作品の独自性のみならず、できれば、それを発見する論者（＝皆さん）自身の独自性も発揮しつつ執筆してもらうことを目指します。その狙いは以下の通りです。誰もが、多かれ少なかれ日常的に映画に接し、よほど難解で特殊な作品でもない限り、その内容を理解できるはずですが、皆さんは本当に映画を《見る》や《聴く》ができていますか。たとえば、単に物語の内容や主演俳優の容姿に一喜一憂したり、そこで提起される「主題」に共感、もしくは違和感を覚えたりしているだけではないでしょうか。映画は、長い時間をかけて「物語」を語るためのさまざまな技法（文法）を身につけ、洗練させていく一方で、それらの解体を目論むかのような実験もあわせて推進させてきています。そしてその「文法」は、「動画」が溢れかえる現在にあってもなおさまざまな視覚表現の規範となっているのです。この授業では、(物語の)「内容」の受容に傾きがちなわたしたちの映画鑑賞のあり方に疑問を呈し、(物語の)「形式」(語り方や映画技法、技術的側面、文法)に焦点を当てた(分析的な)鑑賞法について学びます。そして、そこでの「学び」を基盤に映画批評の執筆に挑戦してもらいます。</p>							
<p>〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕</p> <p>DP2(教養の修得)を実現するため、 現在もお視聴覚表現の規範となっている映画の基本的な技法や基礎的な歴史を学び、現代社会を生きるうえで必要不可欠な視聴覚的なリテラシーを獲得する。 DP3(課題の発見と解決)を実現するため、 上記の教養の修得を通じ、現代社会が抱える(視聴覚的な情報や物語に関わる)課題を意識し、解決に向けた考察を始めることができる。 DP4(表現力、発信力)を実現するため、 映画に対する分析的な鑑賞法を、映画批評の執筆を通じて実践に移し、その作品独自の「演出」(＝魅了)を明らかにすることができる。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容	準備学修(予習・復習等)				準備学修の目安(分)	
第1回	ガイダンス ・授業の概要や狙い、進め方について説明する。 ・参加者各自に、これまで抱えてきた映画観について発表を求め、検討する。 ・授業概要を要約するイントロダクション的な講義。	・シラバスの内容を読み込み、あらかじめ授業内容を把握する。 ・各自の映画観(これまでどのような映画を見てきたか、どんな映画が好きか、それはなぜか、など)をまとめておくこと。 ・授業で紹介した映画全編の鑑賞。				90	
第2回	フレームと「平面性」について① ・映画の基本的性格をめぐる考察として、その平面性とフレームによる限定について学ぶ。	・授業で習った内容の確認と理解。 ・関連資料の読み込みと理解しにくい箇所の下調べ。 ・授業で紹介した映画全編の鑑賞。				90	
第3回	フレームと「平面性」について② ・前回の授業内容の続きと応用。具体的な作品分析を通じ、関連するさまざまな演出法やフレームの形態について学ぶ。	・授業で習った内容の確認と理解。 ・関連資料の読み込みと理解しにくい箇所の下調べ。 ・授業で紹介した映画全編の鑑賞。				90	
第4回	映画の「現実感」について ・なぜ映画は独自の「現実感」を備え、それがどのようなかたちで作品で言及されてきたか。	・授業で習った内容の確認と理解。 ・関連資料の読み込みと理解しにくい箇所の下調べ。 ・授業で紹介した映画全編の鑑賞。				90	
第5回	画面と画面外空間について① ・画面とは何か、画面外空間とは何か。画面外空間はいかにして創出されるのか。	・授業で習った内容の確認と理解。 ・関連資料の読み込みと理解しにくい箇所の下調べ。 ・授業で紹介した映画の鑑賞。				90	
第6回	画面と画面外空間について② ・絵画と映画のフレームの差異。 ・画面外空間を使った演出とその分析。	・授業で習った内容の確認と理解。 ・関連資料の読み込みと理解しにくい箇所の下調べ。 ・授業で紹介した映画全編の鑑賞。				90	
第7回	ショットの概念① ・空間から時間へ。 ・ショットの定義をめぐって。	・授業で習った内容の確認と理解。 ・関連資料の読み込みと理解しにくい箇所の下調べ。 ・授業で紹介した映画全編の鑑賞。				90	
第8回	ショットの概念② ・ショット・サイズによる分類法。クロースアップから遠景ショットまで。	・授業で習った内容の確認と理解。 ・関連資料の読み込みと理解しにくい箇所の下調べ。 ・授業で紹介した映画全編の鑑賞。				90	
第9回	ショットの概念③ ・ショットとカメラの動き、そして時間。 ・「問題」としてのショット・シークエンス。	・授業で習った内容の確認と理解。 ・関連資料の読み込みと理解しにくい箇所の下調べ。 ・授業で紹介した映画全編の鑑賞。				90	
第10回	聴覚的表象としての映画① ・映画におけるサウンドの分類法。	・授業で習った内容の確認と理解。 ・関連資料の読み込みと理解しにくい箇所の下調べ。 ・授業で紹介した映画全編の鑑賞。				90	
第11回	聴覚的表象としての映画② ・映画におけるサウンドの活用法、演出法の具体的な解説。	・授業で習った内容の確認と理解。 ・関連資料の読み込みと理解しにくい箇所の下調べ。 ・授業で紹介した映画全編の鑑賞。				90	
第12回	モンタージュ(編集)の概念① ・モンタージュとは何か。それが映画にとっていかに重要で、だからこそ、論争的となってきたか。	・授業で習った内容の確認と理解。 ・関連資料の読み込みと理解しにくい箇所の下調べ。 ・授業で紹介した映画の全編鑑賞。				90	
第13回	モンタージュ(編集)の概念② ・モンタージュをめぐる2つのイデオロギーを通して、映画理論を整理する。	・授業で習った内容の確認と理解。 ・関連資料の読み込みと理解しにくい箇所の下調べ。 ・授業で紹介した映画全編の鑑賞。				90	
第14回	「まとめ」 ・授業全体の振り返りと、期末レポート執筆に向けての説明や質疑。	・授業で習った内容の確認と理解。 ・授業で紹介した映画全編の鑑賞。 ・期末レポートに向けた準備				120	
<p>〔授業の方法〕</p> <p>・講義や参考資料の読解を中心に進めつつ、適宜、関連する映画の(主として部分的な)上映も行う。もちろん、授業の一環としての上映であり、そもそも映画についての授業である以上、真摯な態度での鑑賞が必要で、受講者には積極的な態度での参加を求める。また、授業で使用したり言及された映画の全編を、可能な範囲で自主的に鑑賞してもらいたい。なお、授業の理解度や授業に臨むうえでの積極性などを確認するために、授業中に意見を求めたり、質問したりするが、積極的な応答を期待する。課題レポートを実施する場合もある。</p>							

・期末レポート：授業や参考資料での学習を通し、映画の基本的な技法について理解できているか。また、それを具体的に応用し、文章化できるか、さらにできれば、そこにオリジナルな発想を加えることができるかを確認する。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕

課題を出す場合、授業内で講評や解説などのフィードバックを行う。

〔成績評価の方法〕

期末レポート 60%、平常点（授業への参加状況や課題レポートの提出状況）40%による総合評価。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 38, 39.

①現在もお聴覚表現の規範となっている映画の基本的な技法を学び、より分析的な映画（映像）鑑賞法（理論）を身につけることができているか。

②上記の分析的な鑑賞法（理論）を、映画批評の執筆を通じて実践に移し、その作品独自の「演出」（＝魅了）を明らかにすることができるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特になし。

〔テキスト〕

特になし。

〔参考書〕

「映画理論講義」（J・オーモン他著、武田潔訳、勁草書房）。その他の参考資料が発生した場合も含め、授業内で使用する分については、CoursePower に掲載、もしくは印刷して配布するなどします（「購入の必要なし」）。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

講義名	現代のマスメディア						
教員名	小林 正幸						
講義コード	120720610	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2026 前期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>テーマ:「よく生きる」ことからマスメディアについて考える</p> <p>わたしたちは好むと好まざるとにかかわらず、日々マスメディアによって発信される膨大な情報にさらされている。当たり前ですが、我々が「よく生きる」ためにマスメディアがあります。ですから「よく生きる」という地点から、現在のマスメディアの実現を理解する必要があります。</p> <p>その現実、マスメディアに関する理論や概念からアプローチできます。当然急速に発展してきたソーシャルネットワークの現実についても同様です。</p> <p>我々はマスメディアが「よく生きる」ことに反していれば、どのような姿勢をもって臨むべきなのか。いま現実に生活をしている社会そのものに関心を持ちながら、毎回の授業に臨んでください。</p>							
<p>〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕</p> <p>DP2(教養の修得)を実現するため、以下を到達目標とする。</p> <p>①マスメディアが果たしている役割を理解し、他人と知識交換をしながらきちんと説明できる。</p> <p>②マスメディアの功罪と展望を説明できる。</p> <p>③ソーシャルネットワークの展望について、的確に理解し、説明できる。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)	
第1回	インTRODククション ・授業の内容、その進め方、予習・復習の仕方などを説明する。 ・メディアとは何なのか、その本質について解説します。			【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】授業の進め方などを確認する。		60	
第2回	マスメディアとは何か ・マスメディアの定義、特徴を解説する。 ・自明とされるマスメディアに対する理解に軌を入れます。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第3回	・マスメディアの本質 この授業でのマスメディアの本質を位置付けます。マスメディアによって伝達される情報が事実ではないことを確認します。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第4回	・マスメディアはPR機関 ここでは近代になってからのマスメディアが果たして来た役割がPRにあることを解説します。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第5回	・メディアリテラシー1 教科書的なメディアリテラシーの考え方を解説し、そこに留まってはいけないことを考えます。大切なのは自身のリテラシーを重ねることです。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第6回	・メディアリテラシー2 具体的な事例を取り上げて、メディアの記事や映像について、本講義のメディアリテラシーの考え方を適応して見ます。			【予習】これまでの授業で学修してきたことを、自分の言葉で解説することができるようにしておく。		90	
第7回	・メディアリテラシー3 具体的な事例を取り上げて、メディアの記事や映像について、本講義のメディアリテラシーの考え方を適応して見ます。これら事例の分析から、教養の重要性を確認します。			【予習】前々回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		120	
第8回	・中間テスト(小テスト) これまでの講義における考え方、理論や概念を確認するための試験を行います。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第9回	・産業としてのマスメディア 経済の三主体「政府・家計・企業」という図式から導かれるマスメディアの位置付け、その政治的立場がどうあるべきか解説する。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第10回	企業戦略とマスメディア ・マスメディアを利用して商品宣伝を行ってきた企業戦略がどのように変化してきているかを考察する。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第11回	マスメディアと政治と民主主義 ・政治に及ぼすマスメディアの果たす役割を解説する。 ・民主主義に関する理論とその特徴を解説する。 ・マスメディアによって政治意識は変化するかどうかについての問題を考察する。 ・マスメディアと政治の良好な関係を探る。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第12回	・マスコミュニケーション研究を概説する1 マスメディアの機能や役割については学術的蓄積がある。ここでは、具体的な例をあげ強力効果説から限定効果説への流れを歴史的に押さえておく。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第13回	・マスコミュニケーション研究を概説する2 マスメディアの機能や役割については学術的蓄積がある。ここでは前回の講義を踏まえ、具体的な例をあげ新強力効果説について解説する。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第14回	総括として ・メディアと呪術性について これまでの授業をふり返り、マスメディアやインターネットでの炎上や社会問題について問題を提起する。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	

<p>〔授業の方法〕</p> <p>基本的に、配布プリントなどをもとに、内容を詳説していく講義形式で行う。 随時授業の中で、与えられた課題に対する解答／コメントを作成する。特にリアクションペーパーを提出してもらう。 授業は以下のような流れになる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 教員による講義 2 教員による次回講義のテーマや考えておくことを提示する。 <p>→</p> <ol style="list-style-type: none"> 3 講義の復習（ここが一番大切です。その理由は最初の講義で説明します） 4 次回のテーマについての自習 <p>→</p> <ol style="list-style-type: none"> 5 そのテーマに沿った教員による講義 <p>ただ講義は生き物ですから、皆さんの反応などから逸脱しない程度のやりくりはします。</p>
<p>〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕</p>
<p>〔課題等へのフィードバック方法〕</p> <p>講義時間内に質問があれば、当然してほしい。質問があることから、皆さんの理解度を教員は想像できるし、講義が活性化するからです。</p>
<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>随時行う課題への解答／コメントやリアクションペーパー（15%）、中間テスト（15%）、最終試験（70%）による総合評価を基本とし、質問など授業への積極的な参加をプラスに評価する。</p>
<p>〔成績評価の基準〕</p> <p>成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。 次の点に着目し、その達成度によって評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①基礎的なキーワード、鍵概念の的確な理解。 ②マスメディアの功罪を通して、現代社会を見通す深い理解力。 ③試験において、講義が活かされている解答をしていること。
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕</p> <p>特になし。</p>
<p>〔テキスト〕</p> <p>小林正幸『メディアリテラシーの倫理学』風塵社</p>
<p>〔参考書〕</p> <p>授業で適宜指示をする。</p>
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕</p> <p>授業終了後に教室で受け付けます。</p>
<p>〔特記事項〕</p>

講義名	社会心理学入門<1>						
教員名	後藤 伸彦						
講義コード	120720710	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2026 前期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>社会心理学とは、「社会」的状況における人の「心理」について学び、研究する学問です。ここでいう「社会」的状況とは他者がいる状況を指します。他者は1人の時であれば、複数の時もあります。例えば、あなたは他人と一緒にいるときと友人といるときで、振る舞いや考え、物事の感じ方が変わりますか？また大学や日本人の一員だと感じる時に変わりますか？これらのことについて研究を行い、今も日々世界中で研究が行われているのが社会心理学です。本講義では、自己や他者の見方（認知、ステレオタイプ）、感じ方（感情）、また他者に対する振る舞い（偏見、差別）などについて扱います。またそのような心が「文化」というより大きな文脈によってどのように影響を受けているのかについて考えます。そしてこれらについての学びを通じて、社会心理学的視点から日々の生活を捉え直すことを目指します。</p>							
<p>〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕</p> <p>(1) 個人の認知（バイアス）、集団の中での個人の意思決定、対人的な相互作用などの社会心理学的な現象を検討するための科学的な手法について理解することができる（DP 2）</p> <p>(2) 我々がどのようなバイアスを持っているかや、我々が他者から暗黙のうちにもどのような影響を受けているのかについて理解することができる（DP 2）</p> <p>(3) 社会心理学の考え方をもとに自分や他者の言動を分析・理解し、その言動がどのようなメカニズムで生じているのかについて理解したり仮説を立てたりすることができる（DP 2・DP 3）。</p> <p>(4) 上記の内容について、自分の言葉で他の人に伝えたり、他の人の意見を聞くことができる（DP 4・DP 5）。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	○イントロダクション ・本講義で扱う内容及び社会心理学で扱う現象について理解する			【予習】 ・シラバスを読んで、本講義の概要について掴む 【復習】 ・自分のアイデアを確かめるための社会心理学的な方法論について理解する		60分	
第2回	○社会心理学の研究法 ・社会心理学の方法論について理解する ・社会心理学の研究を理解する上で必要となる基礎的な用語について理解する			【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する		60分	
第3回	○偏見・ステレオタイプ ・我々が持つ偏見やステレオタイプについて理解する。 ・偏見を測定するための手法について理解する ・どのような状況で偏見を強く持たれるのかについて理解する			【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する		60分	
第4回	○他者に対する認知 ・我々が他者および自己の行動をどのように解釈するのかについて理解する。 ・他者の行動の認知におけるバイアスが、集団レベルでどのような現象をもたらすのかについて理解する			【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する		60分	
第5回	○ステレオタイプの影響 ・我々はステレオタイプを持っているだけでなく、それいかに影響を受けているのかについて理解する ・またステレオタイプがいかに維持されていくかについて理解する			【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する		60分	
第6回	○感情・情動 ・感情と気分、情動の違いについて理解する。 ・情動と認知の関係について理解する ・情動の測定方法について理解する			【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する		60分	
第7回	○感情・気分 ・感情と気分の違いについて理解する。 ・気分が我々の認知に与える影響について理解する			【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する		60分	
第8回	○中間テスト ・第2回から第7回までに学んだ内容を振り返る ・概念の違いについてよく理解できているかを確認する			【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する		60分	
第9回	○態度 ・態度の種類、機能について理解する ・我々が持つ態度が以下に行動と結びついたり結びつかなかったりするかを理解する			【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する		60分	
第10回	○対人魅力 ・対人関係に影響する魅力の要因について理解する ・対人関係における様々な不安の違いについて理解する			【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する		60分	
第11回	○集合現象 ・災害時の避難行動現象について理解する ・うわさの機能について理解する			【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する		60分	
第12回	○健康 ・ストレスの影響について理解する ・ストレスの対処（コーピング）や社会的サポートの影響について理解する			【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する		60分	
第13回	○文化 ・思考や認知についてどのような文化差があるかを理解する ・個人主義および集団主義とは何か、およびその影響について理解できる			【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する		60分	

第14回	<p>○まとめと振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学期を通じて学んだ概念や研究法について確認する ・それぞれの違いや影響について全体を俯瞰して振り返る 	<p>【復習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する 	60分
<p>〔授業の方法〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業は対面で行う。 ・授業形式は PowerPoint を用いた講義形式を基本とする。 ・社会心理学の手法および概念についての理解を深めるために、簡単な社会心理学実験への参加（体験）やアンケートへの回答を求めることがある。ただし、回答は強制せず、回答の内容は評価に含めない。 			
<p>〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕</p> <p>授業のノートは配布された PDF にデバイス上で書き込むのが便利なので、PDF に書き込む方法等についてはあらかじめ各自で確認し、慣れておいてください。PC であればブラウザを用いて書き込むことができます。</p>			
<p>〔課題等へのフィードバック方法〕</p> <p>毎授業の合間に、前回の授業に対する質問に回答します。</p>			
<p>〔成績評価の方法〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平常点（ミニテスト等の提出状況）：40% ・試験：60% 			
<p>〔成績評価の基準〕</p> <p>成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 試験、ミニテストについては、下記の観点から評価する予定である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会心理学の方法論について理解しているか。 ・社会心理学の諸概念を正しく理解しているか。 ・社会現象を社会心理学の観点から解釈できているか。 <p>平常点については下記の観点から評価する予定である。</p>			
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕</p> <p>授業で指示</p>			
<p>〔テキスト〕</p> <p>購入の必要なし：</p> <p>『社会心理学 補訂版』、池田謙一・唐沢穰・工藤恵理子・村本由紀子、有斐閣、3,520 円</p> <p>『社会心理学概論』、北村 英哉・内田 由紀子 編、ナカニシヤ、3,850 円</p>			
<p>〔参考書〕</p> <p>いずれも購入の必要なし：</p> <p>『個人のなかの社会 〔展望 現代の社会心理学 1〕』 浦光博・北村英哉編著、誠信書房、4840 円</p> <p>『コミュニケーションと対人関係 〔展望 現代の社会心理学 2〕』、相川充・高井次郎編著、誠信書房、4400 円</p> <p>『社会と個人のダイナミクス 〔展望 現代の社会心理学 3〕』、唐沢穰・村本由紀子編著、誠信書房、4620 円</p>			
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕</p> <p>ポータルサイトで周知します。また、授業終了後に教室で受け付けます。</p>			
<p>〔特記事項〕</p>			

講義名	社会心理学入門<2>						
教員名	後藤 伸彦						
講義コード	120720720	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2026 後期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>社会心理学とは、「社会」的状況における人の「心理」について学び、研究する学問です。ここでいう「社会」的状況とは他者がいる状況を指します。他者は1人の時であれば、「複数」の時もあります。例えば、あなたは他人と一緒にいるときと友人といるときで、振る舞いや考え、物事の感じ方が変わりますか？また大学や日本人の一員だと感じる時に変わりますか？これらのことについて研究を行い、今も日々世界中で研究が行われているのが社会心理学です。本講義では、自己や他者の見方（認知、ステレオタイプ）、感じ方（感情）、また他者に対する振る舞い（偏見、差別）などについて扱います。またそのような心が「文化」というより大きな文脈によってどのように影響を受けているのかについて考えます。そしてこれらについての学びを通じて、社会心理学的視点から日々の生活を捉え直すことを目指します。</p>							
<p>〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕</p> <p>(1) 個人の認知（バイアス）、集団の中での個人の意思決定、対人的な相互作用などの社会心理学的な現象を検討するための科学的な手法について理解することができる（DP 2）</p> <p>(2) 我々がどのようなバイアスを持っているかや、我々が他者から暗黙のうちにもどのような影響を受けているのかについて理解することができる（DP 2）</p> <p>(3) 社会心理学の考え方をもとに自分や他者の言動を分析・理解し、その言動がどのようなメカニズムで生じているのかについて理解したり仮説を立てたりすることができる（DP 2・DP 3）。</p> <p>(4) 上記の内容について、自分の言葉で他の人に伝えたり、他の人の意見を聞くことができる（DP 4・DP 5）。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	○イントロダクション ・本講義で扱う内容及び社会心理学で扱う現象について理解する			【予習】 ・シラバスを読んで、本講義の概要について掴む 【復習】 ・自分のアイデアを確かめるための社会心理学的な方法論について理解する		60分	
第2回	○社会心理学の研究法 ・社会心理学の方法論について理解する ・社会心理学の研究を理解する上で必要となる基礎的な用語について理解する			【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する		60分	
第3回	○偏見・ステレオタイプ ・我々が持つ偏見やステレオタイプについて理解する。 ・偏見を測定するための手法について理解する ・どのような状況で偏見を強く持たれるのかについて理解する			【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する		60分	
第4回	○他者に対する認知 ・我々が他者および自己の行動をどのように解釈するのかについて理解する。 ・他者の行動の認知におけるバイアスが、集団レベルでどのような現象をもたらすのかについて理解する			【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する		60分	
第5回	○ステレオタイプの影響 ・我々はステレオタイプを持っているだけでなく、それいかに影響を受けているのかについて理解する ・またステレオタイプがいかに維持されていくかについて理解する			【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する		60分	
第6回	○感情・情動 ・感情と気分、情動の違いについて理解する。 ・情動と認知の関係について理解する ・情動の測定方法について理解する			【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する		60分	
第7回	○感情・気分 ・感情と気分の違いについて理解する。 ・気分が我々の認知に与える影響について理解する			【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する		60分	
第8回	○中間テスト ・第2回から第7回までに学んだ内容を振り返る ・概念の違いについてよく理解できているかを確認する			【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する		60分	
第9回	○態度 ・態度の種類、機能について理解する ・我々が持つ態度が以下に行動と結びついたり結びつかなかったりするかを理解する			【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する		60分	
第10回	○対人魅力 ・対人関係に影響する魅力の要因について理解する ・対人関係における様々な不安の違いについて理解する			【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する		60分	
第11回	○集合現象 ・災害時の避難行動現象について理解する ・うわさの機能について理解する			【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する		60分	
第12回	○健康 ・ストレスの影響について理解する ・ストレスの対処（コーピング）や社会的サポートの影響について理解する			【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する		60分	
第13回	○文化 ・思考や認知についてどのような文化差があるかを理解する ・個人主義および集団主義とは何か、およびその影響について理解できる			【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する		60分	

第14回	<p>○まとめと振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学期を通じて学んだ概念や研究法について確認する ・それぞれの違いや影響について全体を俯瞰して振り返る 	<p>【復習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する 	60分
<p>〔授業の方法〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業は対面で行う。 ・授業形式は PowerPoint を用いた講義形式を基本とする。 ・社会心理学の手法および概念についての理解を深めるために、簡単な社会心理学実験への参加（体験）やアンケートへの回答を求めることがある。ただし、回答は強制せず、回答の内容は評価に含めない。 			
<p>〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕</p> <p>授業のノートは配布された PDF にデバイス上で書き込むのが便利なので、PDF に書き込む方法等についてはあらかじめ各自で確認し、慣れておいてください。PC であればブラウザを用いて書き込むことができます。</p>			
<p>〔課題等へのフィードバック方法〕</p> <p>毎授業の合間に、前回の授業に対する質問に回答します。</p>			
<p>〔成績評価の方法〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平常点（ミニテスト等の提出状況）：40% ・試験：60% 			
<p>〔成績評価の基準〕</p> <p>成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 試験、ミニテストについては、下記の観点から評価する予定である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会心理学の方法論について理解しているか。 ・社会心理学の諸概念を正しく理解しているか。 ・社会現象を社会心理学の観点から解釈できているか。 <p>平常点については下記の観点から評価する予定である。</p>			
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕</p> <p>授業で指示</p>			
<p>〔テキスト〕</p> <p>購入の必要なし：</p> <p>『社会心理学 補訂版』、池田謙一・唐沢穰・工藤恵理子・村本由紀子、有斐閣、3,520 円</p> <p>『社会心理学概論』、北村 英哉・内田 由紀子 編、ナカニシヤ、3,850 円</p>			
<p>〔参考書〕</p> <p>いずれも購入の必要なし：</p> <p>『個人のなかの社会 〔展望 現代の社会心理学 1〕』 浦光博・北村英哉編著、誠信書房、4840 円</p> <p>『コミュニケーションと対人関係 〔展望 現代の社会心理学 2〕』、相川充・高井次郎編著、誠信書房、4400 円</p> <p>『社会と個人のダイナミクス 〔展望 現代の社会心理学 3〕』、唐沢穰・村本由紀子編著、誠信書房、4620 円</p>			
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕</p> <p>ポータルサイトで周知します。また、授業終了後に教室で受け付けます。</p>			
<p>〔特記事項〕</p>			

講義名	企業と社会<1>						
教員名	生方 裕一						
講義コード	120720810	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2026 前期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>経営学が主に研究対象とする企業は、社会全体そして私たち個人の生活に多大なる影響を及ぼしています。また、皆さんの多くは、卒業後に営利組織（企業）ないし非営利組織（官公庁など）に就職し、組織の一員として生活を送ることになります。そのため、本講義は私たちの日常と深い関わりを持っている企業がどのような存在で、どのような仕組みを持ち、どのように運営されているか、基本的な理解を身につけることを目標とします。経営学に関する幅広い概念や基礎知識を理解し習得することを通じて、企業の実際の活動内容や企業経営の現場で起きている諸問題を理解し、考える力を養成します。</p>							
<p>〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕</p> <p>DP2（教養の習得）、DP3（課題の発見と解決）、DP4（表現力、発信力）を実現するため、次の点を目標とします。</p> <p>①経営学の基礎知識を身につける。 ②企業の実際の活動内容や職場の諸問題について考える力を身につける。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	ガイダンス／現代企業の捉え方			【予習】シラバスを読み、あらかじめその内容を把握する。 【復習】講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第2回	「財・サービスの提供機関」としての企業			【予習】配布資料を読んで、疑問点を整理する。 【復習】講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第3回	株式会社の機能と構造			【予習】配布資料を読んで、疑問点を整理する。 【復習】講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第4回	株式会社制度と実態			【予習】配布資料を読んで、疑問点を整理する。 【復習】講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第5回	大企業とは何か			【予習】配布資料を読んで、疑問点を整理する。 【復習】講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第6回	大企業の特徴			【予習】配布資料を読んで、疑問点を整理する。 【復習】講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第7回	大企業におけるコーポレート・ガバナンス			【予習】配布資料を読んで、疑問点を整理する。 【復習】講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第8回	企業の組織体制			【予習】配布資料を読んで、疑問点を整理する。 【復習】講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第9回	組織管理論の展開			【予習】配布資料を読んで、疑問点を整理する。 【復習】講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第10回	日本的株式会社の特徴			【予習】配布資料を読んで、疑問点を整理する。 【復習】講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第11回	日本的株式会社の今後			【予習】配布資料を読んで、疑問点を整理する。 【復習】講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第12回	企業の社会的責任			【予習】配布資料を読んで、疑問点を整理する。 【復習】講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第13回	日本企業のCSR活動			【予習】配布資料を読んで、疑問点を整理する。 【復習】講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第14回	企業の存在理由			【予習】これまでの配布資料を再読する。 【復習】講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする		90	
<p>〔授業の方法〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 具体的な授業の運営方法は、第1回の授業および配布資料において説明します。 履修を予定している方は、第1回の授業に出席し、配布資料にも目を通して下さい。 講義形式で授業を行います。 課題などを通じて、受講生の理解度を確認しながら授業を進めます。 上で示された準備学習の時間はあくまで目安ですので、各自の理解度に応じて取り組んでください。 							
〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕							
〔課題等へのフィードバック方法〕							

質問コメントは、授業前後、およびコースパワーにて受け付けます。

〔成績評価の方法〕

原則として、期末試験にて評価します。ただし、加点対象として、レポート課題等の課題を提示する場合があります。また、成績評価の方法や評価割合が変更する可能性があり、その際は授業期間中に履修者へ周知致します。成績評価の方法はガイダンスで説明しますので、履修を予定している方は第1回の授業に必ず参加してください。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 上述した次の2点の目標が達成できていること。

- ①経営学の基礎知識を身につける。
- ②企業の実際の活動内容や職場の諸問題について考える力を身につける。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

必要な予備知識は特にありません。

〔テキスト〕

三戸浩・池内秀己・勝部伸夫（2018）『企業論 第4版（有斐閣アルマ Specialized）』、有斐閣、978-4641221192

〔参考書〕

稲葉祐之・井上達彦・鈴木竜太・山下勝（2022）『キャリアで語る経営組織 [第2版]』有斐閣アルマ
井上達彦・中川功一・川瀬真紀（2019）『経営戦略』中央経済社
小山巖也・出見世信之・谷口勇仁（2018）『問いからはじめる現代企業』有斐閣
※参考書を購入する必要はありません。その他の参考書に関しては、講義中に適宜紹介します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知します。

〔特記事項〕

講義名	物質の究極像						
教員名	丸吉 一暢						
講義コード	120730010	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2026 後期
<p>〔テーマ・概要〕 物理嫌いでも構いません。「自然界の基本的な成り立ち」について、好奇心をもっている人に、誰にでもわかるレベルで説明します。物質は原子からできているという話から始まり、原子は原子核と電子からできており、次に原子核は陽子と中性子からできており、さらにクォーク、ニュートリノとは何かと、話が進んでいきます。そして現段階での物質の究極像である標準理論にたどり着きます。人類は自然の基本構造をどこまで明らかにしたのか、感じ取ってもらうための授業です。</p>							
<p>〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕 DP2【教養の修得】を目標とする。 自然界の根本法則に対して、科学者がどのように取り組んでいるかを知る。そしてその最先端の状況についてイメージをもち、ときにテレビや新聞・雑誌に登場する科学ニュースに、関心をもって接触できるようになる。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	素粒子物理学への導入			教科書の該当箇所を読み、必要ならば参考書やネットから情報を得る。		60	
第2回	近代科学はなぜ誕生したのか：ニュートンの力学			教科書の該当箇所を読み、必要ならば参考書やネットから情報を得る。		60	
第3回	近代科学の発展：原子論・熱とエネルギー			教科書の該当箇所を読み、必要ならば参考書やネットから情報を得る。		60	
第4回	光の歴史：光は波か？粒子か？			教科書の該当箇所を読み、必要ならば参考書やネットから情報を得る。		60	
第5回	光の歴史：光は波か？粒子か？その2			教科書の該当箇所を読み、必要ならば参考書やネットから情報を得る。		60	
第6回	新しい物理学（量子力学）			教科書の該当箇所を読み、必要ならば参考書やネットから情報を得る。		60	
第7回	粒子の生成・吸収：質量エネルギー			教科書の該当箇所を読み、必要ならば参考書やネットから情報を得る。		60	
第8回	素粒子物理学の誕生：強い相互作用と弱い相互作用			教科書の該当箇所を読み、必要ならば参考書やネットから情報を得る。		60	
第9回	核子からクォークへ、量子色力学			教科書の該当箇所を読み、必要ならば参考書やネットから情報を得る。		60	
第10回	素粒子の標準模型			教科書の該当箇所を読み、必要ならば参考書やネットから情報を得る。		60	
第11回	標準模型+アルファ：CPの破れとニュートリノ振動			教科書の該当箇所を読み、必要ならば参考書やネットから情報を得る。		60	
第12回	標準模型を超えて			教科書の該当箇所を読み、必要ならば参考書やネットから情報を得る。		60	
第13回	重力について			教科書の該当箇所を読み、必要ならば参考書やネットから情報を得る。		60	
第14回	物質の究極像へ 今後の展望			教科書の該当箇所を読み、必要ならば参考書やネットから情報を得る。		60	
<p>〔授業の方法〕 講義形式の授業を行います。授業は多少余裕をもって終え、授業中に簡単な課題を課します。また、レポート（主として内容の要約）を数回提出してもらいます。</p>							
〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕							
<p>〔課題等へのフィードバック方法〕 課題の講評の時間を設けます。</p>							
<p>〔成績評価の方法〕 平常点（毎回の課題や授業への参加状況）60%、レポート点40%で評価します。 レポートは提出が第一で、内容の評価も加味します。試験はありません。</p>							

<p>〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠します。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.</p>
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし。</p>
<p>〔テキスト〕 『物質の究極像をめざして』、和田純夫著、ベレ出版</p>
<p>〔参考書〕 特になし。</p>
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイト、Course Power で周知する。</p>
<p>〔特記事項〕</p>

講義名	人間と進化						
教員名	三吉 美加						
講義コード	120730110	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2026 後期
<p>[テーマ・概要]</p> <p>本授業は、はじめの数回で人類学がどのような学問なのかを理解する。その後、米国におけるラティーン、カリブ系、アフリカ系アメリカ人のコミュニティの形成を理解し、各エスニック集団の文化表象について文化人類学的視点から考察するものである。</p> <p>主に検討する集団は、アフリカ系アメリカ人、メキシコ系、プエルトリコ系、ドミニカ系、キューバ系である。米国主流社会との関係性を検討しながら、それぞれのコミュニティにみられる若者文化（音楽、ダンス、ファッションなど）に焦点をあてる。また、それぞれの集団が他の集団とどのように関わっているのかを動的にみていく。</p>							
<p>[科目内容を踏まえた到達目標の詳細]</p> <p>受講者は、文化人類学がどのような学問であるかをまず理解し、人種やエスニシティにまつわる社会的文化的事がらを文化人類学的に考察することを学ぶ。</p> <p>また、米国社会のアフリカ系アメリカ人、カリブ系、ラティーンがそれぞれどのようにコミュニティを形成してきたのか、彼らが直面する問題をもとに、どのような課題で文化的社会的活動が発生し、変化し続けているのかについて説明できるようになる。さらに、さまざまな表象文化が集団の歴史性や社会性と深く関わる様相を理解できるようになる。</p>							
[授業の計画と準備学修]							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	ガイダンス エスニシティと人種概念について説明する。			配布するプリントをよく読んでおくこと		60分	
第2回	文化人類学的とは？ 文化人類学の特徴、学問形成の背景について説明する。			配布されたプリントをよく読んでくること		60分	
第3回	アフリカ系アメリカ人の歴史とコミュニティの形成 米国のアフリカ系アメリカ人の歴史を概観した後、奴隷解放後、どのように全米で黒人コミュニティが形成されていったかを解説する			配布されたプリントをよく読んでくること		60分	
第4回	アフリカ系アメリカ人のコミュニティ 南部とシカゴ、ワシントンD.C.、ニューヨーク、ロサンゼルスなどの米国大都市部のアフリカ系アメリカ人の生活経験の差について解説する			配布されるプリントをよく読んでくること。講義中、言及する都市や州名を地図で確認すること		20分	
第5回	ブラックカルチャー 米国の音楽ジャズにおけるアフリカ系アメリカ人やカリブ系の影響、 ソウル音楽、R&Bなどに共通してみられる「黒人らしい」特徴について解説する			配布されるプリントをよく読んでくること		15分	
第6回	ラティーンとは？ ラティーンと呼ばれる人びとはどういう人びとなのだろうか。彼らの米国社会における影響は？なぜ多くのラティーンが米国に流入しつづけるのかについて解説する			教科書の該当章をよく読んでくること		30分	
第7回	メキシコ系アメリカ人 19世紀半ばの米墨の関係を説明した後、どのような経緯で「メキシコ系米国人」が誕生したかをみていく。また、現在の南西部およびロサンゼルス系のメキシコ系のコミュニティ発の文化を検討していく。とくに若い人びとの中で流行するファッション、音楽、ダンスを検討する。			教科書の該当章をよく読んでくること。メキシコ系文化にどのようなものがあるかを各自調べてくる。		45分	
第8回	ロサンゼルス系のメキシコ系とサルバドル系 ロサンゼルスにおいてどのようにメキシコ系とサルバドル系がコミュニティをそれぞれ形成しているのか理解する			教科書の該当章をよく読んでくること。サルバドル系の文化にどのようなものがあるかを各自調べてくる		45分	
第9回	プエルトリコ系アメリカ人 プエルトリコ系が「米国人」になった歴史的経緯を説明した後、彼らが集中するニューヨーク市のコミュニティについてみていく。			教科書の該当章をよく読んでくる。プエルトリコ系文化にどのようなものがあるかを各自調べてくる		45分	
第10回	プエルトリコ系の文化復興運動 ニューヨーク市で1950年代からみられたプエルトリコ系による社会運動に注目する。また、サルサ、ボンバ、レゲトンなどの文化表象を検討し、アイデンティティの表象とどのようにかかわっているかを理解していく			教科書の該当章をよく読んでくる		45分	
第11回	キューバ系アメリカ人 キューバと米国の歴史的なかわりを理解する。キューバ革命とマイアミのキューバ系コミュニティとの関連性を考えながら、キューバ系文化とされるものを具体的に理解していく。			教科書の該当章をよく読んでくる		40分	
第12回	ドミニカ系アメリカ人 ドミニカ人が大勢米国に押し寄せてくるようになった社会的背景を検討しながら、ニューヨーク市の彼らのコミュニティについて解説する。			教科書の該当章をよく読んでくる		40分	
第13回	ニューヨークのドミニカ系コミュニティ ラティーンやアフリカ系も多く居住するドミニカ系コミュニティでどのような若者文化が創造されているのかについてみていく。			教科書の該当章をよく読んでくる		20分	

第14回	講義のまとめ	配布したプリント、教科書を再読する	60分
<p>〔授業の方法〕 教科書や配布プリントをよく読んできてもらう。授業時に配るワークシートに書き込みをしながら、自分の理解度を確認していく。講義の後、映像資料を参考にしながら、理解をさらに深めていく。</p>			
<p>〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕</p>			
<p>〔課題等へのフィードバック方法〕 前回は小テストなどを行った際には、授業のはじめに講評、解説をする。また、毎回講義の終わりに、コメントをコースパワー上で書いてもらう。その次の回の授業のはじめで、質問やコメントの内容について回答したり、解説する。</p>			
<p>〔成績評価の方法〕 リアクションペーパー10%、 授業参加度（発言など）10%、 小テスト 20% 期末テスト 60%</p>			
<p>〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.</p>			
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし</p>			
<p>〔テキスト〕 三吉美加 『米国のラティノー』 大学教育出版，1800円，ISBN 9784864292627</p>			
<p>〔参考書〕 初回授業時指示す</p>			
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 授業前後に教室で応じます。</p>			
<p>〔特記事項〕</p>			

講義名	脳科学と心<1>						
教員名	勝沼 るり						
講義コード	120730210	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2026 前期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>ヒトの思考や行動はすべて脳によって制御されている。その複雑な構造やメカニズムの理解を深めることが我々ヒトの本質を知る手がかりとなる。本講義では、脳神経科学の基礎となる知見を概説し、最新の脳科学研究の成果を踏まえながら、我々の行動について考える。また、それぞれのテーマにおいて関連する精神・心身疾患に関与する神経メカニズムについて理解する。</p>							
<p>〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕</p> <p>本講義を履修することによって、次の知識と能力を修得する</p> <p>1) 脳神経科学の各研究領域についての概要を理解することができる (DP1)</p> <p>2) 脳神経科学的研究、知見について批判的に考察することができる (DP2・DP3)</p> <p>3) 脳神経科学の基本的な原理を理解し、心のプロセスや精神障害に対する脳科学的アプローチに関する洞察を得ることができる (DP1・DP2)</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修 (予習・復習等)		準備学修の目安 (分)	
第1回	「脳科学の基礎と概要」 脳科学の基本的な概念や原理を理解し、脳科学を学ぶ意義について考える			授業の内容を確認し復習する。予習に関しては必要に応じて授業内で予習課題を知らせる。		60	
第2回	「知覚の神経科学」 脳が外部からの情報を受け取り、解釈する過程である知覚 (視覚・聴覚など) がどのように形成されるのかを知る			授業の内容を確認し復習する。予習に関しては必要に応じて授業内で予習課題を知らせる。		60	
第3回	「記憶・学習」 我々を形成する、記憶の積み重ねがどのように処理・保存されているのかについて学ぶ			授業の内容を確認し復習する。予習に関しては必要に応じて授業内で予習課題を知らせる。		60	
第4回	「運動と身体感覚」 脳が身体の動きや感覚をどのように処理し、制御しているのかを理解する			授業の内容を確認し復習する。予習に関しては必要に応じて授業内で予習課題を知らせる。		60	
第5回	「情動とストレス」 感情を司る脳のメカニズムとストレスとの関連について学ぶ			授業の内容を確認し復習する。予習に関しては必要に応じて授業内で予習課題を知らせる。		60	
第6回	「注意・制御・マインドフルネス」 脳が注意をどのように管理し、行動を制御するかについて理解する			授業の内容を確認し復習する。予習に関しては必要に応じて授業内で予習課題を知らせる。		60	
第7回	「実行と抑制」 脳が行動を始める (実行) と抑制する (抑制) メカニズムを、脳内の神経回路の役割、そして日常生活での影響について考える			授業の内容を確認し復習する。予習に関しては必要に応じて授業内で予習課題を知らせる。		60	
第8回	「意思決定」 脳内で情報を処理し、選択肢を評価し、最終的な決定を下す仕組みについて学ぶ			授業の内容を確認し復習する。予習に関しては必要に応じて授業内で予習課題を知らせる。		60	
第9回	「睡眠」 脳が睡眠中に行う様々な機能や処理について探求する。また、睡眠不足が脳機能や健康に与える影響についても理解する			授業の内容を確認し復習する。予習に関しては必要に応じて授業内で予習課題を知らせる。		60	
第10回	「言語・ジェスチャー」 言語が脳内でどのように処理され、ジェスチャーがどう関連しているのかについて理解し、人間のコミュニケーションにおける重要性を考察する			授業の内容を確認し復習する。予習に関しては必要に応じて授業内で予習課題を知らせる。		60	
第11回	「社会神経科学」 他者との関わりが我々の生活にどのように影響しているのか、神経科学的アプローチによる理解を深める			授業の内容を確認し復習する。予習に関しては必要に応じて授業内で予習課題を知らせる。		60	
第12回	「報酬と依存」 薬物の摂取や食事行動にまつわる、快の脳内メカニズムを知る			授業の内容を確認し復習する。予習に関しては必要に応じて授業内で予習課題を知らせる。		60	
第13回	「社会的報酬」 他者からの信頼や賞賛などの社会的報酬が行動や意思決定にどのような役割を果たすか、また人間の行動や社会的つながりに与える影響について議論する			授業の内容を確認し復習する。予習に関しては必要に応じて授業内で予習課題を知らせる。		60	
第14回	「今後の脳科学研究が向かう先」とまとめ			授業の内容を確認し復習する。		60	
<p>〔授業の方法〕</p> <p>授業の形式は基本的に講義を中心とし、デモを交えながら解説する。毎授業後、講義内容の復習として小テストを行う。</p>							
<p>〔パソコンに関する受講者への指示 (特別なソフトウェアのインストール等)〕</p> <p>特になし。</p>							
〔課題等へのフィードバック方法〕							

課題や小テストの講評、解説は次の授業内にて行う。

〔成績評価の方法〕

学期末試験および期末レポートは実施しないため、平常点で成績評価する。
平常点(授業への参加状況や小テスト、まとめテスト<14回分>の提出と評価状況)内訳は以下の通り。
授業および小テストまとめテストへの参加状況および提出状況 14% 小テスト(1回6点満点)を12回行う 72% (第1回は小テストは行わない。第2回から第13回までの12回分) まとめテスト(最終回の第14回)14%
平常点 14%+小テスト12回分計 72%+まとめ小テスト 14%=合計 100%
60%以上が単位認定の最低ラインとなる。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準(学則第38条、39条)に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

- 1) 脳神経科学の各研究領域についての知識を修得しているか
- 2) 脳神経科学的研究、知見について批判的な視点を身につけているか
- 3) 脳神経科学の基本的な原理を理解し、心のプロセスや精神障害に対する脳科学的アプローチに関する洞察を得ることができているか

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

予備知識などは特に必要としない。

〔テキスト〕

特になし。

〔参考書〕

『カールソン神経科学テキスト 一脳と行動一 原書13版』、中村 克樹 監訳、丸善出版、¥19,800、ISBN: 978-4-621-30765-6
「購入の必要なし」

〔質問・相談方法等 (オフィス・アワー)〕

授業終了後に教室で受け付けます。随時メールでも受け付けます。いつでも質問をしてきてください。

〔特記事項〕

講義名	脳科学と心<2>						
教員名	勝沼 るり						
講義コード	120730220	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2026 後期
<p>[テーマ・概要]</p> <p>ヒトの思考や行動はすべて脳によって制御されている。その複雑な構造やメカニズムの理解を深めることが我々ヒトの本質を知る手がかりとなる。本講義では、脳神経科学の基礎となる知見を概説し、最新の脳科学研究の成果を踏まえながら、我々の行動について考える。また、それぞれのテーマにおいて関連する精神・心身疾患に関与する神経メカニズムについて理解する。</p>							
<p>[科目内容を踏まえた到達目標の詳細]</p> <p>本講義を履修することによって、次の知識と能力を修得する</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 脳神経科学の各研究領域についての概要を理解することができる (DP1) 2) 脳神経科学的研究、知見について批判的に考察することができる (DP2・DP3) 3) 脳神経科学の基本的な原理を理解し、心のプロセスや精神障害に対する脳科学的アプローチに関する洞察を得ることができる (DP1・DP2) 							
[授業の計画と準備学修]							
回数	授業の計画・内容			準備学修 (予習・復習等)		準備学修の目安 (分)	
第1回	「脳科学の基礎と概要」 脳科学の基本的な概念や原理を理解し、脳科学を学ぶ意義について考える			授業の内容を確認し復習する。予習に関しては必要に応じて授業内で予習課題を知らせる。		60	
第2回	「知覚の神経科学」 脳が外部からの情報を受け取り、解釈する過程である知覚 (視覚・聴覚など) がどのように形成されるのかを知る			授業の内容を確認し復習する。予習に関しては必要に応じて授業内で予習課題を知らせる。		60	
第3回	「記憶・学習」 我々を形成する、記憶の積み重ねがどのように処理・保存されているのかについて学ぶ			授業の内容を確認し復習する。予習に関しては必要に応じて授業内で予習課題を知らせる。		60	
第4回	「運動と身体感覚」 脳が身体の動きや感覚をどのように処理し、制御しているのかを理解する			授業の内容を確認し復習する。予習に関しては必要に応じて授業内で予習課題を知らせる。		60	
第5回	「情動とストレス」 感情を司る脳のメカニズムとストレスとの関連について学ぶ			授業の内容を確認し復習する。予習に関しては必要に応じて授業内で予習課題を知らせる。		60	
第6回	「注意・制御・マインドフルネス」 脳が注意をどのように管理し、行動を制御するかについて理解する			授業の内容を確認し復習する。予習に関しては必要に応じて授業内で予習課題を知らせる。		60	
第7回	「実行と抑制」 脳が行動を始める (実行) と抑制する (抑制) メカニズムを、脳内の神経回路の役割、そして日常生活での影響について考える			授業の内容を確認し復習する。予習に関しては必要に応じて授業内で予習課題を知らせる。		60	
第8回	「意思決定」 脳内で情報を処理し、選択肢を評価し、最終的な決定を下す仕組みについて学ぶ			授業の内容を確認し復習する。予習に関しては必要に応じて授業内で予習課題を知らせる。		60	
第9回	「睡眠」 脳が睡眠中に行う様々な機能や処理について探求する。また、睡眠不足が脳機能や健康に与える影響についても理解する			授業の内容を確認し復習する。予習に関しては必要に応じて授業内で予習課題を知らせる。		60	
第10回	「言語・ジェスチャー」 言語が脳内でどのように処理され、ジェスチャーがどう関連しているのかについて理解し、人間のコミュニケーションにおける重要性を考察する			授業の内容を確認し復習する。予習に関しては必要に応じて授業内で予習課題を知らせる。		60	
第11回	「社会神経科学」 他者との関わりが我々の生活にどのように影響しているのか、神経科学的アプローチによる理解を深める			授業の内容を確認し復習する。予習に関しては必要に応じて授業内で予習課題を知らせる。		60	
第12回	「報酬と依存」 薬物の摂取や食事行動にまつわる、快の脳内メカニズムを知る			授業の内容を確認し復習する。予習に関しては必要に応じて授業内で予習課題を知らせる。		60	
第13回	「社会的報酬」 他者からの信頼や賞賛などの社会的報酬が行動や意思決定にどのような役割を果たすか、また人間の行動や社会的つながりに与える影響について議論する			授業の内容を確認し復習する。予習に関しては必要に応じて授業内で予習課題を知らせる。		60	
第14回	「今後の脳科学研究が向かう先」とまとめ			授業の内容を確認し復習する。		60	
<p>[授業の方法]</p> <p>授業の形式は基本的に講義を中心とし、デモを交えながら解説する。毎授業後、講義内容の復習として小テストを行う。</p>							
<p>[パソコンに関する受講者への指示 (特別なソフトウェアのインストール等)]</p> <p>特になし。</p>							
[課題等へのフィードバック方法]							

課題や小テストの講評、解説は次の授業内にて行う。

〔成績評価の方法〕

学期末試験および期末レポートは実施しないため、平常点で成績評価する。
平常点(授業への参加状況や小テスト、まとめテスト<14回分>の提出と評価状況)内訳は以下の通り。
授業および小テストまとめテストへの参加状況および提出状況 14% 小テスト(1回6点満点)を12回行う 72% (第1回は小テストは行わない。第2回から第13回までの12回分) まとめテスト(最終回の第14回)14%
平常点 14%+小テスト12回分計 72%+まとめ小テスト 14%=合計 100%
60%以上が単位認定の最低ラインとなる。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準(学則第38条、39条)に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

- 1) 脳神経科学の各研究領域についての知識を修得しているか
- 2) 脳神経科学的研究、知見について批判的な視点を身につけているか
- 3) 脳神経科学の基本的な原理を理解し、心のプロセスや精神障害に対する脳科学的アプローチに関する洞察を得ることができているか

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

予備知識などは特に必要としない。

〔テキスト〕

特になし。

〔参考書〕

『カールソン神経科学テキスト 一脳と行動一 原書13版』、中村 克樹 監訳、丸善出版、¥19,800、ISBN: 978-4-621-30765-6
「購入の必要なし」

〔質問・相談方法等 (オフィス・アワー)〕

授業終了後に教室で受け付けます。随時メールでも受け付けます。いつでも質問をしてきてください。

〔特記事項〕

講義名	天文学入門						
教員名	古荘 玲子.渡部 潤一						
講義コード	120730310	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2026 前期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>天文学は、私たち人類が自分たちを取り巻く世界を理解したいという知的好奇心から生まれた、最古の学問のひとつである。私たちの住む地球からはじまり、太陽系、銀河系そして遠方銀河までが、どのように観測され、研究されてきたのか、宇宙の構造を空間スケールを変えながら概略を学ぶ。また、私たちの住む地球や太陽系を含めて、時間とともにどのように進化してきたのかを概説する。</p>							
<p>〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕</p> <p>1. 天文学が明らかにしてきた知見を、時間的・空間的なスケールと絡めて包括的に理解する。 2. 地球や私たちの文明のあり方を、宇宙における存在として捉えなおす。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	ガイダンス／宇宙観の変遷 ・本講義の進め方や、評価基準について説明する。 ・天文学のはじまりと研究の流れについて解説する。			【予習】シラバスや参考書を読み、予め講義内容を把握する。 【復習】講義の進め方や評価基準を確認し、配布プリントを復習する。		30 60	
第2回	基礎知識1 ・時間と空間、暦の成立と変遷、天体のスケールについて解説し、学修する。			時間と空間の概念、暦の成立と変遷、天体のスケールについて、プリントや参考書を元に復習し、理解を深める。		90	
第3回	基礎知識2 ・観測とはなにか、観測手法、波長、座標系などについて解説し、学修する。			観測とはなにか、観測手法、波長、座標系などについて、プリントや参考書を元に復習し、理解を深める。		90	
第4回	太陽系1 ・太陽系の概念の変遷と惑星とは何かについて解説し、学修する。			太陽系の概念の変遷、特に惑星の定義について、プリントや参考書を元に復習し、理解を深める。		90	
第5回	太陽系2 ・個々の惑星の性質、特徴、種別などについて解説し、学修する。			個々の惑星の性質、特徴、種別などについて、プリントや参考書を元に復習し、理解を深める。		90	
第6回	太陽系3 ・太陽系小天体、特に彗星、小惑星、および流星について解説し、学修する。			太陽系小天体、特に彗星、小惑星、および流星について、プリントや参考書を元に復習し、理解を深める。		90	
第7回	太陽 ・恒星としての太陽、太陽の物理について解説し、学修する。			太陽の物理について、プリントや参考書を元に復習し、理解を深める。		90	
第8回	恒星1 ・恒星とはなにか、および恒星分類について解説し、学修する。			恒星とはなにか、および恒星分類について、プリントや参考書を元に復習し、理解を深める。		90	
第9回	恒星2 ・恒星の進化と輪廻、物質循環にはたす恒星の役割について解説し、学修する。			恒星の進化と輪廻、物質循環にはたす恒星の役割について、プリントや参考書を元に復習し、理解を深める。		90	
第10回	銀河系 ・天の川銀河の性質、構造、および進化について解説し、学修する。			天の川銀河の性質、構造、および進化について、プリントや参考書を元に復習し、理解を深める。		90	
第11回	銀河 ・銀河の種別と分類、銀河の進化、および構造について解説し、学修する。			銀河の種別と分類、銀河の進化、および構造について、プリントや参考書を元に復習し、理解を深める。		90	
第12回	宇宙論 ・宇宙の誕生、進化、構造、および多宇宙論について解説し、学修する。			宇宙の誕生、進化、構造、および多宇宙論について、プリントや参考書を元に復習し、理解を深める。		90	
第13回	宇宙と生命 ・宇宙における生命の可能性や生命探査、さらに経学惑星について解説し、学修する。			宇宙における生命の可能性や生命探査、経学惑星について、プリントや参考書を元に復習し、理解を深める。		90	
第14回	到達度確認テスト ・これまでの学修内容について、理解度を確認するためのテストを実施する。			【予習】到達度確認テストに備え、これまでの学修内容を確認する。		120	
〔授業の方法〕							
<p>教室での講義を主体とする。授業時に、各回のトピックに関するプリントを配布する。普段から、ノートやプリントを復習に力を入れること。講義内容の理解度を確認するため、講義内容から簡単な問題を「出席クイズ」という形で出題し、結果を授業参加度に反映する（ただし、毎回ではない）。最終講義に「到達度確認テスト」を行い、講義全体の学習内容についての理解度を確認する。</p>							
〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕							
〔課題等へのフィードバック方法〕							
「出席クイズ」を実施した講義は、次回講義以降に模範解答を Course Power で公開・配布する。							
〔成績評価の方法〕							

最終講義で実施する「到達度確認テスト」の成績を主とするが（70%）、「平常点（各回講義の参加状況や、「出席クイズ」を実施した場合はその結果）」（30%）を加味する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。次の点に着目し、その到達度により評価する。

- ① 天文学が明らかにしてきた基本的な知見を、論理的に正しく説明できる。
- ② ①について、さらに時間的・空間的なスケールと絡めて解説できる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

高校程度の数学的な基礎知識があることを前提とする。

〔テキスト〕

特になし（必要に応じてプリントを配布します）

〔参考書〕

「面白いほど宇宙がわかる15の言葉」 渡部潤一著、小学館101新書
「宇宙科学入門 ー第2版ー」 尾崎洋二著、東京大学出版会
「シリーズ 現代の天文学」全17巻、日本評論社

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

講義終了後に教室で受け付ける。
なお、連絡先を記載したガイダンス資料を、**Course Power** で公開・配布する。

〔特記事項〕

講義名	薬はなぜ効くか						
教員名	須藤 勝美.増田 典之						
講義コード	120730410	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2026 後期
<p>[テーマ・概要]</p> <p><概要></p> <p>薬は、動物あるいは植物等、いわゆる生体の生理学的機能や病態生理学のプロセスに対して作用して、健康維持、予防、治療、診断のために用いられる物質の総称である。現在、病院や薬局で手に入る薬（医薬品）の多くは、最新の科学を取り入れ、長い年月と高額な費用を投じて研究開発されてきており、様々な形態や種類が存在している。そして、「薬はなぜ効くか」を考えると、その回答は、「薬がどのように生体の生理学的機能や病態生理学のプロセスに作用するのか」の理解に通じるのである。本講義では、最新の薬の研究開発情報を取り入れながら、「薬はなぜ効くか」について、できるだけ理解しやすく講述していく。</p> <p><テーマ></p> <p>「薬はなぜ効くか」の理解は、新薬の研究開発、副作用の軽減、正しい薬の使い方などのために必要である。まずは、「薬とは何か」を理解した上で、薬の分類、作用機序（薬はなぜ効くか）、新薬の研究開発プロセス、個別化医療など、「薬」全般について講義する。近年、薬の形態・治療手段（モダリティ）は低分子化合物のみならず、抗体、核酸、遺伝子など多様性が増している。種々のモダリティについて具体的な薬に関する事例とともに紹介する。また、最近の新薬の事例として、COVID-19のパンデミックで研究開発された mRNA ワクチンについて、激しい競争状況を含めて話題を提供する。さらに、社会問題となっている違法薬物、オーバードーズの危険性や、スポーツにおけるドーピング問題などについても講義する。</p> <p>薬は、我々の健康維持や疾患治療に欠かせないものであり、科学の進歩によって日々進化している。薬にかかわる分野は、医学、薬学、生物学、化学を始め、物理学、工学、倫理学、経済学などから成る総合科学であることを認識し、多様な観点から考察することにより、「薬はなぜ効くか」を理解する。また、生体の機能メカニズムの理解が治療法の開発の基礎となり、新しい薬の研究開発へと繋がる。この講義で、常に進化する最新の薬について紹介する。</p>							
<p>[科目内容を踏まえた到達目標の詳細]</p> <p>受講生が、①薬について正しい知識を取得し、薬の全体像を理解し説明できること、②その理解のもと、健康的、かつ保健衛生的な生活がおくれるようになることを目標とする。</p>							
[授業の計画と準備学修]							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	<p>講義全体の説明</p> <p>「薬（医薬品）とは何か」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬（医薬品）の定義 ・身の回りの薬 ・薬の治療効果、副作用 ・個人による効果の差 <p><補足>薬は、病気を治療・改善し、健康を保つために用いられる物質である。また、薬は病気の治療効果が期待される一方で、副作用やリスクが伴う。個々の体質や病態によって異なる反応が現れ、時には予測困難な副作用が生じることがある。</p>			<p><予習></p> <p>身の回りの薬を調べる</p> <p><復習></p> <p>薬（医薬品）の定義を理解する</p>		<p>30</p> <p>60</p>	
第2回	<p>「薬の分類」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モダリティ ・剤形 ・その他 <p><補足></p> <p>(1) モダリティ</p> <p>薬は、形態・治療手段（創薬技術・手法）、いわゆるモダリティによって分類される。モダリティとしては、低分子、ペプチド、抗体、核酸医薬、遺伝子、ワクチン、細胞などがある</p> <p>(2) 剤形</p> <p>薬は、その投与形態によって分類される。剤形には、経口剤、注射剤、塗布剤などがある。さらに、経口剤には錠剤、カプセル剤、液剤、シロップ剤など、注射剤には静注剤、筋注剤、皮下注剤などがある。</p> <p>(3) その他</p> <p>薬には、医師もしくは歯科医師により使用、もしくは処方される医療用医薬品、一般の人が薬剤師等からの情報に基づいて自らの判断で使用する一般用医薬品がある。さらに、医療用医薬品には、最初に承認販売された先発医薬品と、先発医薬品と同一有効成分を同一量含み、同一経路から投与する同じ用法用量の後発品医薬品（ジェネリック医薬品）がある。</p>			<p><予習></p> <p>インターネットなどで、薬の分類について調べる</p> <p><復習></p> <p>様々な薬の分類の仕方について理解する</p>		<p>30</p> <p>60</p>	
第3回	<p>「生理学的な作用」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生体の生理機能（免疫など） ・薬の標的分子と作用機序 <p><補足>薬の生体内での作用、すなわち生体の生理学的機能や病態生理学のプロセスに対する作用を発揮する標的として、(1) 受容体、(2) 酵素、(3) イオンチャネル、(4) トランスポーター、(5) 核酸などがある。</p>			<p><予習></p> <p>高校の生物の教科書で受容体等について調べる</p> <p><復習></p> <p>様々な薬の標的分子と作用機序について理解する</p>		<p>30</p> <p>60</p>	
第4回	<p>「研究開発プロセス」(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新薬研究開発の現状 ・疾患発掘、標的探索、モダリティ戦略 ・スクリーニング、最適化 <p><補足>新しい薬（新薬）の研究開発には10年以上の歳月と2000～2500億円程度の研究開発費が必要であり、成功確率は3万分の1と言われている。</p>			<p><予習></p> <p>「新たな薬が必要な病気とは何か」を調べる</p> <p><復習></p> <p>新薬の研究開発の現状について理解する</p>		<p>60</p> <p>60</p>	
第5回	<p>「研究開発プロセス」(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非臨床試験 ・臨床試験 ・承認申請、審査 			<p><予習></p> <p>「臨床試験」を調べる</p> <p><復習></p> <p>新薬の研究開発プロセス全体を理解する</p>		<p>30</p> <p>60</p>	

	<ul style="list-style-type: none"> ・承認、上市 <p><補足>新しい薬（新薬）の研究開発には10年以上の歳月と2000～2500億円程度の研究開発費が必要であり、成功確率は3万分の1と言われている。（前回と同じ）</p>		
第6回	<p>「疾患と薬（感染症治療薬）」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症とは ・治療薬の種類と用法 ・感染の予防法 <p><補足>感染症とは、病原体（細菌、ウイルスなど）が生体に定着し、発熱、咳、嘔吐、下痢などの症状を生じることであり、治療法としては対症療法（解熱鎮痛薬）、根治療法（抗生物質、抗ウイルス薬）、免疫（ワクチン）などがある。</p>	<p><予習> 「感染症治療薬」の種類について調べる</p> <p><復習> 感染症治療薬の用法を理解する</p>	30 60
第7回	<p>「疾患と薬（COVID-19 感染予防ワクチン）」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・COVID-19によるパンデミック ・作用機序 ・研究開発プロセスと倫理的課題 ・競合状況 ・その他（治療薬開発等） <p><補足>COVID-19は新型コロナウイルス感染症であり、近年世界中がパンデミックに直面したが、極めて短期間で治療薬とmRNAワクチン等が開発されている。</p>	<p><予習> COVID-19のワクチンについて調べる</p> <p><復習> ワクチンの種類、作用機序について理解する</p>	30 60
第8回	<p>「疾患と薬（生活習慣病治療薬）」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高血圧治療薬、作用機序と種類 ・脂質異常症（高脂血症）治療薬、作用機序と種類 ・糖尿病治療薬、作用機序と種類 <p><補足>生活習慣病とは、食事や運動、休養、喫煙、飲酒などの生活習慣が深く関与し、それらが発症の要因となる疾患の総称であり、がんをはじめ、高血圧症、高脂血症、糖尿病などが含まれ、これまで疾患ごとにいろいろな薬が開発されてきた。</p>	<p><予習> 生活習慣病について調べる</p> <p><復習> 生活習慣病の治療薬の種類、作用機序について理解する</p>	30 60
第9回	<p>「疾患と薬（抗悪性腫瘍治療薬）」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・悪性腫瘍 ・作用機序と種類 ・研究開発プロセス ・コンパニオン診断薬 <p><補足>抗悪性腫瘍治療薬は、細胞障害性抗がん薬（化学療法薬）、分子標的薬、ホルモン療法薬（内分泌療法薬）、免疫チェックポイント阻害薬等の種類があり、悪性腫瘍の種類、ステージ等によって使い分けられる。</p>	<p><予習> 高悪性腫瘍治療薬について調べる</p> <p><復習> 腫瘍治療薬の種類、作用機序、コンパニオン診断薬について理解する</p>	30 60
第10回	<p>「疾患と薬（アルツハイマー型認知症治療薬）」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アルツハイマー型認知症 ・作用機序と種類 ・研究開発プロセス <p><補足>アルツハイマー型認知症とは、脳の神経細胞が徐々に減っていく進行性疾患で、脳が萎縮することで認知障害が現れる疾患であり、薬による治療は難しいという状況であったが、近年になり期待できる治療薬が開発されてきている。</p>	<p><予習> アルツハイマー病について調べる</p> <p><復習> アルツハイマー病の治療薬の種類、作用機序について理解する</p>	30 60
第11回	<p>「個別化医療」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別化医療とは ・医療における適用状況 <p><補足>薬には効果がある一方で、副作用や注意が必要な事項も存在するが、いずれも“個人差”がある。近年、特に抗腫瘍薬の適応の際には、個別化医療の考え方（「効果が発揮しやすく、副作用が少ない患者への投与」）が志向されている。</p>	<p><予習> 個別化医療について調べる、身の回りで薬に対する作用の違いを考える</p> <p><復習> 個別化医療について理解する</p>	30 60
第12回	<p>「新規モダリティ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遺伝子治療 ・再生医療・細胞医療 <p><補足>最近では、遺伝子工学や生体細胞を利用して研究開発された薬が上市され、がんや免疫疾患の治療などに適応されてきている。</p>	<p><予習> 未来の薬とはどのようなものかを想像する</p> <p><復習> 未来の薬について理解する</p>	30 60
第13回	<p>「違法薬物、オーバードーズの危険性や、スポーツにおけるドーピング」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・違法薬物 ・オーバードーズ ・ドーピング <p><補足>違法薬物、薬の過剰摂取、スポーツ競技において禁止されている薬等について学修する</p>	<p><予習> 課題にあるキーワードについて調べる</p> <p><復習> 違法薬物、オーバードーズ、ドーピングの危険性について理解する</p>	30 60
第14回	<p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「薬はなぜ効くか」 	<p><予習> これまでの講義内容から、「薬はなぜ効くか」のキーワードを3～5個ピックアップする</p> <p><復習> ピックアップしたキーワードを使用して「薬はなぜ効くか」に関するレポートを作成する</p>	60 60
<p>〔授業の方法〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この授業は、「資料、もしくは録画の提供（eラーニング）」で実施する。 ・毎回の講義内容の資料はパワーポイントで作成し、講義前に配布する。 ・毎回小テストを行いテクニカルターム、講義内容について出題する（全14回）。 ・講義資料、及び小テストの公開期間は、各回の講義当日から次回講義前日までの7日間とする（その間でオンデマンド受講が可能）。 <p>〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕</p>			

<p>〔課題等へのフィードバック方法〕 小テストの内容については、次回の講義前までに簡単に説明する。</p>
<p>〔成績評価の方法〕 期末レポート（あるいは期末試験）（50%）、及び小テスト（50%）の成績を加味して評価する。</p>
<p>〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.</p>
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 日常的に新聞、テレビ、インターネット、雑誌・図書などから薬・医療に関する情報を摂取するように努めると、講義内容が理解しやすい。</p>
<p>〔テキスト〕 「特になし」</p>
<p>〔参考書〕 特になし</p>
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 コースパワーを通じて受け付けます。</p>
<p>〔特記事項〕</p>

講義名	身の回りの科学						
教員名	古荘 玲子						
講義コード	120730510	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2026 後期
<p>[テーマ・概要]</p> <p>現代社会においては、科学技術が急速に変化・発展し、また環境との関わりを考えることも欠かせません。自然現象や環境、普段何気なく使っている機器の動作原理などについて、科学的な視点でその背景にある原理や法則を理解する方法を学ぶことは、このような現代社会において重要なスキルを養うことにつながります。また、科学的なものの方や考え方を身につけることは、情報の溢れる現代社会のなかで根拠のある情報を見出し科学的に正しく判断して適切な行動をとることのできる能力につながります。</p> <p>この講義では、身近な自然現象や身のまわりの機器などをいくつか取り上げて、その科学的原理や法則を具体的に理解するとともに、物事を科学的根拠に基づいて合理的に理解していく考え方や心構えなどを養うことを目指します。なお、各回の授業内容や順序は、変更する場合があります。</p>							
<p>[科目内容を踏まえた到達目標の詳細]</p> <ul style="list-style-type: none"> 身のまわりの様々な自然現象や機器の仕組みなどを背後にある科学的原理や法則に基づいて理解する。 身のまわりの事象や物事を科学的に分析し合理的に理解する方法や心構えを身につける。 身のまわりのものに興味を持ち、なぜ？どうして？という発想を自然に持てるようにする。 							
[授業の計画と準備学修]							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	月はなぜいつも同じ面を地球に向けているのか？ (万有引力、遠心力、力の釣り合い、力のモーメント、剛体)			予習・復習をしっかりと行うこと。特に、第1回のテーマについて、自分の取ったノートをもとに理解したことを整理すること。疑問点や興味を惹かれた点は、積極的に調べてみる。		60分以上	
第2回	台風の渦巻きはどのようにして反時計回りなのか？ (気圧と風、コリオリ力、慣性系と加速度系)			予習・復習をしっかりと行うこと。特に、第2回のテーマについて、自分の取ったノートをもとに理解したことを整理すること。疑問点や興味を惹かれた点は、積極的に調べてみる。		60分以上	
第3回	AIとは (ニューラルネットワーク、ディープラーニング、ChatGPT)			予習・復習をしっかりと行うこと。特に、第3回のテーマについて、自分の取ったノートをもとに理解したことを整理すること。疑問点や興味を惹かれた点は、積極的に調べてみる。		60分以上	
第4回	電磁調理器とICカード (電場と磁場、電磁誘導、ジュール熱、ICカード、非接触充電)			予習・復習をしっかりと行うこと。特に、第4回のテーマについて、自分の取ったノートをもとに理解したことを整理すること。疑問点や興味を惹かれた点は、積極的に調べてみる。		60分以上	
第5回	電子レンジはなぜ温められる？ (電磁波、波長と振動数、光、紫外線、X線、温室効果ガス)			予習・復習をしっかりと行うこと。特に、第5回のテーマについて、自分の取ったノートをもとに理解したことを整理すること。疑問点や興味を惹かれた点は、積極的に調べてみる。		60分以上	
第6回	スマホと通信 (電波、共振、変調、アナログとデジタル、公開鍵暗号、電子署名)			予習・復習をしっかりと行うこと。特に、第6回のテーマについて、自分の取ったノートをもとに理解したことを整理すること。疑問点や興味を惹かれた点は、積極的に調べてみる。		60分以上	
第7回	放射温度計はなぜ温度が測れるのか (放射温度計、黒体放射、色温度、宇宙背景放射、星の表面温度)			予習・復習をしっかりと行うこと。特に、第7回のテーマについて、自分の取ったノートをもとに理解したことを整理すること。疑問点や興味を惹かれた点は、積極的に調べてみる。		60分以上	
第8回	お湯は自然に冷めるけど、水は自然にお湯にならないのはなぜ？ (熱力学の法則、熱機関、ヒートポンプ、マイクロとマクロ、エントロピー)			予習・復習をしっかりと行うこと。特に、第8回のテーマについて、自分の取ったノートをもとに理解したことを整理すること。疑問点や興味を惹かれた点は、積極的に調べてみる。		60分以上	
第9回	地震波と音波 (地震、P波・S波、音、ドップラー効果、ノイズキャンセラー、マイク、スピーカーの原理)			予習・復習をしっかりと行うこと。特に、第9回のテーマについて、自分の取ったノートをもとに理解したことを整理すること。疑問点や興味を惹かれた点は、積極的に調べてみる。		60分以上	
第10回	放射線と放射能 (原子と原子核、α線、β線、γ線、ベクレルとシーベルト、外部被曝、内部被曝)			予習・復習をしっかりと行うこと。特に、第10回のテーマについて、自分の取ったノートをもとに理解したことを整理すること。疑問点や興味を惹かれた点は、積極的に調べてみる。		60分以上	
第11回	GPSと相対性理論 (GPS、GNSS、位置情報、光の速さ、同時刻の相対性、時計の遅れ)			予習・復習をしっかりと行うこと。特に、第11回のテーマについて、自分の取ったノートをもとに理解したことを整理すること。疑問点や興味を惹かれた点は、積極的に調べてみる。		60分以上	
第12回	身の回りの量子 (粒子と波、量子の世界、半導体、LEDと太陽電池、フラッシュメモリとトンネル効果)			予習・復習をしっかりと行うこと。特に、第12回のテーマについて、自分の取ったノートをもとに理解したことを整理すること。疑問点や興味を惹かれた点は、積極的に調べてみる。		60分以上	
第13回	身の回りの量子 (粒子と波、量子の世界、半導体、LEDと太陽電池、フラッシュメモリとトンネル効果)			予習・復習をしっかりと行うこと。特に、第13回のテーマについて、自分の取ったノートをもとに理解したことを整理すること。疑問点や興味を惹かれた点は、積極的に調べてみる。		60分以上	
第14回	全体のまとめ（到達度試験）			特に、復習をしっかりと行うこと。第1回～第13回を通して、自分の取ったノートや「クイズ(おさらいテスト)」の講評などをもとに、理解したことを整理すること。		60分以上	
[授業の方法]							

スライドによる講義を中心に、毎回 **Course Power** の機能を利用した「クイズ (おさらいテスト)」を行う。そのため、スマートフォンあるいはパソコンを持参し、**Seikei-WiFi** に接続できるようにしておくこと。講義の目標達成のためには、ただ話を聴くだけでなく、主体的・積極的に自ら考えたり調べたりすることが重要である。必ず自分の手でノート (メモ) を取ること。ノートをとることは学習内容の定着や頭の整理にとって重要な作業のため、スライドや板書を許可なくスマホやカメラ等で撮影することは禁止する (正当な理由がある場合は、必ず申し出てください)。

〔パソコンに関する受講者への指示 (特別なソフトウェアのインストール等)〕

最終講義で実施する「到達度試験」の成績を主とするが (60%以上)、毎回の「クイズ (おさらいテスト)」の結果を加味する。その他に小テストや課題提出を行った場合は、その評価を適宜加味する可能性がある。

〔課題等へのフィードバック方法〕

次回講義以降に「クイズ (おさらいテスト)」の講評と解説を **Course Power** で公開・配布する。

〔成績評価の方法〕

成蹊大学の成績評価基準 (学則第 39 条) に準拠する。

- ・授業で取り上げたテーマに関してその原理や法則が理解できたか。
- ・科学的な考え方に則って物事を分析することができるか。
- ★理工学部生の場合は、上記に加えて数学表現を用いて定量的に説明できるか。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準 (学則第 38 条、39 条) に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 38, 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

高校「数学 I (必修)」程度の数学的な基礎知識があることを前提とする。

〔テキスト〕

なし (必要に応じてプリントを配布します)

〔参考書〕

特になし

〔質問・相談方法等 (オフィス・アワー)〕

できるだけ、授業時間中にわからない点があればその場で質問すること。それが、質問者本人にとっても、やりとりを聴いているまわりの学生にとっても、最も理解を深められる方法であるため。

時間があれば、講義終了後にも質問を受け付ける。

なお、連絡先を記載したガイダンス資料を、**Course Power** で公開・配布する。

〔特記事項〕

講義名	科学技術の発展と歴史						
教員名	渋谷 一夫						
講義コード	120730710	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2026 後期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>科学技術は長い歴史の中で多くの人びとの努力の積み重ねによって発展させられてきた。この授業では、18世紀後半にはじまる産業革命以降のヨーロッパの科学技術に関するいくつかのエピソードを取り上げながら、科学と技術とが相互に影響を及ぼしあいながらそれぞれどのように発展してきたのかを明らかにする。なお、授業の進捗によって、内容を一部変更する場合がある。</p>							
<p>〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕</p> <p>①それぞれの科学技術がどのような経過をたどって内的に発展してきたかを説明できる。 ②それぞれの科学技術が当時の社会・経済・政治などどのような関係にあったかを説明できる。 ③それぞれの科学技術が後の社会・経済・思想などにどのような影響を与えたかを説明できる。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	ガイダンス ・授業の内容、進め方、予習・復習のしかたなどを文書で説明する。 科学技術と産業革命 ・科学技術から見た産業革命について概観する。			【予習】産業革命とは何だったかを確認する。		60	
第2回	繊維産業における科学技術の発達 ・繊維産業が産業革命の起源になった要因について学修する。			【予習】講義レジュメを一読し、関心のある人物や項目について調べる。 【復習】キーワードとなる事象について説明できるようにする。		60	
第3回	動力技術の歴史（1）—蒸気機関の発明 ・蒸気機関を利用した時代の特徴を水車の利用との対比で学修する。			【予習】講義レジュメを一読し、関心のある人物や項目について調べる。 【復習】キーワードとなる事象について説明できるようにする。		60	
第4回	動力技術の歴史（2）—蒸気機関の改良と発展 ・工場で広範に利用された蒸気機関の特徴を、近代的な蒸気機関の発明者であるワットの研究に沿って学修する。			【予習】講義レジュメを一読し、関心のある人物や項目について調べる。 【復習】キーワードとなる事象について説明できるようにする。		60	
第5回	動力技術の歴史（3）—輸送技術の発達 ・蒸気機関の輸送技術への応用の意味について学修する。			【予習】講義レジュメを一読し、関心のある人物や項目について調べる。 【復習】キーワードとなる事象について説明できるようにする。		60	
第6回	製鉄技術の歴史 ・製鉄技術における新しい発明とその意義について学修する。			【予習】講義レジュメを一読し、関心のある人物や項目について調べる。 【復習】キーワードとなる事象について説明できるようにする。		60	
第7回	工作機械技術の歴史 ・工作機械技術の形成と発達過程を社会的事情とのかかわりで学修する。			【予習】講義レジュメを一読し、関心のある人物や項目について調べる。 【復習】キーワードとなる事象について説明できるようにする。また、課題レポートの作成に努める。		120	
第8回	化学技術の歴史（1）—漂白技術の新展開 ・繊維産業における漂白工程の新しいやりかたについて学修する。			【予習】講義レジュメを一読し、関心のある人物や項目について調べる。 【復習】キーワードとなる事象について説明できるようにする。		60	
第9回	化学技術の歴史（2）—環境問題の発生 ・漂白工程の近代化がもたらした環境悪化とそれに対する各種の取り組みについて学修する。			【予習】講義レジュメを一読し、関心のある人物や項目について調べる。 【復習】キーワードとなる事象について説明できるようにする。		60	
第10回	化学技術の歴史（3）—染料技術の新展開 ・新しい染料技術が生まれる科学的・技術的背景について学修する。			【予習】講義レジュメを一読し、関心のある人物や項目について調べる。 【復習】キーワードとなる事象について説明できるようにする。		60	
第11回	化学技術の歴史（4）—合成染料発明の意義 ・合成染料技術の開発に関する科学技術的特徴について学修する。			【予習】講義レジュメを一読し、関心のある人物や項目について調べる。 【復習】キーワードとなる事象について説明できるようにする。		60	
第12回	電気技術の歴史（1）—通信技術の新展開 ・通信技術の変化について学修する。			【予習】講義レジュメを一読し、関心のある人物や項目について調べる。 【復習】キーワードとなる事象について説明できるようにする。		60	
第13回	電気技術の歴史（2）—照明技術の新展開 ・電気照明にとって必要な関連技術とともに、電気照明の優位性について学修する。			【予習】講義レジュメを一読し、関心のある人物や項目について調べる。 【復習】キーワードとなる事象について説明できるようにする。		60	
第14回	電気技術の歴史（3）—電力生産と産業電化 ・電気技術が産業界に与えた影響とともに、その開発の意味を学修する。			【予習】講義レジュメを一読し、関心のある人物や項目について調べる。 【復習】キーワードとなる事象について説明できるようにする。		60	
<p>〔授業の方法〕</p> <p>授業は講義形式でおこなうが、教科書を使うわけではないので、ポータル上にあげるレジュメ（講義の要旨）と参考資料をプリントアウトして授業に望んでほしい。ある程度まで進んだ段階で「確認テスト」ないし「課題」を課すので、特に復習に力をいれてほしい。</p>							

<p>〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕</p>
<p>〔課題等へのフィードバック方法〕 課題や「確認テスト」について、時間の許す限り授業内で解説をおこなうが、十分にできないような場合にはポータル上にも解説を掲載する。</p>
<p>〔成績評価の方法〕 期末試験と数回課す予定の「課題」ないし「確認テスト」の提出とでつづけます。比率ですが、前者が70%、後者が30%です。</p>
<p>〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.</p>
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし</p>
<p>〔テキスト〕 特になし</p>
<p>〔参考書〕 『科学技術史概論』山崎正勝ほか編著、ムイスリ出版、1985年（購入の必要はありません）</p>
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 質問等は授業終了後に教室で受けつけます。</p>
<p>〔特記事項〕</p>

講義名	気象と地球環境						
教員名	財城 真寿美						
講義コード	120810110	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2026 後期
<p>[テーマ・概要]</p> <p>「低気圧がくると頭痛になる?」「天気予報はなぜ外れる?」「台風やゲリラ豪雨はどこからやってくる?」 皆さんが、日々の生活の中で天気について感じている素朴な疑問について、その仕組みや答えがわかるように、多くのイラストや図表を使って解説します。さらに、大気のような要素(気温や気圧)について、文系の学生や「物理」「地学」を学んだことのない学生でも取り組めるように、電卓を使った四則演算中心の物理の簡単な計算演習を通して、イメージから物理的理解へ学びを深めます。 また、ニュースなどでよく耳にするけど実はよくわかっていない「地球温暖化」や「エル・ニーニョ現象」など、地球規模でおこっている大気に関する現象や社会問題を解説し、個々の考えを議論します。 実際に気象業務に携わる専門家(気象予報士など)がゲスト講師として参加する回も予定しています。</p>							
<p>[科目内容を踏まえた到達目標の詳細]</p> <p>DP2【教養の修得】(広い視野での思考・判断)、DP3【課題の発見と解決】(情報の調査収集+分析・解釈+論理的思考)を実現するため、以下を到達目標とする。 大気現象について、そのしくみをイメージして図表や物理式から読み解くことができる。 地球温暖化など、地球規模で課題となっている大気現象について、社会の取り組みや個人の取り組みについて、個々の考えを述べるができる。</p>							
[授業の計画と準備学修]							
回数	授業の計画・内容			準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)	
第1回	講義ガイダンス ・研究倫理について ・講義計画の確認			シラバスを読み、講義計画を確認してくること		60	
第2回	地球の大気の構造			前回の講義内容の確認		60	
第3回	どうして風が吹く? (気圧と風:1)			前回の講義内容の確認		60	
第4回	うずを巻く風 (気圧と風:2)			前回の講義内容の確認		60	
第5回	気温はどうやって決まる? 温度計のしくみ (放射と熱)			前回の講義内容の確認		60	
第6回	「水」の様々な姿 (水蒸気と雲)			前回の講義内容の確認		60	
第7回	循環する地球の大気			前回の講義内容の確認		60	
第8回	天気予報がより身近に 読める天気図、描ける天気図 (低気圧と高気圧)			前回の講義内容の確認		60	
第9回	天気図でみる日本の四季			前回の講義内容の確認		60	
第10回	気象予報の最前線			前回の講義内容の確認		60	
第11回	台風はどこからやってくる? 台風災害の歴史			前回の講義内容の確認		60	
第12回	エル・ニーニョ現象、ラ・ニーニャ現象 (大気と海洋の相互作用)			前回の講義内容の確認		60	
第13回	就活に役立つ?地球温暖化1 (地球温暖化のしくみと現状)			前回の講義内容の確認		60	
第14回	就活に役立つ?地球温暖化2 (地球温暖化の国際的な取り組み)			全ての授業回を振り返って、復習・質問すべき事項を確認する		60	
<p>[授業の方法]</p> <p>配布プリントとPCプロジェクターを使用して講義を進めます。 毎回授業後半に授業内容を確認するためのクイズ・小レポートを実施します。</p>							
[パソコンに関する受講者への指示(特別なソフトウェアのインストール等)]							
<p>[課題等へのフィードバック方法]</p> <p>授業冒頭に、前週の授業内で実施したクイズ・小レポートの答え合わせをします。</p>							
[成績評価の方法]							

期末試験の結果（80%）と、課題や発言などの講義への取り組み（20%）で評価します。
期末試験では、電卓（通信機能のないもの）が使用可能で、授業で扱った物理式などの参考資料を配布予定です。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。
次の点に着目し、その達成度により評価する。
大気の現象について、そのしくみをイメージして図表や物理式から読み解くことができるか。
地球温暖化など、地球規模で課題となっている大気の現象について理解し、自分の言葉で説明できるか。
気象に関する地球的課題について、社会の取り組みや個人の取り組みについて、個々の考えを述べることができるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし

〔テキスト〕
本年度は指定しません。

〔参考書〕
「新 百万人の天気教室」白木正規，成山堂書店，ISBN：4425513525，購入の必要なし
「学んでみると気候学はおもしろい」日下博幸，ベレ出版，ISBN：4860643623，購入の必要なし
「みんなで学ぶ!地球科学の教科書」永田玲奈，古今書院，ISBN：4772281266，購入の必要なし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。

〔特記事項〕

講義名	日本列島の歴史と災害						
教員名	矢野 萌生						
講義コード	120810310	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 後期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>日本列島は日本人にとって文字通り生活の基盤となる大地である。日本列島の歴史については、明治時代以来の長い研究伝統があるが、これまで統一的な説明は出来なかった。近年の地球年代学の進歩により、これまで形成年代が不明だった地質体の位置付けがわかり、約 6 億年にわたる日本列島形成史が明らかになりつつある。本授業科目では、まず前半でそれらを理解するために必要な地球科学の基本的な知識の習得を目指す。後半では、日本列島に焦点を当てその特徴を理解するとともに、もたらされる恩恵と表裏一体で発生する災害について SDGs の観点も踏まえて考えることを目標とする。</p>							
<p>〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕</p> <p>地球科学の基礎的な知識を持つ。 日本列島の基本的な地球科学的性質が説明できる。 日本列島の形成史が説明できる。 日本列島で発生する災害やもたらされる恵みについて説明が出来る。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第 1 回	ガイダンス			シラバスを確認し、必要な学修内容を理解する。		60 分	
第 2 回	地球の形成と構造			大学入学までに地球について学んだことを振り返る。		60 分	
第 3 回	地球を作る物質			大学入学までに岩石や鉱物について学修したことを振り返る。		60 分	
第 4 回	プレートテクトニクス			大学入学までにプレートテクトニクスについて学修したことを振り返る。		60 分	
第 5 回	大気・海洋の大循環			大学入学までに気象や海洋について学修したことを振り返る。		60 分	
第 6 回	地球史			大学入学までに地球の歴史について学修したことを振り返る。		60 分	
第 7 回	鉱床と海底鉱物資源			大学入学までに資源について学修したことを振り返る。		60 分	
第 8 回	日本列島の地球科学			日本列島の地理・地形について予習する。		60 分	
第 9 回	日本列島の地震と災害			日本列島で発生する地震とそれによって起こる災害について予習する。		60 分	
第 10 回	日本列島の火山と災害			日本列島にある火山と噴火によって起こる災害について予習する。		60 分	
第 11 回	日本列島の気象災害			日本列島で発生する気象災害について予習する。		60 分	
第 12 回	日本列島と鉱山			かつて「黄金の国」と呼ばれた日本の歴史について学修したことを振り返る。		60 分	
第 13 回	日本の海底鉱物資源			近年の資源を巡るニュースや報道を検索し予習する。		60 分	
第 14 回	まとめと期末レポート提出			これまでの講義をまとめ、課題に取り組む。		60 分	
<p>〔授業の方法〕</p> <p>基礎知識についての講義と、適宜簡単な演習で構成し、画像や映像を多用する。 講義内容の概要を示したハンドアウトを配布する。 各回の最後に、学修内容の確認のための小テストを実施する。</p>							
<p>〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕</p> <p>特になし。</p>							
<p>〔課題等へのフィードバック方法〕</p> <p>各回とも、講義の最後に小テストを実施し、適宜提出物を課す。結果については次の講義で講評・解説する。</p>							
<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>毎回の小テスト（約 30%）、演習課題提出物（約 30%）、および期末レポート（約 40%）により総合的に評価する。</p>							

<p>〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。 /Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.</p>
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 中学校・高等学校での理科および社会科（特に地理分野）の学習内容を前提とする。</p>
<p>〔テキスト〕 特になし。</p>
<p>〔参考書〕 購入の必要はなし。 講義の中で適宜紹介する。</p>
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知します。 授業終了後に教室で受け付けます。</p>
<p>〔特記事項〕 (6) I C T活用</p>

講義名	自然環境と文明						
教員名	松山 洋						
講義コード	120810510	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 前期
<p>[テーマ・概要] 地球の自然環境は複雑なシステムがバランスをとりながら、うまく循環してきました。しかし人間が文明的な活動を始めた時から、人間は環境に様々な影響を与え、近年はそのバランスが崩れ、様々な環境問題が生じています。この講義では、過去の自然環境と文明に起こった変化がどのように関連していたのかを考え、さらに現代文明とこれからの地球環境のあり方を考えていきます。</p>							
<p>[科目内容を踏まえた到達目標の詳細] DP2（教養の修得、および広い視野での思考・判断）を実現するため、以下を到達目標とする。 過去の気候変動などが引き起こした文明や技術革新について理解を深め、自分の言葉で説明できる。 人間が環境変化に与えてきた影響について理解し、自分の言葉で説明できる。</p>							
[授業の計画と準備学修]							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	1) ガイダンス ・この授業で学修することを説明する。 ・担当教員のプロモーションビデオを見て、どのような視点から授業が展開されるかを理解する。			【予習】この授業のシラバスを読む。 【復習】サイエンスチャンネル 未来を創る科学者達 (72) 水から見える地球の姿を見る。 http://sciencechannel.jst.go.jp/1026904/detail/1056904072.html		【予習・復習】60分	
第2回	2) 現代文明がもたらした最近の環境変化（その1） ・「20世紀最大の環境破壊」と言われた中央アジアのアラル海で起こってきた環境破壊について学修する。			【予習】『地球水環境と国際紛争の光と影-カスピ海・アラル海・死海と21世紀の中央アジア/ユーラシア』水文・水資源学会編集出版委員会編、信山社サイテック、2,752円、ISBN-13: 978-4882615477を読む。		【予習】90分	
第3回	3) 現代文明がもたらした最近の環境変化（その2） ・乾燥地域で人々が暮らすための自然環境について学修する。 ・中央アジアのバルハシ湖では、隣接するアラル海と違って、なぜ大規模な環境破壊につながらなかったのかを学修する。			【予習】『図説・世界の地域問題』漆原和子・藤塚吉浩・松山洋・大西宏治編、ナカニシヤ出版、2,625円、ISBN-13: 978-4779502040を読む。		【予習】90分	
第4回	4) 現代文明がもたらした最近の環境変化（その3） ・アマゾン川流域の熱帯雨林破壊について学修する。 ・アマゾン川流域の熱帯雨林が流域内外の水循環に及ぼす影響について学修する。			【予習】『アマゾン-生態と開発-』西沢利栄・小池洋一、岩波新書、609円、ISBN-13: 978-4004302292を読む。		【予習】90分	
第5回	5) 4大文明の話 ・「なぜ、5,000年前に4大文明はあそこに成立したのか？」を学修する。 ・過去の気候について学ぶ前に、現代の気候はどのように形成されているのかを学修する。			【予習】『やさしい気候学-第5版-』仁科淳司、古今書院、2,600円、ISBN-13: 978-4772285117の第2~4章を読む。		【予習】60分	
第6回	6) 過去の気候 その1 ・気候システム、およびその源となる太陽活動について学修する。 ・観測機器と古文書を用いた過去の気候の復元方法について学修する。			【予習】『講座 文明と環境（第1巻）地球と文明の周期』小泉格・安田喜憲編、朝倉書店、3,800円、ISBN-13: 978-4254106510。および『やさしい気候学-第5版-』仁科淳司、古今書院、2,600円、ISBN-13: 978-4772285117の第7章を読む。		【予習】120分	
第7回	7) 過去の気候 その2 ・花粉、氷床コア、年輪、地形、ブランクトンを用いた過去の気候の復元方法について学修する。			【予習】『やさしい気候学-第5版-』仁科淳司、古今書院、2,600円、ISBN-13: 978-4772285117の第7章をもう一度読む。		【予習】60分	
第8回	8) 農耕と文明 その1 ・農耕、および麦作の起源について学修する。 ・貧富の格差を生み出さない農耕のあり方（プッシュマン）があることについても学修する。			【予習】『講座 文明と環境（第3巻）農耕と文明』梅原猛・安田喜憲編、朝倉書店、3,800円、ISBN-13: 978-4254105537を読む。		【予習】90分	
第9回	9) 農耕と文明 その2 ・稲作の起源、および縄文時代から弥生時代への環境変化について学修する。			【予習】『講座 文明と環境（第3巻）農耕と文明』梅原猛・安田喜憲編、朝倉書店、3,800円、ISBN-13: 978-4254105537。および『魏志倭人伝、卑弥呼、日本書紀をつなぐ糸』野上道男、古今書院、2,625円、ISBN-13: 978-4772231459を読む。		【予習】120分	
第10回	10) 農耕と文明 その3 ・マヤ文明を支えたトウモロコシ栽培、およびインカ文明を支えたジャガイモ栽培について学修する。			【予習】『マヤ文明-密林に栄えた石器文化』青山和夫、岩波新書、840円 ISBN-13: 978-4004313649。および『ジャガイモのきた道-文明・飢饉・戦争』山本紀夫、岩波新書、777円 ISBN-13: 978-4004311348を読む。		【予習】120分	
第11回	11) 火山噴火と文明 ・火山噴火のメカニズムについて学修する。 ・火山噴火が自然環境と文明に与えた影響について概観し、天明の飢饉を例にその実態について学修する。			【予習】『火山噴火と環境・文明』町田洋・森脇広編、思文閣出版、2,460円、ISBN-13: 978-4784208449を読む。		【予習】90分	
第12回	12) 森林と文明 ・メソポタミア文明とミノア文明が森林を利用して繁栄し、森林が枯渇するとともに滅んでいったことについて学修する。			【予習】『講座 文明と環境（第9巻）森と文明』菅原聡・安田喜憲編、朝倉書店、3,800円、ISBN-13: 978-4254106596。および『気候が文明を変える』安田喜憲、岩波書店、1,000円、ISBN-10: 400065076を読む。		【予習】120分	
第13回	13) 歴史時代の気候と文明 ・古墳寒冷期、中世の温暖期と小氷期に起こったできごとと自然環境との関係について学修する。			【予習】『尾瀬ヶ原の自然史』阪口豊、中公新書、632円、ISBN-13: 978-4121009289。および『講座 文明と環境（第6巻）歴史と気候』吉野正敏・安田喜憲編、朝倉書店、3,800円、ISBN-13: 978-4254106565を読む。		【予習】120分	
第14回	14) 将来の環境予測 ・地球温暖化にともなって、どのような環境変化が予測されているかについて学修する。 ・地球温暖化の話をする前に、「地球の気温はどう決まる			【予習】『IPCC AR6/WG1 報告書 政策決定者向け要約（SPM）暫定訳』を読む。 (https://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/ipcc/ar6/index.html からダウンロード可能です)		【予習】90分	

	か？」について説明する。		
<p>〔授業の方法〕</p> <p>配布資料は、授業のある週の月曜日には CoursePower に置きます（ただし、配布資料の一部がブランクになっています）。必要ならば、各自ダウンロードして紙に出力してから授業に臨んで下さい。授業では紙の資料を配布しません（小テストやコメントシートを除く）。授業は Power Point を用いて進めます。授業で見せるスライドでは、配布資料中のブランクを外してあります。予告なく、授業中に何回か小テストを行ったり、レポートを課したりします。これが成績評価の 50% になります。上で示された準備学修の時間はあくまで目安ですので、各自の理解度に応じて取り組んで下さい。また、授業の進捗状況によっては、内容を一部変更する場合があります。</p>			
<p>〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕</p> <p>特にありません。</p>			
<p>〔課題等へのフィードバック方法〕</p> <p>課題はコメントをつけて、次回の授業の冒頭に返却します。また、いただいた質問については、質問者名を伏せた状態で、次回の授業の冒頭で紹介して回答します。</p>			
<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>授業中に何回か行なう小テスト・レポート（50%）と学期末試験（50%）で成績をつけます。レポートを全て提出し、学期末試験を受けた方だけを成績評価の対象とします。小テスト・レポートは遅れてもよいので提出しましょう（ただし、遅れて提出した場合、得点は最高でも合格最低点になります）。学期末試験は50点満点で採点し、小テスト・レポート（50点）と合わせて60点以上を合格とします。</p> <p>S: 90点以上 A: 80～89点 B: 70～79点 C: 60～69点 F: ～59点</p> <p>小テスト・レポート、学期末試験の採点は厳格に行いません。せっかく履修申請してもよい成績が取れない場合もありますし、場合によっては単位を取れない場合もありますので、そのつもりで履修申請して下さい。</p>			
<p>〔成績評価の基準〕</p> <p>成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠します。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 次の点に着目し、その達成度によって評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小テスト・レポート、学期末試験について、授業で学んだことを述べることができる。 ・さらに自分の考えを述べることができる。 			
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕</p> <p>関連科目：「環境と科学（地球と環境）」「自然地理学」「地球環境問題」</p>			
<p>〔テキスト〕</p> <p>購入する必要はありません。</p>			
<p>〔参考書〕</p> <p>準備学修の箇所に具体的に記しましたが、それ以外の参考書を以下に挙げます。</p> <p>『気候変化と人間～1万年の歴史～』 鈴木秀夫、原書房、6,090円、ISBN-13: 978-4562090532. 『気候の変化が言葉をかえた』 鈴木秀夫、日本放送協会、780円、ISBN-13: 978-4140016077 『ジャガイモとインカ帝国-文明を生んだ植物』 山本紀夫、東京大学出版会、4,410円 ISBN-13: 978-4130633208 『高地文明-「もう一つの四大文明」の発見』 山本紀夫、中央公論社、1,155円 ISBN-13: 978-4121026477</p>			
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕</p> <p>質問や相談は、授業終了後の教室で受け付けます。または、電子メールを活用して下さい（メールアドレスは、授業の配布資料に掲載します）。</p>			
<p>〔特記事項〕</p>			

講義名	外国の自然と社会A						
教員名	加賀美 雅弘						
講義コード	120810610	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 前期
<p>〔テーマ・概要〕 「食からみたヨーロッパの自然と社会」 本講義ではヨーロッパの自然と社会の特性を、ヨーロッパ特有の食に着目して考察します。そのために、ヨーロッパの食の変化を、①自然環境に規定されたローカルな食文化、②近代化に伴う社会格差の拡大と食の多様化、③工業化による食の大衆化、の3点に着目した説明を行い、地域の変化と関連づけた理解を深めます。なお、必要に応じて、日本との違いにも言及します。</p>							
<p>〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕 DP2（教養の修得）、DP5（多様な人々との協働）を実現し、現代社会を地理的にとらえるために、以下の3点を到達目標とします。 ① 自然環境とともに社会の変化が多様な要因によって規定されることを学び、社会を多角的にとらえる視野を養う。 ② 今日のヨーロッパの社会が、ヨーロッパと世界との結びつきのなかで形成されてきたことを理解する。 ③ 日本の社会と対比することにより、世界各地の社会を相対的に見る視点を養う。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	「オリエンテーション」 ・授業の全体像、進め方などを説明する。 ・ヨーロッパの概略を説明する。			【予習】ヨーロッパの地図を見て、国の位置を理解しておく。 【復習】ヨーロッパの国名など地図を使った理解を深める。		60	
第2回	「食の地域差と文化・社会」 ・世界の自然環境と人の暮らしの関係を、食の地域差に着目して説明する。			【予習・復習】世界の自然環境と農業・食の関係に関する参考文献を読み、知識を蓄える。		100	
第3回	「ヨーロッパの自然環境と食（1）」 ・自然環境と農業の関係を、コムギと油脂に着目した食文化に着目して説明する。			【予習・復習】ヨーロッパの自然環境に関する参考文献を読み、知識を蓄える。		100	
第4回	「ヨーロッパの自然環境と食（2）」 ・北西ヨーロッパの自然環境と農業の関係を、酪農と牛乳に着目して説明する。			【予習・復習】ヨーロッパの自然環境に関する参考文献を読み、知識を蓄える。		100	
第5回	「社会的弱者のための食（1）」 ・貧困層の社会的地位を、トウモロコシに着目して解説する。 ・社会的弱者の特性を病気（ペラグラ）に着目して検討する。			【予習・復習】トウモロコシの歴史についての参考文献を読み、知識を蓄える。		100	
第6回	「社会的弱者のための食（2）」 ・貧困層の社会的地位を、ジャガイモについて解説する。 ・アイルランド飢饉から社会的弱者の特性を考察する。			【予習・復習】ジャガイモの歴史についての参考文献を読み、知識を蓄える。		100	
第7回	「中間まとめ」 ・自然環境と食との関係について考察する。 ・社会的弱者と食との関係について考察する。			【予習・復習】これまでの講義の内容を、資料と参考文献を踏まえて整理する。		150	
第8回	「都市の富裕社会」 ・富裕層の社会の特徴を、都市の街並みや構造を踏まえて説明する。 ・富裕層の暮らしと現代のヨーロッパの生活文化との関係について考察する。			【予習・復習】近代化と富裕層に関する参考文献を読み、知識を蓄える。		100	
第9回	「富裕社会と食（1）」 ・富裕層の社会の特徴を、砂糖の歴史に着目して説明する。 ・砂糖の栽培と消費から世界の格差について考察する。			【予習・復習】砂糖の歴史に関する参考文献を読み、知識を蓄える。		100	
第10回	「富裕社会と食（2）」 ・富裕層の社会の特徴を、コーヒーの歴史に着目して説明する。 ・ヨーロッパの市民社会形成とコーヒーとの関係を論じる。			【予習・復習】コーヒーの歴史に関する参考文献を読み、知識を蓄える。		100	
第11回	「富裕社会と食（3）」 ・富裕層の社会の特徴を、ミネラルウォーターの歴史に着目して説明する。 ・ステータスシンボルとしての飲料水について解説する。			【予習・復習】ミネラルウォーターの歴史に関する参考文献を読み、知識を蓄える。		100	
第12回	「グローバル社会と食（1）」 ・富裕層の社会の特徴を、チョコレートの歴史に着目して解説する。 ・工業化によるチョコレートの多様化を説明する。			【予習・復習】チョコレートの歴史に関する参考文献を読み、知識を蓄える。		100	
第13回	「グローバル社会と食（2）」 ・自然環境に規定された農産加工品の特徴を、ビールに着目して説明する。 ・工業化によるビールのグローバル化を解説する。			【予習・復習】ビールの歴史と食の工業化に関する参考文献を読み、知識を蓄える。		100	
第14回	「最終まとめ」 ・社会的強者と食との関係について考察する。 ・グローバル化と食との関係について考察する。			【予習・復習】授業内容を整理し、ヨーロッパ社会に関する理解を進める。		150	
<p>〔授業の方法〕 授業は、内容を整理したパワーポイントを使用して行い、講義内容の理解をはかります。また、毎時間に課題を課し、リアクションペーパーの執筆を求めます。これによって学習内容の理解度を確認します。</p>							

<p>〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕</p>
<p>〔課題等へのフィードバック方法〕 授業時に、前回のリアクションペーパーに対する講評を行い、質問に対する説明を行います。</p>
<p>〔成績評価の方法〕 学期末試験および期末レポートは実施しない。「平常点（中間まとめと最終まとめ 67%、毎回の授業で課すリアクションペーパー 34%）：100%」で成績評価します。ただし、中間まとめと最終まとめは必ず提出するものとします。</p>
<p>〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 以下の点について、その達成度により評価します。 ①ヨーロッパにおける自然環境と人の暮らしの関係を理解している。 ②食との関わりから、ヨーロッパの社会の変化を理解している。 ③食との関わりから、世界におけるヨーロッパ社会の特徴を理解している。</p>
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 ヨーロッパの国名と地名について、地図帳を利用して把握しておいてください。</p>
<p>〔テキスト〕 『食で読み解くヨーロッパ—地理研究の現場から—』 加賀美雅弘著、朝倉書店、3000 円+税、ISBN978-4-254-16360-5</p>
<p>〔参考書〕 特になし</p>
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 リアクションペーパーやメールで受け付けます。初回授業でも周知します。</p>
<p>〔特記事項〕</p>

講義名	外国の自然と社会B						
教員名	木戸口 智明						
講義コード	120810710	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 前期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>本講義は、地誌学の観点からアジアの経済社会について学習します。アジアは世界最大の人口を抱えるとともに、工業化の進展によって急速に経済成長が進んできました。本講義は、地域（場所）の総合的な理解を目指す学問領域である地誌学の立場から、アジアの地域的な特徴について考えます。具体的には、世界経済におけるアジアの立ち位置、アジア内部の空間構造や地域間関係、アジア各国の自然環境や産業構造の特徴について理解することを目的とします。本講義の前半部は、第二次世界大戦前後までのアジア全体の歴史的・地理的な変化を概観します。後半部は、アジアをいくつかの国や地域に分けて産業構造の変化に注目しながら地域的な特徴を紐解いていきます。</p>							
<p>〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕</p> <p>以下の3点を到達目標とします。</p> <p>①アジアにおける経済社会の変化を理解できる。</p> <p>②アジア諸国の自然環境や産業構造の特徴について説明することができる。</p> <p>③世界経済におけるアジアの立ち位置について説明することができる。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	イントロダクション			シラバスの確認		60	
第2回	アジアの自然環境と宗教			前回の復習、疑問点の整理		60	
第3回	ヨーロッパ諸国によるアジア支配			前回の復習、疑問点の整理		60	
第4回	近代日本のアジア進出			前回の復習、疑問点の整理		60	
第5回	アジア諸国の独立			前回の復習、疑問点の整理		60	
第6回	中国（1）：計画経済から市場経済へ			前回の復習、疑問点の整理		60	
第7回	中国（2）：国家資本主義とその矛盾			前回の復習、疑問点の整理		60	
第8回	台湾：受託製造の高度化			前回の復習、疑問点の整理		60	
第9回	韓国：経済発展の軌跡			前回の復習、疑問点の整理		60	
第10回	東南アジア：工業化と都市化			前回の復習、疑問点の整理		60	
第11回	オセアニア：資源開発と大規模農業			前回の復習、疑問点の整理		60	
第12回	アジアのなかの日本（1）：フルセット型産業構造の再編			前回の復習、疑問点の整理		60	
第13回	アジアのなかの日本（2）：日本企業のアジア進出			前回の復習、疑問点の整理		60	
第14回	まとめ：世界経済におけるアジアの立ち位置			前回の復習、疑問点の整理		60	
<p>〔授業の方法〕</p> <p>講義形式で進めます。講義は担当教員が配布するスライド資料をもとに進めます。毎回の講義でリアクションペーパーを配布するので、講義の感想や疑問点などを記入して講義終了後に提出してください。</p>							
〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕							
<p>〔課題等へのフィードバック方法〕</p> <p>リアクションペーパーで出された疑問点については、次回の講義の冒頭でフィードバックします。</p>							
〔成績評価の方法〕							

平常点（授業への参加状況や宿題の提出状況）30%、学期末試験 70%にもとづいて評価します。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

以下の 3 点を評価基準とします。

- ①アジアにおける経済社会の変化を理解している。
- ②アジア諸国の自然環境の違いや産業構造の特徴についてわかりやすく説明することができる。
- ③世界経済におけるアジアの立ち位置について自分の言葉で説明することができる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

予備知識は必要ないですが、「外国の自然と社会 A」とあわせて受講すると理解がより深まります。

〔テキスト〕

特になし

〔参考書〕

いずれの参考書も「購入の必要なし」ですが、新書については比較的安価で入手しやすいため手元においておくことを推奨します。

上野和彦編（2011 年）：『世界地誌シリーズ 2 中国』朝倉書店。ISBN-13：9784254168563

菊地俊夫・小田宏信編（2014 年）：『世界地誌シリーズ 7 東南アジア・オセアニア』朝倉書店。ISBN-13：9784254169270

川端基夫（2017 年）：『消費大陸アジアー巨大市場を読み解く』ちくま新書。ISBN-13：9784480069849

岩崎育夫（2019 年）：『アジア近現代史』中公新書。ISBN-13：9784121025388

後藤健太（2019 年）：『アジア経済とは何か』中公新書。ISBN-13：9784480069849

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知します。

また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

講義名	地域づくり論						
教員名	小室 謙						
講義コード	120810810	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 前期
<p>〔テーマ・概要〕 観光産業は、少子高齢化や地域産業の空洞化が進行する昨今の日本において、外貨を獲得し、地域の交流人口を増やす有望な産業として位置づけられています。その一方で、昨今の国内外の観光地をめぐる観光振興（オーバーツーリズムなど）や観光危機（疫病や経済危機など）の発生、地域振興と環境保全の両立など、持続可能でレジリエントな観光地づくりに向けて多くの課題を抱えています。こうした中、本授業では観光地政策の沿革を頭に入れたうえで、主に地方圏観光地におけるケーススタディを通じて、実際の観光地が持続可能な地域経済社会の実現に向けてどのような地域づくりを実践しているのかを学習します。あわせて、受講者のみなさんには事例地域を決めていただき、各地域における観光地づくりの実践例を調査して報告していただく予定です。</p>							
<p>〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕 DP2（教養の修得）およびDP5（多様な人々との協働）を実現するため、以下を到達目標とします。 (1) 観光に関連した地域政策の沿革や昨今の状況について、概要を理解できる。 (2) 各地域に固有の課題と固有の資源に着目して持続可能な地域づくりを構想する視点を獲得できる。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	ガイダンス			シラバスを確認する		60	
第2回	観光政策の沿革			前回の復習		60	
第3回	観光地域づくりの実践1（地域の国際化と対応）			前回の復習		60	
第4回	観光地域づくりの実践2（観光振興と雇用の不足）			前回の復習		60	
第5回	観光地域づくりの実践3（観光開発と公害）			前回の復習		60	
第6回	観光地域づくりの実践4（観光振興と環境保全の両立）			前回の復習		60	
第7回	中間まとめ（前回までのふりかえり）			前回の復習		60	
第8回	最終発表に向けたテーマ設定と評価指標の策定			前回の復習		60	
第9回	現地調査によるデータ収集			収集データの整理		90	
第10回	次回発表に関する中間報告			収集データの整理		90	
第11回	最終発表会(1)			前回の復習/事例紹介の準備		90	
第12回	最終発表会(2)			前回の復習/事例紹介の準備		90	
第13回	最終発表会(3)			前回の復習/事例紹介の準備		60	
第14回	総まとめ（発表会のふりかえり）			自身/他者の発表に対するふりかえり		60	
<p>〔授業の方法〕 講義および演習の形式を併用します。小課題を課す場合もあります。</p>							
〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕							
<p>〔課題等へのフィードバック方法〕 発表内容に対してコメントします。</p>							
〔成績評価の方法〕							

平常点評価 100% (授業内の発言や課題、グループワークの参加、発表演習)

〔成績評価の基準〕

上記の評価法で、成績評価の基準は、成蹊大学の成績評価基準(学則第38条、39条)に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.
上記、到達目標の達成度に基づいて評価する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

先修科目：「日本の国土と社会」を履修済み、もしくは同時履修することが望ましい。

〔テキスト〕

必要に応じて、授業内で紹介します。

〔参考書〕

必要に応じて、授業内で紹介します。

〔質問・相談方法等 (オフィス・アワー)〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

講義名	近現代のアジア<1>						
教員名	小二田 章						
講義コード	120820110	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2026 前期
<p>[テーマ・概要]</p> <p>19-20世紀の東アジア(中国・日本・朝鮮・ヴェトナムなど)は、西欧が要請し強制する「近代」秩序のなかに組み込まれ、既存の伝統社会からの急激な脱却・「近代国家」化を余儀なくされた。この伝統から「近代」へ、そして二つの世界大戦を経た「現代」への道のりは、東アジア諸地域とその社会にどのような影響をもたらしたのか。本講義は現在に至る東アジア社会の基礎的な理解を得るため、近世→近代→現代に至る社会の歴史の変遷に焦点を絞り、いま直面する社会とその問題にどのように結びつくのかを概観する。</p>							
<p>[科目内容を踏まえた到達目標の詳細]</p> <p>DP2(教養の修得)を実現するため、次の3点を到達目標とする。</p> <p>① 東アジアの伝統社会から現代に向かう歴史を概観し、基礎的な知識を身につける。</p> <p>② 東アジア諸国と日本の関わりから、国際理解と関係の背景理解の視座を得る。</p> <p>③ 東アジア社会を歴史の視点から総合的に捉えられるようにする。</p>							
[授業の計画と準備学修]							
回数	授業の計画・内容			準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)	
第1回	授業ガイダンス: 授業の進め方、予習・復習の仕方等を説明する。 近現代のアジアを学ぶ意義について			予習:シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 復習:授業の全体像や進め方、評価基準等について確認する。		60	
第2回	「近代」および「現代」とは何か: 西欧に生まれ、世界を席卷した枠組である「近代」とその転換した「現代」について概念を確認する。			予習:適宜、興味のある参考文献の「序章」「序論」などに目を通す。 復習:学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第3回	前提理解(1)中国の「近世」: 前近代東アジア秩序の中心にあった中国・清朝についてその政治・社会・文化を概観する。			予習:参考文献Aの関連個所に目を通しておく。 復習:学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第4回	前提理解(2)日本の「近世」: 日本・江戸幕府(徳川期)について、その政治・社会・文化を概観する。			予習:参考文献Bの関連個所に目を通しておく。 復習:学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第5回	前提理解(3)朝鮮の「近世」: 朝鮮・朝鮮王朝について、その「近世」の位置づけも含め政治・社会・文化を概観する。			予習:参考文献Cの関連個所に目を通しておく。 復習:学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第6回	前提理解(4)ヴェトナムの「近世」: ヴェトナムの阮朝成立前後から、「近世」の位置づけも含め政治・社会・文化を概観する。			予習:参考文献Dの関連個所に目を通しておく。 復習:学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第7回	補足回・東アジアのそのと近現代: 「小アジア」「中東」「南アジア」「中央アジア」における「近代」「現代」を概観する。			予習:興味のある地域の「近現代史」について、適宜参考文献に目を通す。 復習:今回の内容が東アジアにどのように影響するか考えてみる		60	
第8回	東アジアの「近代」(1)中国: 中国における「近代」の到来と動乱を通じてその政治・社会・文化を概観する。			予習:参考文献Aの関連個所に目を通しておく。 復習:学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第9回	東アジアの「近代」(2)日本: 日本における「近代」の到来と最終的挫折に至る過程からその政治・社会・文化を概観する。			予習:参考文献Bの関連個所に目を通しておく。 復習:学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第10回	東アジアの「近代」(3)朝鮮とヴェトナム: 朝鮮・ヴェトナムへの「近代」強要と被植民地支配を通じてその社会の変化を概観する。			予習:参考文献C、Dの関連個所に目を通しておく。 復習:学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第11回	東アジアの「現代」(1)中国: 大戦後の中国における政治・社会の変化を概観し、現在に繋がる基礎を認識する。			予習:参考文献Aの関連個所に目を通しておく。 復習:学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第12回	東アジアの「現代」(2)日本: 大戦後の日本における政治・社会・国際関係の変化を概観し、現在に繋がる基礎を認識する。			予習:参考文献Bの関連個所に目を通しておく。 復習:学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第13回	東アジアの「現代」(3)朝鮮とヴェトナム: 大戦後の朝鮮・ヴェトナムの政治・国際関係の変化を概観し、現在に繋がる基礎を認識する。			予習:参考文献C、Dの関連個所に目を通しておく。 復習:学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第14回	まとめ、授業の内容確認(期末テスト)			予習:講義で配布したレジュメ、制作したレポートを再度確認する。 復習:テストの内容を再確認するとともに、興味を持った事柄を調べ進めてみる。		60	
[授業の方法]							
<ul style="list-style-type: none"> ・授業は講義形式(毎回レジュメを配布し、講師の話とPPTを視聴する)で行う。 ・授業にて毎回リアクションペーパーを配り、授業終了時に提出させる。 ・授業の進度によって内容が変更する場合もある。 							
[パソコンに関する受講者への指示(特別なソフトウェアのインストール等)]							
[課題等へのフィードバック方法]							
リアクションペーパーの一部について、次回時に(または動画にて)教員が回答を行う。							

<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>毎回の授業後に提出するリアクションペーパーと授業態度（20%） 小レポートの提出（文献の要約と感想、20%）、 期末テスト（最終回授業時に行う、60%） による総合評価とする。</p>
<p>〔成績評価の基準〕</p> <p>成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.</p> <p>次の点に着目し、その達成度により評価する。</p> <p>①東アジア史における基本的な理解ができているか。 ②近現代史を歴史的視座から概観し理解することができるか。</p>
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕</p> <p>高校の際に「世界史」「日本史」など歴史科目を履修しなかった学生も歓迎します。 授業内容のより深い理解のため、歴史に興味関心を持つことができればなお歓迎です。</p>
<p>〔テキスト〕</p> <p>特になし</p>
<p>〔参考書〕</p> <p>A 山本英史『現代中国の履歴書』（慶応義塾大学出版会、2003） B 小風秀雅『日本近現代史』（放送大学教育振興会、2009） C 須川英徳・三ツ井崇『韓国朝鮮の歴史と文化』（放送大学教育振興会、2021） D 岡田雅志『一冊でわかるベトナム史』（河出書房新社、2024） その他、授業時に適宜紹介する。</p>
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕</p> <p>ポータルサイトで周知します。 また、授業終了後に教室で受け付けます。</p>
<p>〔特記事項〕</p>

講義名	近現代のアジア<2>						
教員名	小二田 章						
講義コード	120820120	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2026 前期
<p>[テーマ・概要]</p> <p>19-20世紀の東アジア(中国・日本・朝鮮・ヴェトナムなど)は、西欧が要請し強制する「近代」秩序のなかに組み込まれ、既存の伝統社会からの急激な脱却・「近代国家」化を余儀なくされた。この伝統から「近代」へ、そして二つの世界大戦を経た「現代」への道のりは、東アジア諸地域とその社会にどのような影響をもたらしたのか。本講義は現在に至る東アジア社会の基礎的な理解を得るため、近世→近代→現代に至る社会の歴史の変遷に焦点を絞り、いま直面する社会とその問題にどのように結びつくのかを概観する。</p>							
<p>[科目内容を踏まえた到達目標の詳細]</p> <p>DP2(教養の修得)を実現するため、次の3点を到達目標とする。</p> <p>① 東アジアの伝統社会から現代に向かう歴史を概観し、基礎的な知識を身につける。</p> <p>② 東アジア諸国と日本の関わりから、国際理解と関係の背景理解の視座を得る。</p> <p>③ 東アジア社会を歴史の視点から総合的に捉えられるようにする。</p>							
[授業の計画と準備学修]							
回数	授業の計画・内容			準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)	
第1回	授業ガイダンス: 授業の進め方、予習・復習の仕方等を説明する。 近現代のアジアを学ぶ意義について			予習:シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 復習:授業の全体像や進め方、評価基準等について確認する。		60	
第2回	「近代」および「現代」とは何か: 西欧に生まれ、世界を席卷した枠組である「近代」とその転換した「現代」について概念を確認する。			予習:適宜、興味のある参考文献の「序章」「序論」などに目を通す。 復習:学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第3回	前提理解(1)中国の「近世」: 前近代東アジア秩序の中心にあった中国・清朝についてその政治・社会・文化を概観する。			予習:参考文献Aの関連個所に目を通しておく。 復習:学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第4回	前提理解(2)日本の「近世」: 日本・江戸幕府(徳川期)について、その政治・社会・文化を概観する。			予習:参考文献Bの関連個所に目を通しておく。 復習:学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第5回	前提理解(3)朝鮮の「近世」: 朝鮮・朝鮮王朝について、その「近世」の位置づけも含め政治・社会・文化を概観する。			予習:参考文献Cの関連個所に目を通しておく。 復習:学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第6回	前提理解(4)ヴェトナムの「近世」: ヴェトナムの阮朝成立前後から、「近世」の位置づけも含め政治・社会・文化を概観する。			予習:参考文献Dの関連個所に目を通しておく。 復習:学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第7回	補足回・東アジアのそのと近現代: 「小アジア」「中東」「南アジア」「中央アジア」における「近代」「現代」を概観する。			予習:興味のある地域の「近現代史」について、適宜参考文献に目を通す。 復習:今回の内容が東アジアにどのように影響するか考えてみる		60	
第8回	東アジアの「近代」(1)中国: 中国における「近代」の到来と動乱を通じてその政治・社会・文化を概観する。			予習:参考文献Aの関連個所に目を通しておく。 復習:学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第9回	東アジアの「近代」(2)日本: 日本における「近代」の到来と最終的挫折に至る過程からその政治・社会・文化を概観する。			予習:参考文献Bの関連個所に目を通しておく。 復習:学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第10回	東アジアの「近代」(3)朝鮮とヴェトナム: 朝鮮・ヴェトナムへの「近代」強要と被植民地支配を通じてその社会の変化を概観する。			予習:参考文献C、Dの関連個所に目を通しておく。 復習:学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第11回	東アジアの「現代」(1)中国: 大戦後の中国における政治・社会の変化を概観し、現在に繋がる基礎を認識する。			予習:参考文献Aの関連個所に目を通しておく。 復習:学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第12回	東アジアの「現代」(2)日本: 大戦後の日本における政治・社会・国際関係の変化を概観し、現在に繋がる基礎を認識する。			予習:参考文献Bの関連個所に目を通しておく。 復習:学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第13回	東アジアの「現代」(3)朝鮮とヴェトナム: 大戦後の朝鮮・ヴェトナムの政治・国際関係の変化を概観し、現在に繋がる基礎を認識する。			予習:参考文献C、Dの関連個所に目を通しておく。 復習:学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第14回	まとめ、授業の内容確認(期末テスト)			予習:講義で配布したレジュメ、制作したレポートを再度確認する。 復習:テストの内容を再確認するとともに、興味を持った事柄を調べ進めてみる。		60	
[授業の方法]							
<ul style="list-style-type: none"> ・授業は講義形式(毎回レジュメを配布し、講師の話とPPTを視聴する)で行う。 ・授業にて毎回リアクションペーパーを配り、授業終了時に提出させる。 ・授業の進度によって内容が変更する場合もある。 							
[パソコンに関する受講者への指示(特別なソフトウェアのインストール等)]							
[課題等へのフィードバック方法]							
リアクションペーパーの一部について、次回時に(または動画にて)教員が回答を行う。							

<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>毎回の授業後に提出するリアクションペーパーと授業態度（20%） 小レポートの提出（文献の要約と感想、20%）、 期末テスト（最終回授業時に行う、60%） による総合評価とする。</p>
<p>〔成績評価の基準〕</p> <p>成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39. 次の点に着目し、その達成度により評価する。 ①東アジア史における基本的な理解ができているか。 ②近現代史を歴史的視座から概観し理解することができるか。</p>
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕</p> <p>高校の際に「世界史」「日本史」など歴史科目を履修しなかった学生も歓迎します。 授業内容のより深い理解のため、歴史に興味関心を持つことができればなお歓迎です。</p>
<p>〔テキスト〕</p> <p>特になし</p>
<p>〔参考書〕</p> <p>A 山本英史『現代中国の履歴書』（慶応義塾大学出版会、2003） B 小風秀雅『日本近現代史』（放送大学教育振興会、2009） C 須川英徳・三ツ井崇『韓国朝鮮の歴史と文化』（放送大学教育振興会、2021） D 岡田雅志『一冊でわかるベトナム史』（河出書房新社、2024） その他、授業時に適宜紹介する。</p>
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕</p> <p>ポータルサイトで周知します。 また、授業終了後に教室で受け付けます。</p>
<p>〔特記事項〕</p>

講義名	近現代のヨーロッパ<1>						
教員名	佐伯 哲朗						
講義コード	120820210	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2026 前期
<p>[テーマ・概要] 現代世界を理解する上で重要な近現代のヨーロッパの歴史に関する基本的知識を身につけ、専門科目学習の基礎を作ることを目指す。19世紀初頭の時期から20世紀中葉の第2次世界大戦の時代までの国際関係、イギリス、フランス、ドイツを中心にして欧州諸国の歴史をたどる。この中で、現代世界の諸問題を歴史的背景を含めて理解できるようにする。</p>							
<p>[科目内容を踏まえた到達目標の詳細] ヨーロッパの近現代史についての基礎的な知識を習得する。 ある出来事について歴史的な展開と世界史的な関連の両面について知ることによって、歴史的なものの見方を養う。</p>							
[授業の計画と準備学修]							
回数	授業の計画・内容			準備学修 (予習・復習等)		準備学修の目安 (分)	
第1回	フランス史の基礎知識、復古王政、7月王政			柴田三千雄ほか編『フランス史』2巻(山川出版社)335-497頁、谷川稔・渡辺和行編『近代フランスの歴史』(ミネルヴァ書房)45-117頁、配布プリントを読む。		60	
第2回	1848年革命、フランス第二帝政、イギリスの工業化と労働者階級、社会主義思想			柴田三千雄ほか編『フランス史』3巻(山川出版社)79-119頁、谷川稔・渡辺和行編『近代フランスの歴史』(ミネルヴァ書房)121-144頁、村岡健次・木畑洋一編『イギリス史』3巻(山川出版社)3-118頁、配布プリントを読む。		60	
第3回	ドイツ統一、ドイツ第二帝政、ビスマルクの国内政策			成瀬治ほか編『ドイツ史』2巻(山川出版社)365-468頁、若尾祐司・井上茂子編『近代ドイツの歴史』(ミネルヴァ書房)86-105頁、配布プリントを読む。		60	
第4回	フランス第三共和政、ドイツの「世界政策」と軍国主義			柴田三千雄ほか編『フランス史』3巻(山川出版社)121-162頁、谷川稔・渡辺和行編『近代フランスの歴史』(ミネルヴァ書房)146-172頁、成瀬治ほか編『ドイツ史』3巻(山川出版社)3-61頁、配布プリントを読む。		60	
第5回	イギリスのジェントルマン支配、中流階級の台頭、議会政治体制の発展、帝国支配			村岡健次・木畑洋一編『イギリス史』3巻(山川出版社)119-219頁、秋田茂『イギリス帝国の歴史』(中央公論新社)23-157頁、配布プリントを読む。		60	
第6回	第1次大戦の原因とバルカン問題、世界戦争への道、ドイツの国内事情			柴宜弘編『バルカン史』(山川出版社)153-241頁、成瀬治ほか編『ドイツ史』3巻(山川出版社)53-61頁、配布プリントを読む。		60	
第7回	開戦時の国内体制、戦争への動員			成瀬治ほか編『ドイツ史』3巻(山川出版社)79-100頁、木村靖二『第一次世界大戦』(筑摩書房)、170-205頁、木村靖二『二つの世界大戦』(山川出版社)28-41頁、配布プリントを読む。		60	
第8回	大戦期ドイツの日常生活、イギリスの戦時体制			村岡健次・木畑洋一編『イギリス史』3巻(山川出版社)257-280頁、木村靖二『第一次世界大戦』(筑摩書房)、86-89頁、若尾祐司・井上茂子編『近代ドイツの歴史』(ミネルヴァ書房)175-177頁、藤原辰史『カブラの冬』(人文書院)、配布プリントを読む。		60	
第9回	戦争の終結、戦争の帰結			成瀬治ほか編『ドイツ史』3巻(山川出版社)100-115頁、木村靖二『第一次世界大戦』(筑摩書房)170-205頁、木村靖二『二つの世界大戦』(山川出版社)28-41頁、配布プリントを読む。		60	
第10回	ヴェルサイユ体制、ヴァイマル共和国の崩壊要因			木村靖二『第一次世界大戦』(筑摩書房)、205-217頁、牧野雅彦『ヴェルサイユ条約』(中央公論新社)3-258頁、山口定『現代ヨーロッパ政治史』(福村出版)上巻、217-240頁、下巻、330-337頁、配布プリントを読む。		60	
第11回	世界恐慌、1930年のドイツ、「横断戦線」構想			原田昌博『ナチズム前夜』(集英社)276-300頁、石田勇治『ヒトラーとナチ・ドイツ』(講談社)20-112頁、山本秀行『ナチズムの時代』(山川出版社)1-22頁、配布プリントを読む。		60	
第12回	ナチズムの思想と運動、一党独裁体制の成立、「第二革命」の失敗			山口定『現代ヨーロッパ政治史』下巻(福村出版)288-326、438-454頁、成瀬治ほか編『ドイツ史』3巻(山川出版社)201-219頁、石田勇治『ヒトラーとナチ・ドイツ』(講談社)114-181頁、配布プリントを読む。		60	
第13回	ナチズムの雇用創出政策と再軍備、「第三帝億」の政治支配、「民族共同体」の建設			小野寺拓也・田野大輔『検証 ナチズムは「良いこと」もしたのか』(岩波書店)、山本秀行『ナチズムの時代』(山川出版社)36-42頁、石田勇治『ヒトラーとナチ・ドイツ』(講談社)254-309頁、配布プリントを読む。		60	
第14回	第2次世界大戦前夜の英独関係、第2次世界大戦			村岡健次・木畑洋一編『イギリス史』3巻(山川出版社)304-344頁、成瀬治ほか編『ドイツ史』3巻(山川出版社)253-319頁、久保文明『フランクリン・ローズヴェルト』(山川出版社)57-117頁、配布プリントを読む。		60	
<p>[授業の方法] 上記の内容について講義する。レジュメや図表などのプリントを配布して、それに沿って授業を進める。原則として、授業の前日までにコースパワーにレジュメを掲載する。質問などについては、授業の最初と最後に若干の時間をとって質問や要望を受け付ける。授業終了時に当日の授業内容について、考えたこと、感じたことなどを紙に書いて提出してもらう。そのペーパーについては授業内容に即した書き方をすることが望ましい。</p>							
[パソコンに関する受講者への指示 (特別なソフトウェアのインストール等)]							

なし。

〔課題等へのフィードバック方法〕

課題レポートについては、次回の授業時に可能な範囲で講評をする。

〔成績評価の方法〕

各回の授業終了時に授業内容について考えたこと、感じたことを紙に書いて提出してもらおう。各回を10点満点とし、14回で140点満点とする。これを平常点とする。また学期末に授業全体についてのレポートを提出してもらい、このレポートを60点満点とする。その2つの内容によって成績を評価する。評価の割合としては、学期末課題レポートが60点満点で30%、各回のリアクションペーパーの合計が140点満点で70%とする。ただし、受講者が100人を超えるような多数の場合、学期末のレポートに代えて筆記試験を行う。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 次の点を踏まえて評価する。課題レポート、リアクションペーパーの記述内容から授業内容を理解したかどうかを判断する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

高校世界史で学習する程度の予備知識を持っていることが望ましい。

〔テキスト〕

使用しない。

〔参考書〕

『大学で学ぶ西洋史[近現代]』 小山哲・上垣豊・山田史郎・杉本淑彦編、ミネルヴァ書房、2800円+税、ISBN978-4-623-05938-6

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

授業終了後に教室で受け付ける。リアクション・ペーパーで提出された質問については、次回の授業の最初に回答する。

〔特記事項〕

講義名	近現代のヨーロッパ<2>						
教員名	中島 幹人						
講義コード	120820220	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 前期
<p>〔テーマ・概要〕 経済的格差・宗教的対立などの問題を抱える現代世界を理解する上で重要な近現代のヨーロッパの歴史に関する基本的素養を身につけ、専門科目学習の基礎をつくることを目的とする。本講義では、17 世紀以降の主権国家の成立から 19 世紀後半における国民国家建設までの現代社会成立の歴史的形成過程を確認することで、歴史的存在としての現代世界を相対的に考査する視点の涵養を目的とする。</p>							
<p>〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕 本講義では、DP2-1（教養の習得）を実現するために、以下の目標を設定する。 ①現代市民社会を生み出した歴史的事件の推移の基本的な知識を獲得する ②その知識を元に自ら現代社会に問いかける姿勢を身につける。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第 1 回	ガイダンス：授業の目的・内容・進め方・評価方法についての説明、および導入			あらかじめ、シラバスの内容を確認し、「参考書」欄で示した書籍に目を通しておくこと		60 分	
第 2 回	近世ヨーロッパの成立(1)：諸国家間体系の成立			「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所（章・節）を確認しておくこと		60 分	
第 3 回	近世ヨーロッパの成立(2)：「絶対主義」国家の内実			「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所（章・節）を確認しておくこと		60 分	
第 4 回	近世ヨーロッパの成立(3)：宮廷文化			「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所（章・節）を確認しておくこと		60 分	
第 5 回	18 世紀のフランス(1)：社会の変質と持続（変化①：経済的發展とブルジョワジーの伸展）			「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所（章・節）を確認しておくこと		60 分	
第 6 回	18 世紀のフランス(2)：18 世紀における社会の変質と持続（変化②：ブルジョワ文化と世論の興隆）			「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所（章・節）を確認しておくこと		60 分	
第 7 回	18 世紀のフランス(3)：社会の変質と持続（持続：農村・都市民衆の世界と価値観）			「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所（章・節）を確認しておくこと		60 分	
第 8 回	フランス革命(1)：政治的動向①（名士会から 1789 年）			「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所（章・節）を確認しておくこと		60 分	
第 9 回	フランス革命(2)：政治的動向②（91 年憲法から恐怖政治）			「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所（章・節）を確認しておくこと		60 分	
第 10 回	フランス革命(3)：「文化革命」としてのフランス革命			「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所（章・節）を確認しておくこと		60 分	
第 11 回	19 世紀における国民国家の形成(1)：イタリアの国家形成			「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所（章・節）を確認しておくこと		60 分	
第 12 回	19 世紀における国民国家の形成(2)：ドイツの国家形成			「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所（章・節）を確認しておくこと		60 分	
第 13 回	19 世紀における国民国家の形成(3)：「国民」創造の努力①（記憶の動員）			「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所（章・節）を確認しておくこと		60 分	
第 14 回	19 世紀における国民国家の形成(4)：「国民」創造の努力②（公教育の重要性）			「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所（章・節）を確認しておくこと		60 分	
<p>〔授業の方法〕 「授業の計画」において揚げた各テーマごとにレジュメを配布・参照して講義を進める。授業に関連する画像（絵画・写真）・データ（グラフ・表）などを提示しながら、授業のまとめを行い、理解の深化をはかる。その上で、授業最後に選択式のプチテストを行う。</p>							
〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕							
<p>〔課題等へのフィードバック方法〕 授業最後のプチテストの解説を次回授業に行う。</p>							
<p>〔成績評価の方法〕 成績評価については、以下の通りである ①学期末の試験期間中に実施する「学期末試験」を 70％ ②平常点（授業への参加状況やプチテストの成績など）を 30％</p>							

(ただし、出席が三分の二に満たない場合は平常点の評価対象外となる)。
学期末試験の評価基準に関しては、設問の意図を理解し授業で学んだことを論理的に説明できるかという点を重視する。詳細はガイダンス時(第1回授業)にて提示する。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準(学則第38条、39条)に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
欧米研究・西洋政治史・国際関係論など

〔テキスト〕
特定のテキストは使用しない。授業テーマに即したレジュメを配布し、それを参照しながら授業を進める。

〔参考書〕
杉本淑彦・竹中幸史『教養のフランス近現代史』 ミネルヴァ書房、2015年
小山哲・上垣豊他編著『大学で学ぶ西洋史(近現代)』 ミネルヴァ書房、2011年
谷川稔・渡辺和行編著『近代フランスの歴史-国民国家形成の彼方に-』 ミネルヴァ書房、2006年
若尾祐司・井上茂子編著『近代ドイツの歴史-18世紀から現代まで-』 ミネルヴァ書房、2005年
村岡健次・川北稔編著『イギリス近代史-宗教改革から現代まで- (改訂版)』 ミネルヴァ書房、2003年
大下尚一・服部春彦他編『西洋の歴史 近現代編(増補版)』 ミネルヴァ書房、1998年
そのほか、山川出版社の「各国史」シリーズや岩波書店の「講座世界史」など。
また、授業にて配布するレジュメにおいても参考文献一覧を提示する。
上記参考書は購入の必要なし。

〔質問・相談方法等(オフィス・アワー)〕
授業終了後やポータルサイトにて質問や相談を受け付ける。

〔特記事項〕

講義名	近現代のアメリカ<1>						
教員名	佐伯 哲朗						
講義コード	120820310	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2026 後期
<p>〔テーマ・概要〕 現代世界を理解する上で重要な近現代のアメリカの歴史に関する基本的知識を身につけ、専門科目学習の基礎を作ることを目指す。この授業では、18世紀末のアメリカ合衆国の建国から20世紀後半までのアメリカの歴史をたどる。このなかで、現代世界の諸問題について歴史的背景を含めて理解することを目指す。</p>							
<p>〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕 アメリカ合衆国の近現代史についての基礎的な知識を習得する。ある出来事について、歴史的な展開と世界史的な関連の両面を知ることによって、歴史的なものの見方を養う。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	アメリカ合衆国の政治、「明白な運命」、南北戦争			有賀夏紀・油井大三郎編『アメリカの歴史』（有斐閣）192-224頁、紀平英作編『アメリカ史（上）』（山川出版社）91-232頁、配布プリントを読む。		60	
第2回	エスニック集団の特徴、先住民、黒人奴隷制、白人女性の状況			野村達朗編『アメリカ合衆国の歴史』（ミネルヴァ書房）、23-34、85-109頁、有賀夏紀・油井大三郎編『アメリカの歴史』（有斐閣）84-140頁、配布プリントを読む。		60	
第3回	フロンティアと先住民			有賀夏紀・油井大三郎編『アメリカの歴史』（有斐閣）84-99頁、野村達朗編『アメリカ合衆国の歴史』（ミネルヴァ書房）、35-45頁、野村達朗『大陸国家アメリカの展開』（山川出版社）17-26頁、66-74頁、配布プリントを読む。		60	
第4回	「金びか時代」の政治と思潮、都市化の進展と移民の流入			有賀貞ほか編『アメリカ史』2巻（山川出版社）29-62頁、野村達朗『大陸国家アメリカの展開』（山川出版社）46-55頁、配布プリントを読む。		60	
第5回	19世紀後半以降の労働者と農民の運動、女性の運動			有賀貞ほか編『アメリカ史』2巻（山川出版社）29-62頁、野村達朗『大陸国家アメリカの展開』（山川出版社）55-59頁、有賀夏紀・油井大三郎編『アメリカの歴史』（有斐閣）63-82頁、配布プリントを読む。		60	
第6回	革新主義と帝国主義			野村達朗『大陸国家アメリカの展開』（山川出版社）、有賀貞ほか編『アメリカ史』2巻（山川出版社）29-62頁、配布プリントを読む。		60	
第7回	第1次世界大戦			有賀貞ほか編『アメリカ史』2巻（山川出版社）29-62頁、中野耕太郎『戦争のるつぼ』（人文書院）、長沼秀世『ウィルソン』（山川出版社）、配布プリントを読む。		60	
第8回	第1次世界大戦の社会			有賀貞ほか編『アメリカ史』2巻（山川出版社）29-62頁、配布プリントを読む。		60	
第9回	1920年代の政治、経済、社会			常松洋『大衆消費社会の登場』（山川出版社）1-82頁、入江節次郎・高橋哲雄編『講座 西洋経済史 IV 大恐慌前後』、23-76頁、有賀貞ほか編『アメリカ史』2巻（山川出版社）29-62頁、配布プリントを読む。		60	
第10回	大恐慌、ニューディール			秋元英一『世界大恐慌』（講談社）、林敏彦『大恐慌のアメリカ』（岩波書店）、有賀貞ほか編『アメリカ史』2巻（山川出版社）29-62頁、配布プリントを読む。		60	
第11回	ローズヴェルト政権の外交・通商政策、第2次世界大戦			有賀貞ほか編『アメリカ史』2巻（山川出版社）293-318頁、秋元英一・菅英輝『アメリカ20世紀史』（東京大学出版会）136-166頁、配布プリントを読む。		60	
第12回	第2次世界大戦後の経済と社会、戦後アメリカの消費文化			有賀貞ほか編『アメリカ史』2巻（山川出版社）370-378頁、配布プリントを読む。		60	
第13回	アフリカ系アメリカ人、公民権運動、公民権法の成立			有賀夏紀・油井大三郎編『アメリカの歴史』（有斐閣）119-140頁、上坂昇『キング牧師とマルコムX』（講談社）、配布プリントを読む。		60	
第14回	フェミニズム、ラティーノ、アジア系アメリカ人			有賀夏紀・油井大三郎編『アメリカの歴史』（有斐閣）141-190頁、配布プリントを読む。		60	
<p>〔授業の方法〕 レジュメや図表などのプリントを配布して、それに沿って授業を進める。原則として授業の前日までにコースパワーにレジュメを掲載する。質問などについては、授業の最初と最後に、若干の時間をとって質問や要望を受け付ける。授業終了時に当日の授業内容について、考えたこと、感じたことなどを紙に書いて提出してもらう。そのペーパーについては、授業内容に即した書き方をすることが望ましい。</p>							
<p>〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕 なし。</p>							
〔課題等へのフィードバック方法〕							

課題については、次回の授業時に可能な範囲で講評をする。

〔成績評価の方法〕

各回の授業終了時に、その回の授業内容について考えたこと、感じたことをまとめて課題として提出する。各回を10点満点とし、14回で140点満点とする。これを平常点とする。また、学期末に授業全体についてのレポートを提出してもらい、このレポートを60点満点とする。その2つの内容によって成績を評価する。評価の割合としては、学期末課題レポートが60点満点で30%、各回のリアクションペーパーの合計が140点満点で70%とする。ただし、受講者が100人を超えるような多数の場合、学期末のレポートに代えて筆記試験を行う。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準(学則第38条、39条)に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 次の点を踏まえて評価する。課題レポート、リアクションペーパーの記述内容から、授業内容を理解したかどうかを判断する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

大航海時代以降のアメリカ合衆国の歴史について、高校世界史程度の基礎知識を備えていることを前提としている。

〔テキスト〕

使用しない。

〔参考書〕

次のような文献があるが、購入することを想定していない。有賀貞・大下尚一・志邨晃佑・平野孝編『アメリカ史』(1、2巻)山川出版社、1993～94年。

〔質問・相談方法等(オフィス・アワー)〕

授業終了後に教室で受け付ける。また、質問用紙に質問を書いた場合には、次回の授業で回答する。

〔特記事項〕

講義名	近現代のアメリカ<2>						
教員名	中島 幹人						
講義コード	120820320	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2026 後期
<p>[テーマ・概要] 経済的格差・宗教的対立などの問題を抱える現代世界を理解する上で重要な近現代のアメリカの歴史に関する基本的素養を身につけ、専門科目学習の基礎をつくることを目的とする。本講義では、アメリカがグローバルな政治的・経済的環境の中で成立・発展してきたことを踏まえて、植民地建設から 20 世紀にいたる歴史的形成過程を確認することで、現代世界を相対的に考査する視点の涵養を目的とする。</p>							
<p>[科目内容を踏まえた到達目標の詳細] 本講義では、DP2-1(教養の習得)を実現するために、①現代に直接連なる 19 世紀から 20 世紀の歴史を確認することで、現代社会における諸問題を考察するための知識を獲得し、②その知識から自ら現代社会を相対化しうる視点を身につけることを目標とする。</p>							
[授業の計画と準備学修]							
回数	授業の計画・内容			準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)	
第 1 回	ガイダンス：授業の目的・内容・進め方、および成績評価についての説明			あらかじめ、シラバスで授業内容を確認し、「参考書」欄で示した書籍に目を通しておくこと		60 分	
第 2 回	イギリス領アメリカ植民地の形成と発展(1)：植民地の形成(誰がアメリカに渡ったか)			「参考書」欄で示した書籍における該当箇所(章・節)を確認しておくこと		60 分	
第 3 回	イギリス領アメリカ植民地の形成と発展(2)：植民地の発展とブリティッシュアメリカの形成			「参考書」欄で示した書籍における該当箇所(章・節)を確認しておくこと		60 分	
第 4 回	アメリカ独立革命(1)：独立運動の展開①(イギリス第一帝国の再編と反対運動)			「参考書」欄で示した書籍における該当箇所(章・節)を確認しておくこと		60 分	
第 5 回	アメリカ独立革命(2)：独立運動の展開②(独立運動～連合規約・合衆国憲法の制定)			「参考書」欄で示した書籍における該当箇所(章・節)を確認しておくこと		60 分	
第 6 回	19 世紀前半のアメリカ社会(1)：初期共和国と国民統合の進展①(英米戦争と西部開拓)			「参考書」欄で示した書籍における該当箇所(章・節)を確認しておくこと		60 分	
第 7 回	19 世紀前半のアメリカ社会(2)：初期共和国と国民統合の進展②(イギリス産業革命の影響と「市場革命」の時代)			「参考書」欄で示した書籍における該当箇所(章・節)を確認しておくこと		60 分	
第 8 回	19 世紀前半のアメリカ社会(3)：初期共和国と国民統合の進展③(北部と南部の社会的・経済的対立と南北戦争)			「参考書」欄で示した書籍における該当箇所(章・節)を確認しておくこと		60 分	
第 9 回	19 世紀前半のアメリカ社会(4)：初期共和国と国民統合の進展④(北部による社会的・経済的統合)			「参考書」欄で示した書籍における該当箇所(章・節)を確認しておくこと		60 分	
第 10 回	帝国主義期のアメリカ(1)：帝国主義の諸様相(経済的・文化的・社会的側面)			「参考書」欄で示した書籍における該当箇所(章・節)を確認しておくこと		60 分	
第 11 回	帝国主義期のアメリカ(2)：「金びか時代」の社会と経済			「参考書」欄で示した書籍における該当箇所(章・節)を確認しておくこと		60 分	
第 12 回	帝国主義期のアメリカ(3)：革新主義改革と対外政策(モンロー主義～ローズヴェルトの系論)			「参考書」欄で示した書籍における該当箇所(章・節)を確認しておくこと		60 分	
第 13 回	20 世紀のアメリカ(1)：パクス・アメリカナへの道(第一次大戦～第二次大戦)			「参考書」欄で示した書籍における該当箇所(章・節)を確認しておくこと		60 分	
第 14 回	20 世紀のアメリカ(2)：パクス・アメリカナとその陰り			授業において使用したレジュメを確認・復習しておくこと		60 分	
<p>[授業の方法] 「授業の計画」において掲げた各テーマごとにレジュメを予め配布し、それらを参照しながら講義を進める。また、授業に関連する画像(絵画・写真)・データ(グラフ・表)などを提示しながら、授業のまとめを行い、理解の深化をはかる。そして、授業の最後に選択式のプチテストを行う。</p>							
[パソコンに関する受講者への指示(特別なソフトウェアのインストール等)]							
<p>[課題等へのフィードバック方法] プチテストの解説を次回授業で行う。</p>							
[成績評価の方法]							

成績評価については、以下の通りである

①学期末の試験期間中に実施する「学期末試験」(到達度確認テスト)を70%

②平常点(授業への参加状況や予習テストの成績など)を30%

(ただし、出席が三分の二に満たない場合は平常点の評価対象外となる)。

学期末試験(到達度確認テスト)の評価基準に関しては、設問の意図を理解し授業で学んだことを論理的に説明できるかという点を重視する。詳細はガイダンス時(第1回授業)にて提示する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準(学則第38条、39条)に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識/先修科目/関連科目〕

欧米研究・西洋政治史・国際関係論など

〔テキスト〕

特定のテキストは使用しない。授業においてテーマに沿ったレジュメを配布する。

〔参考書〕

以下に挙げる文献は授業の理解を深めてもらうための参考書であり、購入の必要はない。

紀平 英作(編)『アメリカ史(上・下)』(YAMAKAWA Selection)山川出版社、2019年

和田 光弘(編著)『大学で学ぶアメリカ史』ミネルヴァ書房、2014年

野村 達朗(編著)『アメリカ合衆国の歴史』ミネルヴァ書房、1998年

有賀 貞・大下 尚一他(編)『世界歴史大系:アメリカ史(1・2)』山川出版社、1993,94年

そのほか、岩波新書の『シリーズ アメリカ合衆国史①~④』2019年など。

また、授業にて配布するレジュメにおいても参考文献一覧を提示する。

〔質問・相談方法等(オフィス・アワー)〕

授業終了後やポータルサイトにて質問や相談を受け付ける。

〔特記事項〕

講義名	中東地域史						
教員名	藻谷 悠介						
講義コード	120820410	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2026 後期
<p>〔テーマ・概要〕 本講義では、中東地域の歴史について、近代以降を中心に授業する。現在も混迷を極める中東地域について理解を深めるためには、現状の基礎が形成された近代以降の歴史を把握することが不可欠である。また、中東地域の歴史を説明する際には、とくにイスラーム教の存在が強調されるが、近代以降の多層的な歴史の展開を理解するためには、イスラーム教以外の要因についても広く検討することが重要となる。 本講義においては、画像資料を多く用いながら、中東地域の近代、すなわち19世紀以降の歴史を詳細に教授する。まず、近代以降の歴史を理解するための前提知識として、地理や宗教、近代以前の歴史の概略を提示する。その上で、特に政治と社会、宗教の3つに注目しつつ、近代以降の中東地域の歴史的展開を俯瞰する。</p>							
<p>〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕 DP2-1（教養の修得）を実現するため、以下のことを目標とする。 ・中東地域の歴史的展開について、近代以降を中心に把握する。 ・イスラーム教に限らず、中東地域の歴史を形作った様々な要因を理解する。 ・中東地域の今日的課題を理解する上で必要な視座を獲得する。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	イントロダクション：近代とは何か			授業後に参考文献に目を通し、理解を深めておくことが求められる。		60分	
第2回	中東地域の地誌			授業後に参考文献に目を通し、理解を深めておくことが求められる。		60分	
第3回	ユダヤ教、キリスト教、イスラーム教			授業後に参考文献に目を通し、理解を深めておくことが求められる。		60分	
第4回	イスラーム諸帝国の繁栄			授業後に参考文献に目を通し、理解を深めておくことが求められる。		60分	
第5回	西洋列強の脅威と中東地域の動揺			授業後に参考文献に目を通し、理解を深めておくことが求められる。		60分	
第6回	近代化改革の試み			授業後に参考文献に目を通し、理解を深めておくことが求められる。		60分	
第7回	技術革新と政治経済の変化			授業後に参考文献に目を通し、理解を深めておくことが求められる。		60分	
第8回	世俗化と西洋化			授業後に参考文献に目を通し、理解を深めておくことが求められる。		60分	
第9回	振り返り：エジプトの近代			授業後に参考文献に目を通し、理解を深めておくことが求められる。		60分	
第10回	帝国主義と民族運動			授業後に参考文献に目を通し、理解を深めておくことが求められる。		60分	
第11回	世界大戦と中東地域の再編			授業後に参考文献に目を通し、理解を深めておくことが求められる。		60分	
第12回	イスラーム主義と現代の中東地域			授業後に参考文献に目を通し、理解を深めておくことが求められる。		60分	
第13回	振り返り：パレスチナ問題			授業後に参考文献に目を通し、理解を深めておくことが求められる。		60分	
第14回	まとめと到達度確認テスト			テスト後に配布する採点基準を確認し、理解の欠けていた個所を把握する。		60分	
<p>〔授業の方法〕 パワーポイントと口頭説明を中心に授業を行なう。参考のため、スライドを印刷したハンドアウトを配布する。 授業への参加度を評価するため、毎回リアクションペーパーの提出を求める。 参加人数次第では、授業中にディスカッションの時間を設けることがある。</p>							
<p>〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕 特になし。</p>							
<p>〔課題等へのフィードバック方法〕 各回の授業冒頭で、前回の授業に対するコメントへの回答を行なう。</p>							
〔成績評価の方法〕							

- ・平常点（授業への参加度やディスカッションへの貢献度）：40%
- ・到達度確認テスト：60%

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

- ・中東地域の近代以降の歴史的展開について把握できているか
- ・イスラーム教のみに偏らない中東地域の理解が身についているか
- ・今日的課題を理解する上で必要な視座を獲得しているか

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特になし。高校で「世界史探究」を未履修でも参加を歓迎する。

〔テキスト〕

特になし。

〔参考書〕

各回の授業にて参考文献を指示する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。
また、授業終了後にも教室で受け付ける。

〔特記事項〕

講義名	近現代のアフリカ						
教員名	長辻 貴之						
講義コード	120820510	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2026 後期
<p>〔テーマ・概要〕 この授業科目では近現代のアフリカを課題とともに可能性の観点で考察する。政治・経済の課題を検討しつつ、これらをSGDsや国際開発の関連等で考える。しかし、現代のアフリカは貧困問題等の課題だけで論じられるものではなく、高い潜在性や、グローバル・サウスにおける発言力といった側面も見なければならない。そこで、本講義では植民地時代から21世紀にかけてのアフリカを概観するとともに、日本とアフリカの関係や現在の世界におけるアフリカの役割を再検証することを目標とする。</p>							
<p>〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕 到達目標（1）世界の4分の1の国々（サハラ砂漠以南のアフリカ49カ国）について、学際的な観点から基礎的な知識を習得し、広い視野で思考・判断を行うことができるようになる。 到達目標（2）学生による発表を通じて、必要な情報を集め、的確に解釈・分析し、論理的に思考し、的確かつ明確に発信することができる。 到達目標（3）他の履修者とのアフリカについてのディスカッション等を通じて、多様な価値観を受容し、協調性やコミュニケーション力を身につけることができる。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	授業概要説明と近現代のアフリカ			【準備学習1】サハラ砂漠以南のアフリカから関心のある国を選ぶ。（約30分） 【準備学習2】毎回の授業で配布される講義ノートと講義用のスライドを復習する。（約30分） 【準備学習3】中間発表の発表資料作成と口頭発表の準備をする。（約60分）		120分	
第2回	世界におけるアフリカ：SDGsとグローバルサウス			【準備学習1】「予習課題リスト」に記載の予習に取り組む。（約30分） 【準備学習2】毎回の授業で配布される講義ノートと講義用のスライドを復習する。（約30分） 【準備学習3】中間発表の発表資料作成の準備をする。（約60分）		120分	
第3回	アフリカを知る（1）：アフリカ各国俯瞰			【準備学習1】「予習課題リスト」に記載の予習に取り組む。小テスト受験のための準備をする（約30分） 【準備学習2】毎回の授業で配布される講義ノートと講義用のスライドを復習する。（約30分） 【準備学習3】中間発表の発表資料作成の準備をする。（約60分）		120分	
第4回	アフリカを知る（2）：近現代アフリカ史			【準備学習1】「予習課題リスト」に記載の予習に取り組む。小テスト受験のための準備をする（約30分） 【準備学習2】毎回の授業で配布される講義ノートと講義用のスライドを復習する。（約30分） 【準備学習3】中間発表の発表資料作成の準備をする。（約60分）		120分	
第5回	アフリカを知る方法：一次資料の収集と先行研究の調べ方			【準備学習1】「予習課題リスト」に記載の予習に取り組む。小テスト受験のための準備をする（約30分） 【準備学習2】毎回の授業で配布される講義ノートと講義用のスライドを復習する。（約30分） 【準備学習3】中間発表の発表資料作成の準備をする。（約60分）		120分	
第6回	日本・アフリカ関係（1）：人のつながりと歴史			【準備学習1】「予習課題リスト」に記載の予習に取り組む。小テスト受験のための準備をする（約30分） 【準備学習2】毎回の授業で配布される講義ノートと講義用のスライドを復習する。（約30分） 【準備学習3】中間発表の発表資料作成と口頭発表の準備をする。（約60分）		120分	
第7回	日本・アフリカ関係（2）：安全保障と開発援助			【準備学習】中間発表の発表資料作成と口頭発表の準備をする。（約120分）		120分	
第8回	学生による発表（1）：中間発表			【準備学習】中間発表の準備をする。（約120分）		120分	
第9回	アフリカ政治（1）：民主主義と選挙			【準備学習1】「予習課題リスト」に記載の予習に取り組む。小テスト受験のための準備をする（約30分） 【準備学習2】毎回の授業で配布される講義ノートと講義用のスライドを復習する。（約30分） 【準備学習3】期末発表の発表資料作成の準備をする。（約60分）		120分	
第10回	アフリカ政治（2）：クーデター			【準備学習1】「予習課題リスト」に記載の予習に取り組む。小テスト受験のための準備をする（約30分） 【準備学習2】毎回の授業で配布される講義ノートと講義用のスライドを復習する。（約30分） 【準備学習3】期末発表の発表資料作成の準備をする。（約60分）		120分	
第11回	アフリカ経済（1）：貧困と経済発展			【準備学習1】「予習課題リスト」に記載の予習に取り組む。小テスト受験のための準備をする（約30分） 【準備学習2】毎回の授業で配布される講義ノートと講義用のスライドを復習する。（約30分） 【準備学習3】期末発表の発表資料作成の準備をする。（約60分）		120分	

第12回	アフリカ経済(2):資源	【準備学習】中間発表の発表資料作成と口頭発表の準備をする。(約120分)	120分
第13回	学生による発表(2):期末発表	【準備学習】中間発表の準備をする。(約120分)	120分
第14回	まとめ	【準備学習1】授業で配布した講義ノートと講義用のスライドを総復習する。(約60分) 【準備学習2】中間課題と期末発表の発表について改善点を考える。(約60分)	120分
<p>〔授業の方法〕 本授業は教員が講義する形で進める。授業内で実施するディスカッションでは履修者の積極的な発言を期待する。本授業では小テストを実施する週があり、学生による発表も合計で2回実施する。 注意) 授業の計画・内容、準備学習は一部変更・修正する場合がある。</p>			
〔パソコンに関する受講者への指示(特別なソフトウェアのインストール等)〕			
<p>〔課題等へのフィードバック方法〕 本授業では履修者の積極的な授業参加を期待し、多くのフィードバックを実施します。復習を目的とする小テストでは、小テスト実施後にフィードバックと解説を行います。発表準備報告シートは、中間発表前に1回の提出が求められ、発表準備の進展に応じてコメントをお伝えします。合計2回の学生による発表(中間発表と期末発表)についても、発表後にフィードバックを行います。</p>			
<p>〔成績評価の方法〕 授業関連課題: 小テスト(1回3%)×7回 + 発表準備報告シート(1回4%) = 25% 中間発表: 発表資料提出(20%) + 口頭発表(15%) = 35% 期末発表: 発表資料提出(20%) + 口頭発表(20%) = 40%</p>			
<p>〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準(学則第38条、39条)に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.</p>			
〔必要な予備知識/先修科目/関連科目〕			
<p>〔テキスト〕 宮本 正興・松田 素二(編)2018 『新書アフリカ史』講談社。</p>			
〔参考書〕			
<p>〔質問・相談方法等(オフィス・アワー)〕 個別の質問や相談がある場合はメールにてご連絡をください。(メールアドレスは授業中にお伝えいたします。)</p>			
〔特記事項〕			

講義名	現代の国際政治						
教員名	昇 亜美子						
講義コード	120820610	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2026 前期
<p>[テーマ・概要]</p> <p>本講義は、現代の国際政治を理解するための視角と基本的知識を養うことを目的とする。</p> <p>第一に、「どうして戦争は起こるのだろうか」という問いについて、理論と歴史の両面から考えていく。ロシアは何故ウクライナに侵攻したのだろうか。米中は何故対立するのだろうか。こうした今日的な問いに答えるために、様々な理論的立場の基本的な立場と、第一次世界大戦後の国際政治の流れについて学ぶ。</p> <p>第二に、「グローバリゼーションの深化は国際関係をどのように変容させたのだろうか」という問いについて議論する。特に、2015年に国連で採択された「持続可能な開発目標（SDGs）」について取り上げ、各目標について考えていく。</p> <p>第三に、米国主導のリベラル国際秩序の揺らぎについて、国家間のパワーバランスだけでなく、主要各国内のポピュリズムとナショナリズムの台頭に着目しながら考える。</p>							
<p>[科目内容を踏まえた到達目標の詳細]</p> <p>現代の国際政治について、「何故そのような事象が起きるのか」を分析する社会科学的な視角を養うこと（DP1-1, 1-2）。また、国際関係理論と歴史を学ぶことを通じて、今日の国際政治に関心を持ち、日々のニュースに敏感になり、国際社会とのかかわりの重要性を意識できるようになること（DP3-1, 3-2）。日本がどのような外交を展開すべきかについて主体的に考えることが出来るようになること（DP6-1, 6-2）。</p>							
[授業の計画と準備学修]							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	イントロダクション—国際政治とはなにか 近代国際政治のコンセプトや国内政治との違いなどを学ぶ。			国際政治に関するニュースに関心を持ち、授業での学習内容に照らして考える。		60	
第2回	国際政治理論（1）リアリズム			国際政治に関するニュースに関心を持ち、授業での学習内容に照らして考える。		60	
第3回	国際政治理論（2）リアリズム			国際政治に関するニュースに関心を持ち、授業での学習内容に照らして考える。		60	
第4回	国際政治理論（3）リベラリズム			国際政治に関するニュースに関心を持ち、授業での学習内容に照らして考える。		60	
第5回	国際政治理論(4) コンストラクティビズム			国際政治に関するニュースに関心を持ち、授業での学習内容に照らして考える。		60	
第6回	第一次世界大戦とヴェルサイユ体制			国際政治に関するニュースに関心を持ち、授業での学習内容に照らして考える。		60	
第7回	集団安全保障の挫折と第二次世界大戦			国際政治に関するニュースに関心を持ち、授業での学習内容に照らして考える。		60	
第8回	冷戦（1）1940～1960年代			国際政治に関するニュースに関心を持ち、授業での学習内容に照らして考える。		60	
第9回	冷戦（2）1970年代以降			国際政治に関するニュースに関心を持ち、授業での学習内容に照らして考える。		60	
第10回	グローバル化と持続可能な開発目標（SDGs） 環境問題、食料安全保障、エネルギー安全保障などについて取り上げる。			国際政治に関するニュースに関心を持ち、授業での学習内容に照らして考える。		60	
第11回	国境を越える人々 複雑になりつつある移民、難民の問題について取り上げる。			国際政治に関するニュースに関心を持ち、授業での学習内容に照らして考える。		60	
第12回	ジェンダーをめぐる問題 テロや紛争による不安定な国家情勢は、女性や女兒に特に大きな影響を及ぼすことが多いといった問題について学ぶ。			国際政治に関するニュースに関心を持ち、授業での学習内容に照らして考える。		60	
第13回	ポピュリズムとナショナリズムの台頭			国際政治に関するニュースに関心を持ち、授業での学習内容に照らして考える。		60	
第14回	米国主導のリベラル国際秩序の動揺と日本外交			国際政治に関するニュースに関心を持ち、授業での学習内容に照らして考える。		60	
<p>[授業の方法]</p> <p>講義方式で行なう。リアクションレポートを実施することがある。</p>							
[パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）]							
<p>[課題等へのフィードバック方法]</p> <p>リアクションペーパーやレポートについての講評、解説の時間を授業内で設ける。</p>							

<p>〔成績評価の方法〕 平常点（授業への参加状況や宿題の提出状況） 10% レポート 90%</p>
<p>〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.</p>
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし</p>
<p>〔テキスト〕 特になし</p>
<p>〔参考書〕 講義時に伝える。</p>
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 メールで受け付ける。詳細は講義時に伝える。</p>
<p>〔特記事項〕</p>

講義名	異文化理解トピックス (イスラーム世界)						
教員名	堀内 正樹						
講義コード	120820760	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2026 前期
<p>[テーマ・概要] イスラームは「宗教」であると理解されがちだが、すでに千数百年間、アフリカからユーラシアにわたって、人々が移動し混交することによって生まれた多民族・多文化が入り交じる広大で常に移ろいゆく社会空間の「秩序維持ルール」として機能してきた。いわば旅に生きる人たちから成る世界である。本授業では、私の旅を振り出しに、「旅人たちの社会システム」のあり方を理解してもらおう。そのためには近代になってから作られた西欧中心主義的な特殊な世界観を放棄し、本来の人の世の流れとその特徴を実感として理解する必要がある。そのうえで、歴史の主潮流を形作ってきたイスラーム世界の特徴と、そこから奇形的に派生した西欧近代世界の特徴を対比的に捉える。その認識を足場にして、私たちがすでに限界と凋落を目撃している近代西欧的な「国家」や「民族」や「文化」などのスローガンに代わり得る非境界的な本来の人間社会のあり方を、イスラーム世界をひとつのモデルとして探つてゆく。キーワードは「旅」と「偶然(想定外)」ということになるだろう。結果として「イスラーム世界」という考え方も乗り越えることになるかもしれない。</p>							
<p>[科目内容を踏まえた到達目標の詳細] DP2-1【教養の修得】(広い視野での思考・判断)を実現するため、次の3点を到達目標とする。 1. イスラームを過大評価も過小評価もしないバランスのとれた理解に到達する。 2. 欧米中心の報道や教育等によって形作られるイスラーム世界への偏見を自覚できるようになる。 3. 非境界的な世界のあり方を理解し、説明できる。</p>							
[授業の計画と準備学修]							
回数	授業の計画・内容			準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)	
第1回	(概要説明): 授業の内容、進め方、予習・復習の仕方などを説明する。 (導入) イスラーム世界への私の旅(その1) ・最初の旅から第2の旅へ(放浪編)			[予習]イスラーム世界の地理情報を地図上で確認しておく。		60	
第2回	(導入) イスラーム世界への私の旅(その2) ・サウジアラビアの砂漠行			[予習・復習]授業に登場する地域の具体的なイメージを把握する。		60	
第3回	(導入) イスラーム世界への私の旅(その3) ・モロッコ、シナイ半島など。			[予習・復習]授業に登場する地域の具体的なイメージを把握する。		90	
第4回	(導入) イスラーム世界への私の旅(その4) ・モーリタニア、オマーン、チュニジア、セネガル、ウズベキスタン、中国、シリア、ニューカレドニア、トルコ、ヨルダン、レユニオンなど。			[予習・復習]授業に登場する地域の具体的なイメージを把握する。		90	
第5回	旅人の世界としてのイスラーム世界 ・中東のさまざまな人々。 ・「旅する人々」がもたらす現象。			[復習]キーワードについて説明できるようにする。		60	
第6回	イスラームの基礎知識(その1) ・五柱について学修する。 ・特に「ザカート(喜捨)」の重要性を理解する。			[復習]キーワードについて説明できるようにする。		60	
第7回	イスラームの基礎知識(その2) ・六信について学修する。 ・特に「カダル(運命)」とはなにかを理解する。			[予習・復習]キーワードについて説明できるようにする。		90	
第8回	非境界的な社会の成り立ちを理解する(その1) ・市民が作り出すパズル型社会システムのしくみを理解する。			[予習・復習]キーワードについて説明できるようにする。		90	
第9回	非境界的な社会の成り立ちを理解する(その2) ・秩序維持システムとしてのパイア(統治権委託契約)の具体相を理解する。			[予習・復習]キーワードについて説明できるようにする。		90	
第10回	西欧近代とは何だったのか ・飽くことなく境界を作り出す西欧近代の発想の特徴を整理する。 ・近代科学の核心として、ザクセン(サクソン)発の数学基礎論を批判的に検討する。			[復習]キーワードについて説明できるようにする。		90	
第11回	(参考)オリエンタリズムの誕生と西欧近代 ・「オリエンタリズム批判」を理解する。			[予習・復習]キーワードについて説明できるようにする。		60	
第12回	非境界型コミュニケーション ・境界に拘泥しないコミュニケーションのあり方を具体例に沿って理解する。			[復習]キーワードについて説明できるようにする。		90	
第13回	到達度確認テスト ・これまでの学修内容について、理解度を確認するためのテスト			[予習]到達度確認テストに備え、これまでの学修内容を確認する。		120	
第14回	到達度確認テストに関する講評と質疑応答 現代の課題 ・20世紀後半以降にイスラーム世界に生じた政治・社会体制のジレンマを理解する。			[予習・復習]この授業を振り返り、到達目標と自分の理解度とを点検し、疑問点などを整理しておく		120	
[授業の方法] 本授業は講義科目である。必要なPDFファイルなどをCoursePowerの「授業資料」に順次アップするので、毎回事前にダウンロードして、目を通しておくこと。受講生数が多い場合、本授業は一方的な講義になるかもしれないので、CoursePowerの掲示板などのフィードバック手段を活用して、積極的に質問・議論・感想・要望・コメントなどを寄せてほしい。受講生とのインタラクションを通じて、講義内容を柔軟に変更してゆくことも考えている。なお到達度確認テストでは、授業全体の学修内容についての理解度を確認する。受講生の数によってはレポートに切り替える可能性もある。							
[パソコンに関する受講者への指示(特別なソフトウェアのインストール等)]							

<p>〔課題等へのフィードバック方法〕 最終授業の冒頭で到達度確認テストの講評と説明をおこなう予定である。</p>
<p>〔成績評価の方法〕 平常点で成績評価をおこなう。発言や質問・コメントなど授業への参加状況（50%）、到達度確認テスト（50%）などによる総合評価。</p>
<p>〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。 次の点に着目し、その達成度により評価する。 ・「旅人たちの世界」という考え方を理解し、説明できる。 ・イスラームの基礎知識を明確に説明できる。 ・境界型社会システムと非境界型社会システムの違いを明確に把握し、説明できる。</p>
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし</p>
<p>〔テキスト〕 特になし</p>
<p>〔参考書〕 （1）三木亘『悪としての世界史』（文春学藝ライブラリー）2016年、文藝春秋。 （2）板垣雄三「〈超近代性(Super-modernity) 研究の歩みとその課題追求の現局面』『土着的近代研究』創刊号、2023年、文理閣。 （3）ベネディクト・アンダーソン『想像の共同体-ナショナリズムの起源と流行』（白石隆・白石さや訳）1987年、リポレポート。 （4）エドワード・W・サイード『オリエンタリズム』（今沢紀子訳）1986年、平凡社。 （5）堀内正樹「境界的思考から脱却するために-中東研究がもたらすもの」『国際文化研究の現在』（成蹊大学文学部国際文化学科編）2005年、柏書房。 （6）水野信男・西尾哲夫・堀内正樹（編）『アラブの音文化-グローバル・コミュニケーションへのいざない』2010年、スタイルノート。 （7）堀内正樹「世界のつながり方に関する覚え書き」『成蹊大学文学部紀要』第49号、2014年。 （8）堀内正樹・西尾哲夫（編）『〈断〉と〈統〉の中東-非境界的世界をめぐ』2015年、悠書館。 （9）小町グループ（菊岡健・清田浩義・堀内正樹）『サハラの旅 1974』2021年、東京図書出版。 （10）齋藤剛「中東に生きる人々に学ぶ-現場主義の精神と「非境界型世界」」『社会人類学年報』49号、2023年、弘文堂。 上記の参考文献は購入の必要なし。</p>
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトの『オフィスアワー』で周知します。また、授業終了後に教室で受け付けます。</p>
<p>〔特記事項〕</p>

講義名	グローバル経済論						
教員名	清水 政行						
講義コード	120820910	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 後期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>経済のグローバル化が進展する中で、経済的に成長している国とそうでない国が併存し、世界では経済格差の是正が十分に進んでいるとはいえないのが現状である。本講義では、「持続的な成長のためには何が必要か」をテーマに、「開発経済学」的な考え方を利用しながら、途上国が経済的に豊かになるための道すじや方策について学習する。その際に、経済学で用いられる基本的な経済モデルや国別のデータを紹介しながら、先進国との比較を通じて理解を深めていく。なお、授業の進捗によって内容を一部変更する場合がある。</p>							
<p>〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕</p> <p>DP2（教養の修得）、DP4（表現力、発信力）、DP5（多様な人々との協働）を実現するため、以下を到達目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 経済学的な視点から、持続的な成長のために重要なメカニズムを理解することができる。 2. 経済学的な観点から、持続的な成長のために必要なアプローチを考察することができる。 							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	開発途上国の経済発展 ：開発経済学的な考え方 〔テキスト：戸堂（2021）1章〕			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第2回	新古典派経済成長論 ：経済成長の仕組み① 〔テキスト：戸堂（2021）2章〕			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第3回	内生的経済成長論 ：経済成長の仕組み② 〔テキスト：戸堂（2021）3章〕			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第4回	貧困の罠 ：経済停滞の原因① 〔テキスト：戸堂（2021）4章〕			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第5回	中所得国の罠 ：経済停滞の原因② 〔テキスト：戸堂（2021）5章〕			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第6回	国際貿易・海外直接投資 ：経済成長の要因① 〔テキスト：戸堂（2021）6章〕			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第7回	産業集積 ：経済成長の要因② 〔テキスト：戸堂（2021）7章〕			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第8回	社会関係資本・社会ネットワーク ：経済成長の要因③ 〔テキスト：戸堂（2021）8章〕			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第9回	社会・経済制度 ：経済制度の役割① 〔テキスト：戸堂（2021）9章〕			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第10回	経済発展の政治経済学 ：経済制度の役割② 〔テキスト：戸堂（2021）10章〕			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第11回	農村開発 ：経済開発のあり方① 〔テキスト：戸堂（2021）11章〕			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第12回	農村金融 ：経済開発のあり方② 〔テキスト：戸堂（2021）12章〕			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第13回	経済協力 ：経済開発のあり方③ 〔テキスト：戸堂（2021）13章〕			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第14回	到達度確認テスト ：試験のフィードバック			テキストおよび配付資料に基づいて、授業の内容を確認する。		60	
<p>〔授業の方法〕</p> <p>対面（講義）形式で授業を実施し、授業資料は CoursePower を通じて配付する。毎回、授業の最後に CoursePower 上から授業のコメントを入力してもらう。また、授業内容の理解度を確認するために、小テスト（2～3 回程度）と到達度確認テスト（授業内試験）を行う。ただし、授業の進捗に応じて授業計画を変更する場合がある。</p>							
〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕							
<p>〔課題等へのフィードバック方法〕</p> <p>コメントおよび小テストについては、授業の中でその回答および解説（採点后）を行う。また、到達度確認テスト（授業内試験）については、試験終了後に授業の中でフィードバックを行う予定である。</p>							
〔成績評価の方法〕							

小テスト (30%)、到達度確認テスト (70%)。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準 (学則第 38 条、39 条) に準拠する。なお、成績評価は、次の到達目標の達成度合いに応じて行うこととする。

1. 経済学的な視点から、持続的な成長のために重要なメカニズムを理解することができる。
2. 経済学的な観点から、持続的な成長のために必要なアプローチを考察することができる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

基礎的なマクロ経済学関連の科目を履修中もしくは履修済みである方が望ましい。

〔テキスト〕

戸堂康之『開発経済学入門 第 2 版』新世社 2021 年 (2,600 円+税)

〔参考書〕

特になし。

〔質問・相談方法等 (オフィス・アワー)〕

授業終了後に教室で受け付ける。

〔特記事項〕

講義名	国際文化交流論						
教員名	高島 まな						
講義コード	120821010	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 前期
<p>〔テーマ・概要〕 本科目では、近現代の日本の国際文化交流に焦点を当て、世界情勢と日本社会の動向の中で、国際文化交流というものがいかに認識され、実行されてきたかを探り、今後どうあるべきかを考える。 講義では、担当教員が、日本の代表的な国際文化交流機関である国際交流基金での実務経験に基づき、国際文化交流に関わる各種概念、歴史的展開などを紹介し、具体的事例を取り上げつつ、国際文化交流の目的、政策や外交・社会状況との関わり、実施形態などについて検証する。</p>							
<p>〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕 DP1【専門分野の知能・技能】 国際文化交流に関する基礎的な知識を得ることができる。 DP2【教養の習得】 国際文化交流に関する歴史的背景、最新の動向などを把握することができる。 DP3【課題の発見と解決】 国際文化交流の特質を把握するとともに研究や議論の広がりを見極め、自らの議論を発展させることができる。 DP4【表現力、発信力】 国際文化交流に関する自らの考えを発信し、また行動するために必要な知見を得ることができる。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション：授業の概要・目標・構成・参考書・評価方法等 ・「文化」とは何か、「国際文化交流」とは何か：国際、文化、交流、国際文化交流、国民国家、文化外交、文化協力、文化支援、国際協力、国際貢献、異文化理解、多文化社会、多文化共生、広報、宣伝、文化工作、プロパガンダ等 			左記列記の項目や、その他該当する/関係すると思われる項目について考察しておく。 (授業時に、具体的な復習項目や、次回に向けての予習内容を指示する場合もある。)		90-120	
第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・異文化との接触・受容（意図しない文化交流） 近代までの世界および日本のさまざまな事例：ヘレニズム文化、大航海時代、仏教伝来、遣隋使・遣唐使、キリシタン、漂流民等 			同上		90-120	
第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の国際文化交流（1）幕末：ペリー来航、攘夷、安政の五カ国条約、パリ万博参加等 			同上		90-120	
第4回	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の国際文化交流（2）明治開国：欧化政策、「和魂洋才」、「富国強兵」、お雇い外国人、ウィーン万博参加、鹿鳴館、岩倉使節団等 			同上		90-120	
第5回	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の国際文化交流（3）大陸進出：義和団事件、義和団事件賠償金、外務省「対支文化事業局」設置、「対支文化事業」開始 			同上		90-120	
第6回	<ul style="list-style-type: none"> ・日本国際文化交流（4）戦間期の国際知的協力、日本の孤立化：国際連盟、知的協力国際委員会、満州事変、国際連盟脱退、「国際文化振興会」設立等 			同上		90-120	
第7回	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の国際文化交流会（5）戦争と文化工作：外務省「文化事業部」廃止、内閣情報局、大東亜省、南洋進出、日本語教育、南方特別留学生制度、一高特設高等科等 			同上		90-120	
第8回	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の国際文化交流（6）戦後の「文化立国」：ユネスコ設立、ガリオア・プログラム、ユネスコ加盟、国際連合加盟、フルブライト交流事業、国費外国人留学生制度等 			同上		90-120	
第9回	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の国際文化交流（7）高度経済成長と対日批判：ODA 開始、東京オリンピック、GNP 世界第2位、大阪万博、ニクソン・ショック、「国際交流基金」設立、外交青書「情報文化活動の大綱」、ODA 文化無償事業開始、福田ドクトリン、ASEAN 文化基金、大平総理所信表明演説「文化の時代、国際化の時代」、「地球の歩き方」創刊、ブラザ合意、バブル経済等 			同上		90-120	
第10回	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の国際文化交流（8）国際貢献、国際協力：竹下総理ロンドン・スピーチ「世界に貢献する日本」、外交青書「国際協力構想」等 国際交流基金「文化協力プログラム」・「日本語国際センター」・「アセアン文化センター」・「日米センター」、ユネスコ文化遺産保存日本信託基金等 湾岸戦争、国連「平和維持活動」参加、国連開発計画「人間の安全保障」、ODA 最高額、橋本ドクトリン「多角的な文化協力」等 			同上		90-120	
第11回	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の国際文化交流（9）ソフト・パワーとパブリック・ディプロマシー：ジョセフ・ナイ「ソフト・パワー」、ダグラス・マ格雷イ「クール・ジャパン」、外務省「広報文化交流部」、ドラえもん「外務省アニメ大使」、「カワイイ大使」、国土交通省ほか「ビジット・ジャパン・キャンペーン」、経産省「クール・ジャパン室」、内閣府「日本ブランド戦略」・「日本文化産業戦略」等 			同上		90-120	

第12回	・日本の国際文化交流(10)「戦略的対外発信」: K-POP 流行、孔子学院、世宗学堂、外務省「戦略的対外発信室」、内閣官房「国家安全保障戦略」、特定技能制度、特別高度人材制度、定住外国人、地球規模課題、普遍的価値の共有 等	同上	90-120
第13回	・日本の国際文化交流(11-1) 事例研究1: 文学の翻訳:海外での村上春樹ブーム、村田沙耶香「コンビニ人間」、「源氏物語A・ウェイリー版」 等	同上	90-120
第14回	・日本の国際文化交流(11-2) 事例研究2: 海外における日本研究 ・日本の国際文化交流(12) 将来の展望: 日本文化の同時代性、海外におけるに日本文化の日常化、日本の経験・失敗の共有、国際協働・共創 等	同上	90-120
<p>〔授業の方法〕</p> <p>(1) 授業は、講義、学生による発表、グループ・ディスカッションを組み合わせで行う。</p> <p>(2) 授業ごとに、その授業で得た知見等に関するレスポンス・ペーパーの提出(毎授業の最後に教室で記述して提出)を課す。次回の授業の冒頭で、適宜フィードバックや補足・解説等を行う。</p> <p>(3) 授業の進展状況や学生の関心等により、適宜、授業計画・内容を変更することもあり得る。</p>			
<p>〔パソコンに関する受講者への指示(特別なソフトウェアのインストール等)〕</p> <p>特になし</p>			
<p>〔課題等へのフィードバック方法〕</p> <p>本シラバス上記「授業の方法」(2)に記載のとおり、授業ごとに提出を課するレスポンス・ペーパーに対し、次回の授業時に、適宜フィードバックや補足・解説等を行う。</p>			
<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>期末レポート:30%</p> <p>平常点(レスポンス・ペーパーの提出):40%</p> <p>授業時の発表:30%</p>			
<p>〔成績評価の基準〕</p> <p>成蹊大学の成績評価基準(学則第38条、39条)に準拠する。</p> <p>上記「到達目標」の達成度により評価する。</p>			
<p>〔必要な予備知識/先修科目/関連科目〕</p> <p>(1) 世界史および日本史を概観し、異文化接触・異文化交流という観点に立って、主な出来事やその時代背景を押さえておく。</p> <p>(2) 現在の世界情勢、日本の社会情勢を押さえておく。</p> <p>(3) 本シラバス下記「参考書」欄記載の書籍や、授業中に適宜提示するその他の書籍、ウェブサイト等を参考にする。</p> <p>(4) 各学生にあらかじめ発表項目を割り振り、後日の授業中での発表を課すので、担当項目を調べ、パワポやワード等の発表資料をまとめておく。</p>			
<p>〔テキスト〕</p> <p>特になし</p>			
<p>〔参考書〕</p> <p>『万国博覧会と人間の歴史』、佐野真由子編、思文閣出版、978-4784218196</p> <p>『近代日本と国際文化交流』、柴崎厚士、有信堂、4-8420-5533-2</p> <p>『戦中戦後期の国際文化交流事業と、その戦後期への影響ー国際文化交流・日本語教育・留学生教育ー』、嶋津拓、現代図書、978-4-434-32257-0</p> <p>『ソフト・パワー 21世紀国際政治を制する見えざる力』、ジョゼフ・S・ナイ(山岡洋一訳)、日本経済新聞出版、9784532164751</p> <p>『〈文化〉を捉え直す カルチュラル・セキュリティの発想』、渡辺靖、岩波書店、978-4-00-431573-5</p> <p>『国際文化交流を実践する』、国際交流基金編、白水社、978-4-560-09797-7</p> <p>『Haruki Murakami を読んでいるときに我々が読んでいる者たち』、辛島デイヴィッド、みすず書房、97846220877</p> <p>『コンビニ人間』、村田沙耶香、文芸春秋社、978-4167911300</p> <p>『源氏物語 A・ウェイリー版 1~4』、柴式部(アーサー・ウェイリー訳の穂谷まりえ・森山めぐみ訳)、左右社、978-4865281637 他</p> <p>『提言 社会の分子ではなく、分母としての文化政策』、新しい文化政策プロジェクト編、同プロジェクトウェブサイト</p> <p>外務省、文科省、文化庁、スポーツ庁、国際交流基金、地方自治体、各種学術・文化機関、各種国際交流団体、British council、Goethe-Institut 等のウェブサイト</p>			
<p>〔質問・相談方法等(オフィス・アワー)〕</p> <p>授業終了後に教室で受け付ける。また、随時、メールでも受け付ける。</p>			
<p>〔特記事項〕</p>			

講義名	人権とジェンダー						
教員名	本山 央子						
講義コード	120830110	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2026 後期
<p>[テーマ・概要]</p> <p>人間は、本質的に異なる身体・性質・役割をもった男／女のどちらかに明確に区別されるという想定は、わたしたちの生のあり方をどのように規定してきたのでしょうか。この講義では、ジェンダー、セクシュアリティ、フェミニズムに関する基本的な概念と歴史、制度について概説します。また、家族、労働と経済、暴力、政治など幅広い研究領域によるジェンダー分析の成果を紹介することを通して、「自然」「ふつう」、権力、社会正義について批判的に問い直すためのレンズとしてのジェンダーの意味を明らかにしていきます。受講生のみなさんが日常生活の中で出会うさまざまなジェンダーに関わる問題についてもできるだけ取り上げ議論する機会にしたいと思います。</p>							
<p>[科目内容を踏まえた到達目標の詳細]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジェンダー、セクシュアリティ、フェミニズムに関わる主要な概念、イシュー、歴史、制度について基礎的な理解を身に付けることができる。 ・人権、差別、抑圧、権力に関わるさまざまな今日の問題について、社会の一員として主体的に考え行動することができる。 ・今日の具体的課題について調べたり議論に参加することを通して、他者と意見交換しながら自身の考えを深めることができるようになる。 							
[授業の計画と準備学修]							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	1. イントロダクション 授業内容の概要、授業の進め方、準備・評価について			次回課題文献に目を通しておくこと。		60分	
第2回	2. フェミニズム運動は何を問うてきたのか フェミニズム運動の歴史、ジェンダー概念の誕生について			講義内容に関する質問や疑問があればコメントシートで提出すること。 次回課題文献に必ず目を通し、わからない点確認したい点を確認しておく。		60分	
第3回	3. 家族という政治的装置 近代国家とジェンダー体制、近代家族の成立について			講義内容に関する質問や疑問があればコメントシートで提出すること。 次回課題文献に必ず目を通し、わからない点確認したい点を確認しておく。		60分	
第4回	4. 家族と労働（1） 日本型雇用のジェンダー側面と変化について			講義内容に関する質問や疑問があればコメントシートで提出すること。 次回課題文献に必ず目を通し、わからない点確認したい点を確認しておく。		60分	
第5回	5. 家族と労働（2） 高度成長期以降の労働とジェンダー、家族の変化			講義内容に関する質問や疑問があればコメントシートで提出すること。 次回課題文献に必ず目を通し、わからない点確認したい点を確認しておく。		60分	
第6回	6. 労働、ケア、経済 労働、ケア、経済に関するフェミニスト経済学の見方について			講義内容に関する質問や疑問があればコメントシートで提出すること。 次回課題文献に必ず目を通し、わからない点確認したい点を確認しておく。		60分	
第7回	7. デートDV ゲスト講師によるワークショップ			講義内容に関する質問や疑問があればコメントシートで提出すること。 次回課題文献に必ず目を通し、わからない点確認したい点を確認しておく。		60分	
第8回	8. 性と生殖 性と生殖に対する国家統制と権利保障について			講義内容に関する質問や疑問があればコメントシートで提出すること。 次回課題文献に必ず目を通し、わからない点確認したい点を確認しておく。		60分	
第9回	9. 男性という問題 男性と男らしさについて			講義内容に関する質問や疑問があればコメントシートで提出すること。 次回課題文献に必ず目を通し、わからない点確認したい点を確認しておく。		60分	
第10回	10. 「LGBT」？ 性的指向と異性愛規範			講義内容に関する質問や疑問があればコメントシートで提出すること。 次回課題文献に必ず目を通し、わからない点確認したい点を確認しておく。		60分	
第11回	11. 性別の同一性と越境（1） トランスジェンダーとジェンダー・アイデンティティについて			講義内容に関する質問や疑問があればコメントシートで提出すること。 次回課題文献に必ず目を通し、わからない点確認したい点を確認しておく。		60分	
第12回	12. 性別の同一性と越境（2） 社会の中のトランスジェンダー			講義内容に関する質問や疑問があればコメントシートで提出すること。 次回課題文献に必ず目を通し、わからない点確認したい点を確認しておく。		60分	
第13回	13. セックス／ジェンダー再考 生物学的/社会的性の差異をめぐる問題と整理			講義内容に関する質問や疑問があればコメントシートで提出すること。 次回課題文献に必ず目を通し、わからない点確認したい点を確認しておく。		60分	
第14回	14. まとめ まとめと到達度試験			講義内容に関する質問や疑問があればコメントシートで提出すること。 次回課題文献に必ず目を通し、わからない点確認したい点を確認しておく。		60分	
<p>[授業の方法]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的に講義形式で行いますが、受講生同士のディスカッションや、ワークショップ、ゲスト講師による講義も含まれることがあります。 ・課題文献は必ず事前に読み、わからない点や重要と思う点をチェックしておくこと。テキストを事前に予習してあることを前提として授業を進めます。 ・授業後アンケートや事前課題の内容があきらかに不十分であったりAIを使っているときみなされる場合には出席や課題提出を行ったと認めないことがあるので注意してください。 							

<p>〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕</p>
<p>〔課題等へのフィードバック方法〕 授業の最初に前回授業のコメントに対するフィードバックを行います。</p>
<p>〔成績評価の方法〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・到達度確認テスト（60%） ・授業後コメントシートの内容、事前課題の実施（40%）
<p>〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。 講義の内容やテキストの内容について自ら主体的に考えて検討しているか、授業で扱った基本的概念や重要なイシューについてどれだけ具体的に理解し、自らの言葉で説明できるかを見る。</p>
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし。</p>
<p>〔テキスト〕 なし（毎回資料を配布します）</p>
<p>〔参考書〕 ハンナ・マッケンほか『フェミニズム大図鑑』三省堂、 上野千鶴子『近代家族の成立と終焉』岩波書店、 長田・金井・古沢『フェミニスト経済学』有斐閣、 森山至高『LGBT を読みとく』ちくま新書 など。 いずれも購入の必要なし。</p>
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 連絡先はポータルサイトで周知します。 質問は主に授業終了後のアンケートおよび授業後に直接受け付けます。</p>
<p>〔特記事項〕</p>

講義名	福祉社会に生きる						
教員名	姫野 宏輔						
講義コード	120830210	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2026 後期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>本科目は、現代社会におけるさまざまな社会福祉政策について、武川正吾『福祉社会——包摂の社会政策』（有斐閣）をテキストに用いて学んでいきます。少子高齢化の進展は、社会のメンバーの中に、ケアや支援を必要とする人の増加をもたらしますが、社会福祉政策の対象は高齢者に限りません。どのような人たちに支援が必要なのか、なぜ必要なのか、「そもそも」論に立ち戻って考えることをこの授業では重視します。そこで各回の授業計画に掲載しているような「問い」を設定し、これらの問いに対して、社会学（特に福祉社会学）的な観点から考える視点・思考方法を紹介します。受講者には福祉社会を「自分とは縁遠いもの」として考えるのではなく、網の目のように設計された現在の福祉社会の中に自分を位置づけ、今後どのような社会像を描けばよいか、自分自身で考えてもらうことを重視します。</p>							
<p>〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕</p> <p>DP2（教養の習得）、DP4（表現力、発信力）、DP5（多様な人々との協働）を実現するため、次の2点を到達目標とする。</p> <p>（1）現代の福祉社会の設計とその思想的な背景について、基本的な知識を身に付けて理解することができる。</p> <p>（2）現代の福祉社会の抱える問題について理解し、自分の言葉でそれを説明し、将来の方向性について考えることができる。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	イントロダクション——「福祉」とは何か			授業中の配布資料を読み返し理解を深める。		30	
第2回	排除と包摂（1）——社会の中のマイノリティは誰か			授業中の配布資料を読み返し、排除と包摂の概念について理解を深める。		60	
第3回	排除と包摂（2）——ディスアビリティを作り出しているのは何か			授業中の配布資料を読み返し、ディスアビリティの概念について理解を深める。		60	
第4回	「ニーズ（必要）」と「ダイヤモンド（需要）」——支援を必要とする人は誰か			授業中の配布資料を読み返し、福祉制度における必要と需要を把握することについて理解を深める。		60	
第5回	資源の再分配——どうやって「公平な社会」を作るのか			授業中の配布資料を読み返し、福祉社会における資源の再分配と公共哲学の理論について理解を深める。		60	
第6回	専門主義と官僚制——福祉制度の設計は専門家に任せざるべきなのか			授業中の配布資料を読み返し、福祉制度の設計とその思想的な背景について理解を深める。		60	
第7回	到達度の確認 ・第2回～第5回の授業の内容にもとづいて中間レポートを作成する。			第2回～第5回の授業を復習しておき、自分の言葉で要点を説明できるようにする。		60	
第8回	福祉国家の分類——どのような福祉社会がありうるか			授業中の配布資料を読み返し、福祉国家の類型とその代表的な例について理解を深める。		60	
第9回	福祉国家の国家間比較（1）——アメリカの福祉社会のデザインとは			授業中の配布資料を読み返し、アメリカ合衆国のウェルフェア・キャピタリズムについて理解を深める。		60	
第10回	福祉国家の国家間比較（2）——ドイツの福祉社会のデザインとは			授業中の配布資料を読み返し、ドイツの社会保険政策と相互扶助について理解を深める。		60	
第11回	福祉国家の国家間比較（3）——スウェーデンの福祉社会のデザインとは			授業中の配布資料を読み返し、スウェーデンの社会政策と現代の問題点について理解を深める。		60	
第12回	多様化する福祉の担い手（1）——グローバル化は社会をどう変えるか			授業中の配布資料を読み返し、グローバル化が社会にもたらす変化について理解を深める。		60	
第13回	多様化する福祉の担い手（2）——ジェンダー主流化は社会をどう変えるか			授業中の配布資料を読み返し、ジェンダー主流化が社会にもたらす変化について理解を深める。		60	
第14回	授業の総括 ・授業の内容にもとづいて最終課題レポートを作成する。			これまでの授業を復習しておき、自分の言葉で要点を説明できるようにする。		60	
<p>〔授業の方法〕</p> <p>本授業は講義形式で実施します。ガイダンスを除く講義回（第2回～第6回、第8回～第13回）では毎回の授業終了時に、CoursePowerを用いてその授業に関するコメントを提出してもらいます。また、第7回・第14回では、それまでの授業の内容についての理解度を確認する中間レポート・課題レポートをこれもCoursePowerから提出してもらいます。授業内容を丸暗記するのではなく、授業中に扱ったテーマを自分の身近な例に引き寄せて、自分なりに要点を説明できているかという点を重視します。</p>							
〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕							
<p>〔課題等へのフィードバック方法〕</p> <p>毎回の授業時冒頭で、前回授業分の提出課題に対して講評・解説を行う時間を設けることでフィードバックを行います。</p>							

<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>毎回の授業時に課されるコメント提出を平常点として 50%、授業第 7 回の中間レポートと授業第 14 回の課題レポートの評価の合計を課題得点 50%の配分で、総合的に評価する。これらの課題はすべて CoursePower から提出する。</p>
<p>〔成績評価の基準〕</p> <p>成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 福祉社会の設計とその思想的な背景について、自分自身の言葉で要点を説明することができるかを評価の基準とし、その達成度によって評価する。</p>
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕</p> <p>特になし。</p>
<p>〔テキスト〕</p> <p>『福祉社会——包摂の社会政策（新版）』武川正吾、2011、有斐閣アルマ（ISBN-10: 464112406X） ※購入の必要なし</p>
<p>〔参考書〕</p> <p>特になし。 毎回の授業の中で参考資料を配布します。</p>
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕</p> <p>本講義は対面授業で実施するので、授業終了後に教室で受け付けます。また、講師への問い合わせ先は第 1 回授業の資料に記載します。</p>
<p>〔特記事項〕</p>

講義名	地域福祉論						
教員名	姫野 宏輔						
講義コード	120830710	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 前期
<p>[テーマ・概要]</p> <p>日常生活の中で生きづらさを感じたとき、「自分で何とかする（自助）」か「政府や地方自治体などに助けてもらう（公助）」の二択で対応しようとする人は多いと思います。しかし、自助による福祉は明確に限界があり、公助による福祉は私たちのニーズ（必要）と乖離していることが少なくありません。そこで本科目では、福祉学において主流化しつつある、私たちの生活に密着している地域社会を基盤として共助を進める、「地域福祉」の概念について基礎的な知識を学ぶとともに、皆さん一人ひとりの考える地域福祉のあり方を具体的に言語化することを練習していきます。授業前半部は地域福祉の理論についての座学、後半部は実際に地域福祉に取り組んでいる事例の紹介を経て、最終的に受講生の皆さんには「自分が現在住んでいる地域における地域福祉のあり方」を独自に構想してもらい、レポートとして提出してもらう予定です。</p>							
<p>[科目内容を踏まえた到達目標の詳細]</p> <p>DP2（教養の習得）、DP4（表現力、発信力）、DP5（多様な人々との協働）を実現するため、次の2点を到達目標とする。</p> <p>(1) 現代社会において地域福祉が主流化している現象の思想的な背景と経緯について、基本的な知識を身につけて理解することができる。</p> <p>(2) 自分の身近な例から地域福祉の実践手法を考え、他者に説明して理解を求めることができる。</p>							
[授業の計画と準備学修]							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	イントロダクション——「福祉」と「地域」			授業中の配布資料を読み返し理解を深める。		30	
第2回	地域福祉の思想的背景			授業中の配布資料を読み返し、共同体主義について理解を深める。		60	
第3回	地域福祉の歴史			授業中の配布資料を読み返し、世界と日本の地域福祉の歴史について理解を深める。		60	
第4回	地域福祉の法制度			授業中の配布資料を読み返し、地域包括ケアについて理解を深める。		60	
第5回	地域福祉の対象			授業中の配布資料を読み返し、地域福祉の視点から取り組むことが有効な社会問題について理解を深める。		60	
第6回	地域福祉の推進主体			授業中の配布資料を読み返し、社会福祉協議会などのフォーマルな団体について理解を深める。		60	
第7回	地域福祉の方法			授業中の配布資料を読み返し、コミュニティオーガニゼーションについて理解を深める。		60	
第8回	具体例から学ぶ（1）——高齢者福祉			授業中の配布資料を読み返し、愛知県大府市の例について理解を深める。		60	
第9回	具体例から学ぶ（2）——社会的孤立			授業中の配布資料を読み返し、東京都三鷹市の例について理解を深める。		60	
第10回	具体例から学ぶ（3）——マイノリティ			授業中の配布資料を読み返し、群馬県大泉町の例について理解を深める。		60	
第11回	具体例から学ぶ（4）——空き家の増加			授業中の配布資料を読み返し、岡山県岡山市の例について理解を深める。		60	
第12回	具体例から学ぶ（5）——買い物弱者			授業中の配布資料を読み返し、徳島県の例について理解を深める。		60	
第13回	地域福祉の未来——住民主体のまちづくり			授業中の配布資料を読み返し、地域住民参加型の活動の重要性について理解を深める。		60	
第14回	授業の総括 ・授業の内容にもとづいて課題レポートを作成する。			これまでの授業を復習しておき、自分の言葉で要点を説明できるようにする。		60	
[授業の方法]							
<p>本授業は講義形式で実施します。ガイダンスを除く講義回では毎回の授業終了時に、CoursePower からその授業に関するコメントを提出してもらいます。授業中に扱ったテーマを自分の身近な例に引き寄せて、自分なりに要点を説明できているかという点を重視します。</p>							
[パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）]							
[課題等へのフィードバック方法]							
<p>毎回の授業時冒頭で、前回授業分の提出課題に対して講評・解説を行う時間を設けることでフィードバックを行います。</p>							
[成績評価の方法]							

毎回の授業時に課されるコメント提出を平常点として 50%、最終回の第 14 回での課題レポートの評価の合計を課題得点 50%の配分で、総合的に評価する。これらの課題はすべて CoursePower から提出する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 地域福祉の理論とその実践手法について、自分自身の言葉で要点を説明することができるかを評価の基準とし、その達成度によって評価する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特になし。

〔テキスト〕

『ストーリーで学ぶ地域福祉』、加山 弾・熊田博喜・中島修・山本美香、2020、有斐閣ストゥディア（ISBN-10：4641150753） ※購入の必要なし

〔参考書〕

特になし。

毎回の授業の中で参考資料を配布します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

この授業は対面授業で実施しますので、授業終了後に教室で受け付けます。また、教員への問い合わせ連絡先は初回授業資料に掲載します。

〔特記事項〕

講義名	高齢者福祉論						
教員名	姫野 宏輔						
講義コード	120830810	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 前期
<p>[テーマ・概要]</p> <p>本科目は、現代社会における「老い」と「福祉」について、どのような社会のあり方を目指すことが望ましいのか、高齢化の進んだ地域の実例から考えていく授業です。先んじて結論を述べてしまうと、「どんな地域もこうすればみんな幸せになれる」といった魔法の万能薬のような社会デザインは存在しません。ひとが老いていくとき、そのひとが暮らす場所では何が問題となるのか、周囲のひとびとはどのような対策をとろうとしているのか、それはなぜなのか、政府はどのような対策をとろうとしているのか、といったことを地道に調べて、できるだけ多くのひとが幸せを感じることができるように試行錯誤を繰り返す他はありません。人類史を通じて見ても稀な超高齢化社会に突入している日本社会は、どのような社会デザインを描くべきでしょうか。この授業では、「教えられたことを覚える」ことよりも、学生の皆さんが「自分で考えてみる」ことを重視します。授業はガイダンスを除いて2回を1セットにして、(前半)重要なキーワードを学ぶ→(後半)実際にその問題が発生している実例をもとにどうすれば良いか考えてみる、という形式を繰り返します。後半の実例を見る授業回では映像作品も使用します。今後さらに高齢化率が上昇していく社会を生きる皆さんが、「老い」のもたらす社会問題に直面したときに参考になるよう、たくさんの事例を見ていきますので、望ましい社会福祉のあり方について、一緒に考えていきましょう。</p>							
<p>[科目内容を踏まえた到達目標の詳細]</p> <p>DP2(教養の習得)、DP4(表現力、発信力)、DP5(多様な人々との協働)を実現するため、次の2点を到達目標とする。</p> <p>(1) 老いをもたらす社会問題について、基本的な知識や類型を身に付けて理解することができる。</p> <p>(2) 自分の身の回りで起こっている老いと社会問題について、その問題点を発見し、解決に向けての行動案を自分で考えることができる。</p>							
[授業の計画と準備学修]							
回数	授業の計画・内容			準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)	
第1回	イントロダクション——「老い」とは何か			復習・授業中の配布資料を読み返し理解を深める。		30	
第2回	老いとディスアビリティ(1)			復習・授業中の配布資料を読み返し、ディスアビリティ概念について理解を深める。		60	
第3回	老いとディスアビリティ(2)			自分がディスアビリティにまつわる社会問題に直面したらどうするか、自分なりに考えてみる。		60	
第4回	老いと家族・血縁(1)			復習・授業中の配布資料を読み返し、家族・親族によって支えられてきた高齢者福祉の歴史について理解を深める。		60	
第5回	老いと家族・血縁(2)			自分の家族・親族が老いのもたらす社会問題に直面したらどうするか、自分なりに考えてみる。		60	
第6回	老いと人間関係(1)			復習・授業中の配布資料を読み返し、老いと社会的孤立の相関関係について理解を深める。		60	
第7回	老いと人間関係(2)			自分ならば、老いた後にどのような人間関係を結ぶことが望ましいと思うか、自分なりに考えてみる。		60	
第8回	老いと経済・年金(1)			復習・授業中の配布資料を読み返し、老いと経済活動の関係性について理解を深める。		60	
第9回	老いと経済・年金(2)			老いて経済活動に携わることが難しくなった人々に対して、自分ならばどのような社会政策が望ましいと思うか、自分なりに考えてみる。		60	
第10回	老いと世代間格差(1)			復習・授業中の配布資料を読み返し、少子化と労働力人口の減少について理解を深める。		60	
第11回	老いと世代間格差(2)			若年世代と高齢世代が対立しているという言説について、自分なりに社会の将来像を考えてみる。		60	
第12回	老いと自己決定(1)			復習・授業中の配布資料を読み返し、ケイバビリティ・アプローチから自己決定の問題の要点を理解する。		60	
第13回	老いと自己決定(2)			「自己決定」を支援する福祉制度のありかたについて、自分なりに考えてみる。		60	
第14回	授業の総括			少子高齢化が進展する社会において、望ましい社会デザインを自分なりに考えてみる。		30	
<p>[授業の方法]</p> <p>授業は講義形式で行います。ガイダンスを除いて授業は2回を1セットにして、(前半)重要なキーワードを学ぶ→(後半)実際にその問題が発生している実例をもとにどうすれば良いか考えてみる、という形式を繰り返します。1セット終了ごとに「自分ならこの社会問題に対してどう取り組むか」を考えたコメントを提出してもらいます。絶対的に「正しい」解決策はありません。自由な発想で、自分の言葉を使って、自分ならどうするかを考えられているかどうかを確認します。</p>							
[パソコンに関する受講者への指示(特別なソフトウェアのインストール等)]							
[課題等へのフィードバック方法]							

前半の授業回では、その前回の授業（後半）回で提出してもらった授業コメントの講評・解説を行う時間を授業冒頭に設けることでフィードバックを行います。

〔成績評価の方法〕

2回の授業ごとに課される毎回のコメント（CoursePower から提出）を平常点として 50%、第 14 回授業時に課す課題レポート（これも CoursePower から提出）を到達度の確認として 50%の配分で総合的に評価する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 老いがもたらす社会問題について、自分自身の言葉で問題の要点を説明し、対策を考えることができているかを評価の基準とし、その達成度によって評価する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特になし。

〔テキスト〕

特になし。
毎回の授業の中で参考資料を配布します。

〔参考書〕

特になし。
毎回の授業の中で参考資料を配布します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

本講義は対面授業で実施するので、授業終了後に教室で受け付けます。また、講師への問い合わせ先は第 1 回授業の資料に記載します。

〔特記事項〕

講義名	こころの健康と臨床<1>						
教員名	石川 千春						
講義コード	120830910	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 前期
<p>【テーマ・概要】</p> <p>近年、こころの健康問題はわが国においても社会的な課題となっている。多様性を増し、予測が難しい社会において、人々はどのようにこころの健康を維持したり守ったり改善させたりするのだろうか。このような観点から人間を理解することは、自分自身のこころの健康を支え、周囲の人とよりよく関わり、学生生活や社会活動を行う上でも重要であろう。本講義では、こころの健康問題を理解するため、臨床心理学や精神医学で扱われる諸問題を取り上げ、代表的な理論や予防策・対応策を紹介する。また、担当教員の医学領域・教育領域での臨床心理士・公認心理師としての実務経験を踏まえ、認知行動療法を中心としたアプローチやライフサイクルに応じた課題等について講義を行う予定である。</p> <p>※授業の進捗および学生の関心や担当教員の判断によって、内容を一部変更する場合がある。</p>							
<p>【科目内容を踏まえた到達目標の詳細】</p> <p>DP2（教養の修得）、DP3（課題の発見と解決）、DP5（多様な人々との協働）を実現するため、以下を到達目標とする。</p> <p>(1) こころの健康問題に関する正しい知識を学ぶことを通じて自己の誤解や偏見に気づき、問題の本質を理解すること</p> <p>(2) こころの健康問題に関する多様な状態や対処法について説明できること</p> <p>(3) 自他のこころの健康問題で困った際に、それを軽減するための実践について考察すること</p>							
【授業の計画と準備学修】							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	オリエンテーション ・授業の内容、進め方等について説明を受け、本講義の趣旨を理解する。 ・近年のこころの健康問題について概観を知る。			【予習】シラバスに目を通しておく。 【復習】授業で紹介した内容を振り返り、理解する。		【復習】60	
第2回	こころの健康とその問題を理解するための様々な枠組み(1) ・こころの健康—不調の連続性、定義、諸基準等を知る。 ・こころの問題を理解するための代表的枠組みについて理解する。			【予習】参考資料・スライド等があれば、目を通しておく。 【復習】主要トピックやキーワードを振り返って理解を深め、説明できるようにする。		【予習】10 【復習】50	
第3回	こころの健康とその問題を理解するための様々な枠組み(2) ・こころの問題を理解するための代表的枠組みについて理解する（続き）。 ・認知行動療法の概要を知り、体験を通して学ぶ。			【予習】参考資料・スライド等があれば、目を通しておく。 【復習】主要トピックやキーワードを振り返って理解を深め、説明できるようにする。		【予習】10 【復習】50	
第4回	こころの健康とその問題を理解するための様々な枠組み(3) ・認知行動療法の概要を知り、体験を通して学ぶ(続き)。			【予習】参考資料・スライド等があれば、目を通しておく。 【復習】主要トピックやキーワードを振り返って理解を深め、説明できるようにする。		【予習】10 【復習】50	
第5回	気分障害(1) ・うつ病について理解する。 ・日常的に体験する「気分の落ち込み」と「うつ病」の異同を知る。			【予習】参考資料・スライド等があれば、目を通しておく。 【復習】主要トピックやキーワードを振り返って理解を深め、説明できるようにする。		【予習】10 【復習】50	
第6回	気分障害(2) ・双極症について理解する。 ・気分障害における予防法・対処法を知る。			【予習】参考資料・スライド等があれば、目を通しておく。 【復習】主要トピックやキーワードを振り返って理解を深め、説明できるようにする。		【予習】10 【復習】50	
第7回	不安障害(1) ・社交不安症について理解する。 ・不安のメカニズムについて学ぶ。			【予習】参考資料・スライド等があれば、目を通しておく。 【復習】主要トピックやキーワードを振り返って理解を深め、説明できるようにする。		【予習】10 【復習】50	
第8回	不安障害(2) ・パニック症について理解する。 ・不安に対するアプローチについて知る。			【予習】参考資料・スライド等があれば、目を通しておく。 【復習】主要トピックやキーワードを振り返って理解を深め、説明できるようにする。		【予習】10 【復習】50	
第9回	不安障害(3) ・強迫症について理解する。 ・強迫症に対するアプローチの実践例を知る。			【予習】参考資料・スライド等があれば、目を通しておく。 【復習】主要トピックやキーワードを振り返って理解を深め、説明できるようにする。		【予習】10 【復習】50	
第10回	心的外傷後ストレス障害(PTSD) ・PTSDについて理解する。 ・トラウマ的体験に対する対処や支援について学ぶ。			【予習】参考資料・スライド等があれば、目を通しておく。 【復習】主要トピックやキーワードを振り返って理解を深め、説明できるようにする。		【予習】10 【復習】50	
第11回	ストレスと心身症 ・ストレスが心身に及ぼす影響について理解する。 ・ストレスマネジメントのための実践的な方法を学ぶ。			【予習】参考資料・スライド等があれば、目を通しておく。 【復習】主要トピックやキーワードを振り返って理解を深め、説明できるようにする。		【予習】10 【復習】50	
第12回	パーソナリティとパーソナリティ症 ・パーソナリティとは何かについて理解する。 ・パーソナリティ症とそのアセスメントや対処法について学ぶ。			【予習】参考資料・スライド等があれば、目を通しておく。 【復習】主要トピックやキーワードを振り返って理解を深め、説明できるようにする。		【予習】10 【復習】50	
第13回	発達に関する障害の理解と支援 ・発達障害の概要について理解する。 ・支援の実際について事例から学ぶ。			【予習】参考資料・スライド等があれば、目を通しておく。 【復習】主要トピックやキーワードを振り返って理解を深め、説明できるようにする。		【予習】10 【復習】50	
第14回	ライフサイクルにおけるこころの健康問題 ・ライフサイクルの各段階におけるこころの健康と課題について理解する。 ・本講義のまとめ：自己と他者のこころの健康について考察する。			【予習】授業内容全体を復習し、質問があれば用意しておく。 【復習】本講義で学んだことを振り返り、こころの健康についての考えを深める。		【予習】30 【復習】30	

<p>〔授業の方法〕</p> <p>※受講人数によっては、以下の方法を多少変更する場合がある。</p> <p>講義を中心に進めるが、小規模なワーク・ディスカッションを行う予定である。受講者は毎授業後にコメントシートを提出し、これが平常点に含まれる。加えて、小テストと期末レポートを課す。復習に力を入れ、学んだ内容の整理を行うこと。上で示した準備学修の時間は目安であり、各自の理解度に応じて取り組むこと。また、第1回のオリエンテーションで出席の確認方法や課題等の詳細について説明を行うので、やむをえない事情がない限り出席すること。</p> <p>各課題の目的は以下の通りである：</p> <p>(1) コメントシート：各授業を通して、感じたこと、考えたこと、疑問点などを言語化し、整理する。</p> <p>(2) 小テスト：各授業の復習をし、正しい知識を身につける。</p> <p>(3) 期末レポート：授業の中で関心を持ったテーマを取り上げ、現実場面における内容の理解や授業を通して得られた自分の見解を整理し、伝達する。</p>
<p>〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕</p>
<p>〔課題等へのフィードバック方法〕</p> <p>各回提出のコメントシートに対するフィードバックを、必要に応じて次回の授業にて行う予定である。</p>
<p>〔成績評価の方法〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加状況・コメントシートの提出による平常点（40%） ・小テスト（20%） ・期末レポート（40%）
<p>〔成績評価の基準〕</p> <p>成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.</p> <p>次の点に着目し、到達度によって評価する。</p> <p>(1) こころの健康問題に関する正しい知識を得て、理解したことを伝達できること</p> <p>(2) こころの健康問題とその予防法や対応方法を関連づけて説明できること</p> <p>(3) 自分や他者のこころの健康を保つための姿勢や行動を考えること</p>
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕</p> <p>関連科目：心理学の基礎／自己理解の心理学／脳科学と心</p>
<p>〔テキスト〕</p> <p>※ 講義のスライドや資料の配布は CoursePower を通して行う。</p> <p>※ 購入の必要なし</p> <p>・『臨床心理学（New Liberal Arts Selection）改訂版』（丹野義彦他，2025）有斐閣</p>
<p>〔参考書〕</p> <p>※ 購入の必要なし</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『公認心理師をめざす人のための臨床心理学入門』（末木新，2021）大修館書店 ・『臨床心理学概論（公認心理師スタンダードテキストシリーズ③）』（下山晴彦・佐藤隆夫・本郷一夫（監修），2020）ミネルヴァ書房
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕</p> <p>ポータルサイトで周知します。</p> <p>また、授業終了後に教室で受け付けます。</p>
<p>〔特記事項〕</p> <p>(4)アクティブ・ラーニング</p>

講義名	こころの健康と臨床<2>						
教員名	林 潤一郎						
講義コード	120830920	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 後期
<p>[テーマ・概要]</p> <p>近年、こころの健康問題は社会的に大きな話題となっている。ストレスをかかえやすい現代社会においては、こころの健康とその問題についての正しい知識と対策を知っておくことは、今後の学生生活や社会生活における自分自身を支える上で、また周囲の人と接する際に、有用なものとなるであろう。</p> <p>本講義では、臨床心理学や精神医学で扱われる代表的なこころの健康問題を取り上げ、多様な理解の枠組みとその予防策・対応策を紹介する。特に、臨床心理学において発展を遂げている認知行動理論および認知行動療法を中心に、心の健康問題（主に精神障害）の予防や軽減および心の健康維持増進に有益だと思われる様々な研究成果や臨床的な知見を、担当教員のカウンセラーとしての実務経験も踏まえて紹介する予定である。</p> <p>なお、授業の進捗および学生の関心や担当教員の判断によって、内容を一部変更する場合がある。</p>							
<p>[科目内容を踏まえた到達目標の詳細]</p> <p>DP2（教養の習得）、DP3（課題の発見と解決）、DP5（多様な人々との協働）を実現するために、以下を達成目標とする。</p> <p>(1) (自他の) こころの健康問題に対する正しい知識を得ること（で、誤解や誤った偏見を減らすこと）。</p> <p>(2) こころの健康問題で困ることを減らすために必要な予防的知識を学ぶこと。</p> <p>(3) こころの健康問題で困った際に、その症状を和らげたり、その問題から抜け出るために役立つような対処のレパートリーを学ぶこと。</p>							
[授業の計画と準備学修]							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	インTRODクシヨン ・授業の内容、進め方、予習・復習の仕方等を説明する。 ・こころの健康問題の概観を知る。			【復習】授業で紹介した内容を理解する。また、主要トピックやキーワードを振り返り、説明できるようにする。		【復習】60	
第2回	こころの健康とその問題を理解するための様々な枠組み(1) ・こころの健康—不調の連続性、定義、諸基準等を知る。 ・こころの問題を理解するための代表的枠組みを知る。			【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。		【予習】10 【復習】50	
第3回	こころの健康とその問題を理解するための様々な枠組み(2) ・こころの問題を理解するための代表的枠組みを知る(続き)。 ・認知行動療法の概要を知り、体験を通して学ぶ。			【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。		【予習】10 【復習】50	
第4回	こころの健康とその問題を理解するための様々な枠組み(3) ・認知行動療法の概要を知り、体験を通して学ぶ(続き)。			【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。		【予習】10 【復習】50	
第5回	気分障害(1) ・気分障害を理解する。 ・「日常的に経験する(抑うつ気分)」と「うつ病」の異同を知る。			【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。		【予習】10 【復習】50	
第6回	気分障害(2) ・気分障害で困った際に役立つ対処(改善)法および予防法を学ぶ。			【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。		【予習】10 【復習】50	
第7回	気分障害(3) ・気分障害で困った際に役立つ対処(改善)法および予防法を学ぶ(続き)。			【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。		【予習】10 【復習】50	
第8回	睡眠障害 ・睡眠の基本性質を知る。 ・睡眠障害を理解する。 ・睡眠障害で困った際に役立つ対処(改善)法および予防法を学ぶ。			【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。		【予習】10 【復習】50	
第9回	不安障害(1) ・パニック障害を理解する。 ・パニック障害で困った際に役立つ対処(改善)法および予防法を学ぶ。			【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。		【予習】10 【復習】50	
第10回	不安障害(2) ・社会不安障害(社交不安障害)を理解する。 ・社会不安障害(社交不安障害)で困った際に役立つ対処(改善)法および予防法を学ぶ。			【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。		【予習】10 【復習】50	
第11回	不安障害(3) ・強迫性障害を理解する。 ・強迫性障害で困った際に役立つ対処(改善)法および予防法を学ぶ。			【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。		【予習】10 【復習】50	
第12回	パーソナリティ障害 ・パーソナリティ障害を理解する。 ・パーソナリティ障害で困った際に役立つ対処(改善)法および予防法を学ぶ。			【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。		【予習】10 【復習】50	
第13回	摂食障害 ・摂食障害を理解する。 ・摂食障害で困った際に役立つ対処(改善)法および予防法を学ぶ。			【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。		【予習】10 【復習】50	
第14回	統合失調症 ・統合失調症を理解する。 ・統合失調症で困った際に役立つ対処(改善)法および予防法を学ぶ。			【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。		【予習】10 【復習】50	
[授業の方法]							

本講義は対面形式で実施し、授業は講義中心に進める。授業において毎回、レスポンスシートの提出を求める。期末テストを実施する。普段からプリントを使った復習に力を入れ、学んだ内容の整理に努めること。また、上で示された準備学修の時間はあくまで目安であって、各自の理解度に応じて取り組むこと。また、出欠確認のために学生証を利用するので、必ず持参して授業に臨むこと。

なお、レスポンスシート、確認ミニテスト、期末レポートの狙いは以下のとおりである。

- ・レスポンスシート：各授業に参加して、学んだこと、感じたこと、思ったこと、疑問点を言語化し、各自の整理をすすめるため。
- ・確認ミニテスト：前回分の内容の理解度・定着度チェックのため。
- ・期末レポート：授業全体の学修成果をまとめるため。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

特になし。

〔課題等へのフィードバック方法〕

各回提出のレスポンスシートに対するフィードバックを次の授業の頭に行う予定。確認ミニテストは回答後、即時に正誤がフィードバックされるため、復習に活用すること。

〔成績評価の方法〕

授業への参加状況・確認ミニテスト・レスポンスシートの提出状況などの平常点（60%：内訳は出席およびレスポンスシート約30%、確認ミニテスト約30%）、期末テスト（40%）、により総合的に評価する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。

次の点に着目し、その到達度により評価する。

- (1) (自他の) こころの健康問題に対する正しい知識を得ること（で、誤解や誤った偏見を減らすこと）。
- (2) こころの健康問題で困ることを減らすために必要な予防的知識を学ぶこと。
- (3) こころの健康問題で困った際に、その症状を和らげたり、その問題から抜け出るために役立つような対処のレパトリーを学ぶこと。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

関連科目：心理学の基礎／自己理解の心理学／脳科学と心

〔テキスト〕

特になし。なお、各回のレジュメは Course Power にアップロードされるので、各自でダウンロードをした上で、それを持参して授業に臨むこと。

〔参考書〕

特になし。ただし、必要に応じて、授業の中で紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。また、授業終了後に教室で受け付ける。

〔特記事項〕

講義名	共生社会トピックス (アートと社会)						
教員名	石橋 鼓太郎						
講義コード	120831010	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 前期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>アートはその成立以降、様々な形で社会と関わってきました。そして現代において、アートについて語るうえで、社会との関係は欠かすことができない要素となつていきます。</p> <p>本科目では、アートと社会の多様な関係について、歴史・事例・理論の側面から学びます。具体的には、アートが成立し様々な形で社会と関わってきた歴史、多様な領域と連携する具体的な実践の事例、そしてそれらを分析するための美学、社会学、人類学等の理論について概説します。</p> <p>以上を通じて、アートと社会の関係についての考えを深め、その未来について思いを巡らせることを目指します。</p>							
<p>〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕</p> <p>以下の視座を獲得することを目指します。</p> <p>①アートと社会の関係性についての歴史を知る。</p> <p>②社会と積極的に関わるアートの多様な事例を知る。</p> <p>③アートと社会の関係性について自分自身の考えを言語化する。</p> <p>これらの目標を達成することによって、DP1、DP2、DP3 および DP4 を実現します。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修 (予習・復習等)		準備学修の目安 (分)	
第1回	オリエンテーション：アートと社会の関係とは？ 【内容】授業の全体像、進め方、予習・復習の仕方等を説明する。			【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。		60	
第2回	歴史編①：アートの成立と自律性 【内容】西洋近代においてアートが成立し自律性を持つに至った歴史を説明する。			【予習】参考図書や資料などを概観し、自身の興味関心がある視座を明確にしておくこと。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。		60	
第3回	歴史編②：社会の前衛としてのアート 【内容】20世紀初頭に登場したアヴァンギャルド芸術の歴史と思想について説明する。			【予習】参考図書や資料などを概観し、自身の興味関心がある視座を明確にしておくこと。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。		60	
第4回	歴史編③：政治運動としてのアート 【内容】戦後に政治運動として活用されたアートの歴史と思想について説明する。			【予習】参考図書や資料などを概観し、自身の興味関心がある視座を明確にしておくこと。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。		60	
第5回	歴史編④：政策に活用されるアート 【内容】社会的価値の創出を目指して政策として活用されたアートの歴史と思想について説明する。			【予習】参考図書や資料などを概観し、自身の興味関心がある視座を明確にしておくこと。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。		60	
第6回	事例編①：地域とアート 【内容】まちづくりや地域振興と連携し地域住民と関わるアートの事例を紹介する。			【予習】参考図書や資料などを概観し、自身の興味関心がある視座を明確にしておくこと。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。		60	
第7回	事例編②：福祉とアート 【内容】福祉領域と連携し障害者や高齢者と関わるアートの事例を紹介する。			【予習】参考図書や資料などを概観し、自身の興味関心がある視座を明確にしておくこと。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。		60	
第8回	事例編③：教育とアート 【内容】教育領域と連携し子どもと関わるアートの事例を紹介する。			【予習】参考図書や資料などを概観し、自身の興味関心がある視座を明確にしておくこと。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。		60	
第9回	事例編④：多文化共生とアート 【内容】異なる文化を持つ人々と関わるアートの事例を紹介する。			【予習】参考図書や資料などを概観し、自身の興味関心がある視座を明確にしておくこと。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。		60	
第10回	理論編①：アートと社会の関係をどう語るか 【内容】アートと社会の関係についての理論や研究アプローチについて概観する。			【予習】参考図書や資料などを概観し、自身の興味関心がある視座を明確にしておくこと。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。		60	
第11回	理論編②：社会と関わるアートの美学 【内容】対話や関係性、敵対性に美的価値を見出す理論を説明する。			【予習】参考図書や資料などを概観し、自身の興味関心がある視座を明確にしておくこと。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。		60	
第12回	理論編③：社会関係を作動するアート 【内容】アートと社会の関係を考察した社会学や人類学の理論を説明する。			【予習】参考図書や資料などを概観し、自身の興味関心がある視座を明確にしておくこと。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。		60	

第13回	理論編④：アートの「よく分からなさ」と向き合う 【内容】アートの「よく分からなさ」に向き合う研究アプローチについて考える。	【予習】参考図書や資料などを概観し、自身の興味関心がある視座を明確にしておくこと。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第14回	まとめ：なぜアートなのか？ 【内容】これまでの講義内容を振り返り、総括する。	【予習】参考図書や資料などを概観し、自身の興味関心がある視座を明確にしておくこと。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
<p>〔授業の方法〕</p> <p>授業は主に講義形式でおこなうが、トピックに応じてグループワークやディスカッションを行う双方向授業を取り入れることから、十分な予習と復習が求められる。</p> <p>また、期末レポートの執筆によって、知識の定着をはかり、自身の考えを言語化する技術を習得する。</p> <p>※準備学習の時間はあくまで目安であり、各自の理解度に応じて取り組むこと。</p> <p>※社会情勢や授業の進捗によって、内容を一部変更する場合がある。</p> <p>※不正が発覚した場合は、成蹊大学の規定に準じた対応をとる。</p>			
〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕			
<p>〔課題等へのフィードバック方法〕</p> <p>授業のはじめにコメントシートへのフィードバックを行う。</p>			
<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>平常点（授業への参加状況やコメントシートの提出状況）：50% 期末レポート：50%</p> <p>※レポートの執筆にあたっては、履修要項の「学期末試験・レポート」項目にある、レポートの「注意事項」を要参照のこと。</p> <p>※ChatGPT等の生成AIの出力をそのまま、あるいは多少表現を変えた程度で提出することは原則認めない。成蹊大学におけるChatGPT等の生成AI利用に関する指針（https://www.seikei.ac.jp/university/news_topics/2023/15058.html）を要参照のこと。</p>			
<p>〔成績評価の基準〕</p> <p>成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.</p> <p>次の点に着目し、その達成度により評価する。</p> <p>①アートと社会の関係性について、自分自身で課題を見出すことができるか。</p> <p>②自らが見出した課題と視座について、考察し、言語化することができるか。</p>			
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕</p> <p>特になし</p>			
<p>〔テキスト〕</p> <p>特になし</p>			
<p>〔参考書〕</p> <p>『アートプロジェクト 芸術と共創する社会』熊倉純子監修、水曜社、本体3,200円＋税、9784880653334</p> <p>※購入の必要なし</p> <p>「日本型アートプロジェクトの歴史と現在 1990年→2012年」補遺 URL：https://tarl.jp/archive/art_projects_history_japan_1990_2012_hoi/ その他、授業内で適宜指示する。</p>			
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕</p> <p>ポータルサイトで周知する。</p>			
〔特記事項〕			

講義名	共生社会トピックス（日本女性史）						
教員名	酒井 晃						
講義コード	120831020	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 後期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>【テーマ】日本近現代史における「女らしさ」のつくられかた、性差のあり様</p> <p>【概要】20世紀日本を対象とし、女性史・ジェンダー史の観点から、「女らしさ」のつくられかた、性差のあり様について考える。本講義では、時代の要請によっていかに性差が形成されるかを理解する。その際、政治・経済・社会・文化・思想を横断的に論じ、現在を生きる私たちとの共通点と相違点を考察することを目的とする。</p>							
<p>〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・20世紀日本における歴史のなかから、「男らしさ」「女らしさ」のつくられかた、性差のあり様を時代状況を踏まえて理解することができる（DP2） ・歴史を踏まえて、現在との共通点と相違点を理解し、現在のジェンダーをめぐる問題について、論理的に考察することができる（DP4、DP5） 							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	ガイダンス			【予習】シラバスを熟読する。 【復習】高校教科書等を用いて、近現代史の部分を復習する。		60	
第2回	「国民化」とジェンダー			【予習】高校教科書等を用いて、近現代史の部分を復習する 【復習】配布されたプリントを熟読する。		60	
第3回	デモクラシーと「新しい女」			【予習】高校教科書等を用いて、近現代史の部分を復習する 【復習】配布されたプリントを熟読する。		60	
第4回	近代家族の形成			【予習】高校教科書等を用いて、近現代史の部分を復習する 【復習】配布されたプリントを熟読する。		60	
第5回	戦争と「男らしさ」			【予習】高校教科書等を用いて、近現代史の部分を復習する 【復習】配布されたプリントを熟読する。		60	
第6回	戦争と「女らしさ」			【予習】高校教科書等を用いて、近現代史の部分を復習する 【復習】配布されたプリントを熟読する。		60	
第7回	敗戦とジェンダー			【予習】高校教科書等を用いて、近現代史の部分を復習する 【復習】配布されたプリントを熟読する。		60	
第8回	特論（1）植民地とジェンダー			【予習】高校教科書等を用いて、近現代史の部分を復習する 【復習】配布されたプリントを熟読する。		60	
第9回	特論（2）記憶をめぐる抗争——日本軍「慰安婦」論争			【予習】高校教科書等を用いて、近現代史の部分を復習する 【復習】配布されたプリントを熟読する。		60	
第10回	冷戦体制の構築とジェンダー			【予習】高校教科書等を用いて、近現代史の部分を復習する 【復習】配布されたプリントを熟読する。		60	
第11回	高度経済成長と性別役割分業の広がり			【予習】高校教科書等を用いて、近現代史の部分を復習する 【復習】配布されたプリントを熟読する。		60	
第12回	ウーマン・リブの胎動			【予習】高校教科書等を用いて、近現代史の部分を復習する 【復習】配布されたプリントを熟読する。		60	
第13回	男女共同参加社会とは何か			【予習】高校教科書等を用いて、近現代史の部分を復習する 【復習】配布されたプリントを熟読する。		60	
第14回	まとめ			【予習】これまでの授業を振り返る。 【復習】授業全体を復習する		60	
<p>〔授業の方法〕</p> <p>スライドおよび配布資料をもとに、講義形式で実施する。</p> <p>講義は通史的な回と高校までの歴史教科書ではあまり取り上げられていないテーマを用いる回（特論）に分かれている。</p> <p>1回ごとに授業に関する「問い」（課題）を提示し、それに沿ってリアクションペーパーを回答してもらう。</p> <p>なお、通史部分の対象時期はおおむね第2回～第4回が明治期（19世紀中盤から20世紀前半）、戦前期（1910年～1930年代初期）、第5回～第7回が戦時・占領期（1930年代～1950年代初期）、第10回～第13回が戦後（1950年代以降）である。また、受講生の関心によって、多少の変更をおこなう場合もある。</p>							
<p>〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕</p> <p>特になし</p>							
<p>〔課題等へのフィードバック方法〕</p> <p>授業冒頭に前回のリアクションペーパーの回答に基づいて、前回授業の振り返りをおこなう。</p>							

<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>①リアクションペーパーの内容 (40点)</p> <p>②期末試験 (60点)</p> <p>計：100点満点</p>
<p>〔成績評価の基準〕</p> <p>成蹊大学の成績評価基準 (学則第 38 条、39 条) に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.</p>
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕</p> <p>特になし</p>
<p>〔テキスト〕</p> <p>特になし</p>
<p>〔参考書〕</p> <p>特になし</p>
<p>〔質問・相談方法等 (オフィス・アワー)〕</p> <p>ポータルサイトで周知します。</p> <p>また、授業終了後に教室で受け付けます。</p>
<p>〔特記事項〕</p>

講義名	共生社会トピックス（ファッション文化論）						
教員名	トゥーレン サスキア						
講義コード	120831070	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 後期
<p>〔テーマ・概要〕 ファッションはどんなものなのか？現在のファッション・システムをどのように捉えて・考え直すことができるか？本授業では、ファッション分野におけるいくつかのトピックを取り上げ、グローバルな観点から分析します。ファッションは今までどう変化してきたか、これからどう変化していくかを考察します。</p>							
<p>〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕 本授業では、 (1) ファッションの分野について、基礎的な知識、概念や用語をつかまえ、説明できる能力 2) ファッション分野のあらゆるトピックを包括的な文脈の中で理解する能力 3) 情報を解釈・分析し、論理的に思考する能力 を取得することを目指します。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）				準備学修の目安（分）	
第1回	オリエンテーション：授業の紹介、ファッションとは今までどのぐらい関わってきた？	【予習】シラバスを読む。				10分	
第2回	背景：近・現代洋服史	【復習】授業内容を復習し、理解を深める。				60分	
第3回	背景：近・現代和服史	【復習】授業内容を復習し、理解を深める。				60分	
第4回	背景：着物模様とテキスタイル	【復習】授業内容を復習し、理解を深める。				60分	
第5回	洋服における着物の影響	【復習】授業内容を復習し、理解を深める。				60分	
第6回	オートクチュール vs ストリート・スタイル	【復習】授業内容を復習し、理解を深める。				60分	
第7回	服とレジャーカルチャー・スポーツウェア	【復習】授業内容を復習し、理解を深める。				60分	
第8回	ストリート・ファッション&定点観測（ワークショップ）	【復習】授業内容を復習し、理解を深める。				60分	
第9回	MUJI：ブランドなしのブランド	【復習】授業内容を復習し、理解を深める。				60分	
第10回	中間ディスカッション・評価	【予習】現在までの授業内容を復習し、最低2つの質問・疑問・不明点をディスカッションに持って来る。				120分	
第11回	ファッション・デザインとオリジナリティー	【復習】授業内容を復習し、理解を深める。				60分	
第12回	スロー・ファッション	【復習】授業内容を復習し、理解を深める。				60分	
第13回	ファッションと文化の盗用	【復習】授業内容を復習し、理解を深める。				60分	
第14回	学期末到達度確認テスト	【予習】授業内容を復習し、テストの準備をする。				120分	
<p>〔授業の方法〕 授業は主に講義形式で行いますが、質疑応答やディスカッションの時間も取り入れます。各授業では、感想ペーパーを出していただきます。感想ペーパーには、授業内容を踏まえた上で自分の感想・考えと質問・コメントを書いていただきます。学期中には、一つの授業をディスカッションに当てます。この授業では、学生はグループにおいて、現時点までの授業内容から自分が抱えている質問・イメージ・疑問に基づいてディスカッションを行います。ディスカッションの結果を短く発表し、その要約を感想ペーパーに書いていただきます。授業の最後の週は到達度確認テストになります。</p>							
〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕							
<p>〔課題等へのフィードバック方法〕 感想ペーパー、質問やコメントは授業時に解説する。期末テストの評価に関しては個別にフィードバックする。</p>							
〔成績評価の方法〕							

本授業の成績評価は、授業への取り組み・ディスカッション・感想ペーパー（30%）、(2)学期末到達度確認テスト（70%）の合計による評価となります。

(1) 授業への取り組み・ディスカッションで評価対象となるのは、ディスカッションと感想ペーパーでの発言や内容です。

(2) 到達度確認テストで評価対象となるは、授業の内容の理解度です。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特になし

〔テキスト〕

特になし

〔参考書〕

関連する参考書は、授業の中で紹介します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知します。

〔特記事項〕

(4) アクティブ・ラーニング

講義名	共生社会トピックス（環境学）						
教員名	三宅 良尚						
講義コード	120831080	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 後期
<p>〔テーマ・概要〕 食料の生産から消費までを学ぶことで、グローバルから地域、個人にいたる社会、環境プロセスが関わる人間活動と、その課題について把握する それらの課題に対して、SDGs の推進や、オルタナティブな活動、それらの展望について実態を理解して、持続可能な食料生産、食、自身の生活のあり方について構想できる</p>							
<p>〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕 DP2【教養の修得】、DP4【表現力、発信力】、DP5【多様な人々との協働】を実現するため、以下を到達目標とする 食の生産から消費を学ぶことで、グローバルから地域、個人まで関わる社会プロセスについての把握できるようにする 講義を通じて、食に関わる社会プロセスの課題、その持続可能性について広く意見を述べられるようにする。 その際に、グループディスカッションなどを通じて意見を集約したり、発表したりすることも行えるようにする</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	プロローグ			シラバスを確認する		60	
第2回	食と場所のアイデンティティ			第2週の予習シートに取組む		120	
第3回	農業生産の地理と政治1			第2週について復習、第3週の予習シートに取組む		120	
第4回	農業生産の地理と政治2			第3週について復習、第4週の予習シートに取組む		120	
第5回	食のモビリティと変遷1			第4週について復習、第5週の予習シートに取組む		120	
第6回	食のモビリティと変遷2			第5週について復習、第6週の予習シートに取組む		120	
第7回	食の消費			第1~6週について復習、第7週の予習シートに取組む		120	
第8回	到達度確認テスト、食料危機			第7週について復習、第8週の予習シートに取組む		120	
第9回	グローバルサウスの飢餓			第8週について復習、第9週の予習シートに取組む		120	
第10回	先進国の食料不安			第9週について復習、第10週の予習シートに取組む		120	
第11回	オルタナティブ・ネットワーク			第10週について復習、第11週の予習シートに取組む		120	
第12回	未来シナリオ1			第10週について復習、第12週の予習シートに取組む		120	
第13回	未来シナリオ2			第12週について復習、第13週の予習シートに取組む		120	
第14回	到達度確認テスト、未来シナリオ3、エピローグ			第13週について復習、第14週の予習シートに取組む		120	
<p>〔授業の方法〕 通常の講義に加え、講義内容についての理解を確認、深めることを目的としたクイズ、到達度確認テストが講義に含まれる 授業計画は講義状況などに応じて変更される可能性がある</p>							
<p>〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕 マイクロソフト・ワードはインストールしておくこと</p>							
<p>〔課題等へのフィードバック方法〕 講義での発言、クイズ・到達度確認テストの結果に対して講義内で適宜フィードバックを行う</p>							
<p>〔成績評価の方法〕 平常点 20%、クイズ 50%、到達度確認テスト 30%（1回 15%） ※遅刻の場合、平常点の減点は損なわれた学習成果を考慮する。欠席の際の平常点への考慮は2回の講義まで行う その他の事項で講義参加に考慮が必要な場合は、信頼できる第三者からの文書により説明すること</p>							

<p>〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.</p>
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 必要な予備知識は特にないが、英語の教科書を用いて予習を行う意欲があることが必要となる</p>
<p>〔テキスト〕 Kneafsey, Moya, Damian Maye, Lewis Holloway, and Michael K. Goodman. 2021. Geographies of Food: An Introduction. Bloomsbury USA Academic. その他の資料についてはポータルなどで共有する</p>
<p>〔参考書〕</p>
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知します。 また、授業終了後に教室で受け付けます。</p>
<p>〔特記事項〕 (4)アクティブ・ラーニング</p>

講義名	共生社会トピックス (都市防災学)						
教員名	植木 岳雪						
講義コード	120831090	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 前期
<p>[テーマ・概要]</p> <p>この授業科目は、人口や産業が集中している都市における災害と防災の概要を学ぶ。地図、図表、写真、動画などの読み取りや作業を通して、災害のメカニズムと防災の方法を理解する。また、野外に出て、学習した内容を確認する。</p>							
<p>[科目内容を踏まえた到達目標の詳細]</p> <p>DP2「教養の習得（広い視野での思考・判断）」を実現するため、以下を到達目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな災害のメカニズムを理解し、防災意識を高める。 ・東京における自然の特徴と成り立ちを知り、東京で起こりうる災害を予測できる。 ・簡単な観察、実験、作業を通して、都市防災の基礎知識を実際に確かめる。 							
[授業の計画と準備学修]							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	講義全体のオリエンテーション、都市とは何か			シラバスを読んで授業計画を確認する		60	
第2回	東京における自然の特徴と成り立ち			前回の内容確認		60	
第3回	「東京くらし防災」・「東京防災」を読む			前回の内容確認		60	
第4回	都市における地震災害と防災			前回の内容確認		60	
第5回	都市における津波災害と防災			前回の内容確認		60	
第6回	都市における河川氾濫、高潮と防災			前回の内容確認		60	
第7回	都市における気象災害と防災：人為的なものを含む			前回の内容確認		60	
第8回	都市における地盤災害と防災：人為的なものを含む			前回の内容確認		60	
第9回	都市におけるハザードマップとタイムライン			前回の内容確認		60	
第10回	防災施設の見学、体験：首都圏外郭放水路、東京都防災館			前回の内容確認		60	
第11回	防災施設の見学、体験：首都圏外郭放水路、東京都防災館			前回の内容確認		60	
第12回	防災施設の見学、体験：首都圏外郭放水路、東京都防災館			前回の内容確認		60	
第13回	野外活動のまとめのグループワーク			前回の内容確認		60	
第14回	授業全体のまとめ、プレゼンテーション			前回の内容確認		60	
<p>[授業の方法]</p> <p>室内の講義を主とし、最後に野外活動のまとめをプレゼンテーションする。講義では配布プリントとPCプロジェクタを使用し、各自で色鉛筆、定規、電卓などを用意すること。野外活動では、プリントと地図を配布し、各自で野帳を用意すること、現地までの交通費がかかることがある。</p>							
[パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）]							
<p>[課題等へのフィードバック方法]</p> <p>各回の授業の終わりにリアクションペーパーを記入し、授業の内容をまとめる。質問に対しては、次回の授業で回答する。</p>							
<p>[成績評価の方法]</p> <p>学期末到達度確認テスト（50%）、平常点（授業への取り組み、提出物、プレゼンテーション50%）</p>							

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。次の点に着目し、その達成度により評価する。災害のメカニズムと防災の知識を基にして、都市における災害を予測し、防災の方法を考えられるかどうか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特に必要な予備知識はない。

〔テキスト〕

中学校や高等学校で使用した教科書や地図帳。

「東京くらし防災」 <https://www.bousai.metro.tokyo.lg.jp/content/pdf2023/kb2023.pdf>

「東京防災」 <https://www.bousai.metro.tokyo.lg.jp/content/pdf2023/tb2023.pdf>

〔参考書〕

貝塚爽平「東京の自然史」講談社学術文庫，ISBN 9784062920827

上大岡 トメ&アネ「生き延びるための地震学入門」幻冬社，ISBN 9784344020238

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知します。また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

講義名	共生社会トピックス (多文化共生論)						
教員名	大槻 茂実						
講義コード	120831100	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 前期
<p>〔テーマ・概要〕 人種・民族・国籍の異なる背景をもつ人々はいかにして持続可能な社会を築くことができるのか。本授業は、この問いを中心に、多文化共生をめぐる現代的課題について考察する。 高齢化と人口減少に直面する日本社会は、外国人(移民)の受け入れへと徐々に舵を切りつつある。異なる背景をもつ人々が共に生きる多様性に富んだ社会は、魅力的な社会像として語られる一方で、世界各地では移民排斥や反移民感情の高まりといった社会的分断の兆候も確認されている。 異なる人種・民族・国籍背景をもつ人々の関係において共生を推進するためには、人道的な配慮や価値観の共有が重要であることは言うまでもない。しかし、それだけでは十分とは言えない。社会階層やジェンダーといった不平等の問題を含め、人々の関係を取り巻く条件を構造的に理解する視点が不可欠である。 本講義では、社会学的な視点から多文化共生に関する理論や事例を学び、共生社会が直面する課題を多面的に捉える。その上で、人種・民族・国籍の異なる背景をもつ人々がいかにして持続可能な社会を築きうるのかについて、履修者自身の考えを深めていく。</p>							
<p>〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕 DP2【教養の修得】多文化共生に関する専門的知識を学び、多文化共生における課題を検討することができる。 DP4【表現力、発信力】模範解答がない問に対して、エビデンスに基づいた自分自身の考えをもち、それを他者に論理的に説明することができる。 DP5【多様な人々との協働】共生といったデリケートな問題を検討するにあたって、他者の意見や立場を尊重しながら協働し、学びを深めることができる。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容	準備学修(予習・復習等)				準備学修の目安(分)	
第1回	オリエンテーション-授業の内容、進め方、予習・復習の仕方などを説明する。 前提知識の確認-近代化と新自由主義	【復習】シラバスに記載された内容を確認し、全体のスケジュールを把握する。前提知識部分の要点を押さえる。 【予習】初回授業で提示された課題に取り組む。				60	
第2回	多文化共生とは何か/日本の産業構造と労働力	【復習】前回の授業で提示された復習課題をこなす。前回の授業内容のキーポイントを言語化しておく。 【予習】前回の授業で提示された予習課題に取り組む。				90	
第3回	多文化共生への取組①国と地方自治体における試み	【復習】前回の授業で提示された復習課題をこなす。前回の授業内容のキーポイントを言語化しておく。 【予習】前回の授業で提示された予習課題に取り組む。				90	
第4回	多文化共生への取組②CLAIR REPORT からみる多文化共生	【復習】前回の授業で提示された復習課題をこなす。前回の授業内容のキーポイントを言語化しておく。 【予習】前回の授業で提示された予習課題に取り組む。				90	
第5回	多文化共生への取組③学校と地域現場における試み	【復習】前回の授業で提示された復習課題をこなす。前回の授業内容のキーポイントを言語化しておく。 【予習】前回の授業で提示された予習課題に取り組む。				90	
第6回	多様性のパラドクスと向き合う①多様性と社会関係資本	【復習】前回の授業で提示された復習課題をこなす。前回の授業内容のキーポイントを言語化しておく。 【予習】前回の授業で提示された予習課題に取り組む。				90	
第7回	多様性のパラドクスと向き合う②偏見の低減	【復習】前回の授業で提示された復習課題をこなす。前回の授業内容のキーポイントを言語化しておく。 【予習】前回の授業で提示された予習課題に取り組む。				90	
第8回	方法論①集合論の発想	【復習】前回の授業で提示された復習課題をこなす。前回の授業内容のキーポイントを言語化しておく。 【予習】前回の授業で提示された予習課題に取り組む。				120	
第9回	方法論②質的比較分析の基本ステップ	【復習】前回の授業で提示された復習課題をこなす。前回の授業内容のキーポイントを言語化しておく。 【予習】中間テストに備える。				120	
第10回	中間テスト/これまでの復習	【復習】前回の授業で提示された復習課題をこなす。中間テストのキーポイントを言語化しておく。 【予習】前回の授業で提示された予習課題に取り組む。				120	
第11回	方法論③質的比較分析の実践	【復習】前回の授業で提示された復習課題をこなす。前回の授業内容のキーポイントを言語化しておく。 【予習】前回の授業で提示された予習課題に取り組む。				120	
第12回	地域社会の希薄化	【復習】前回の授業で提示された復習課題をこなす。前回の授業内容のキーポイントを言語化しておく。 【予習】前回の授業で提示された予習課題に取り組む。				90	
第13回	多文化共生への取組④東京都立川市を事例に	【復習】前回の授業で提示された復習課題をこなす。前回の授業内容のキーポイントを言語化しておく。 【予習】前回の授業で提示された予習課題に取り組む。 到達度確認テストに備える。				120	
第14回	到達度確認テスト/授業のまとめ	【復習】これまでの授業内容をすべて振り返り、今後の自分の成長のために必要な学びが何であるかを言語化する。				60	
<p>〔授業の方法〕 授業は主に講義形式ですめるが、毎回の授業でディスカッションタイムを設ける。ディスカッションでは教員と学生だけではなく、学生同士でも行っていく。ディスカッションといった形で双方向授業を取り入れることから、十分な予習と復習が求められる。本授業は毎回の通常課題に加えて中間テストと到達度確認テストの実施を通じて、理解の定着を行う。なお、授業計画・内容は社会情勢や授業の進行状況に応じて調整を行う場合がある。 上記の授業計画で示された準備学修時間はあくまで目安である。履修者は自分の理解度の応じて準備学修を行うこと。</p>							
〔パソコンに関する受講者への指示(特別なソフトウェアのインストール等)〕							
授業では特別なソフトウェアは使用しない。ただし、授業で習得した内容を更に深めるにあたって、統計ソフト SPSS、R、質的比較分析用ソフト fsQCA の活用を推奨する。fsQCA については授業内で説明する。							

<p>〔課題等へのフィードバック方法〕 毎回の授業で、前回の課題に対するフィードバックを行う。事前に提出された課題の中から、特に優れた内容や全体で共有すべき事例を授業内で紹介する。</p>
<p>〔成績評価の方法〕 本授業の成績は、以下の要素に基づき総合的に評価する。 1. 授業への積極的な参加（ディスカッションを含む） 10% 2. 定期的な課題提出 40% 3. 中間テストと学期末テスト（または到達度確認テスト） 50%</p>
<p>〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 38, 39.</p>
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし。</p>
<p>〔テキスト〕 特になし。</p>
<p>〔参考書〕 必要に応じて授業中に紹介する。購入の必要はない。</p>
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知します。 また、授業終了後に教室で受け付けます。</p>
<p>〔特記事項〕 (4)アクティブ・ラーニング</p>

講義名	武蔵野地域研究						
教員名	長谷川 拓人						
講義コード	120840310	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2026前期
<p>〔テーマ・概要〕 この授業では、武蔵野地域の歴史を辿るとともに、武蔵野市近隣で活動する方をゲストに招き、子ども・若者・高齢者などを対象にしたサポートのありようを学ぶ。講義は、幼稚園・図書館・子ども食堂・社会福祉協議会などのテーマに沿って進めていく。大学が位置する武蔵野市について知り、自分の生まれ育った地域を新たな視点で捉え直してもらうことが、この授業の目的である。</p>							
<p>〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕 DP3「課題の発見と解決」、DP4「表現力、発信力」、DP6「自発性、積極性」を実現するため、以下の2点を到達目標とする。 ①地域を基盤とした子どもや高齢者へのサポートについて学ぶ。 ②よりよい地域を目指すには何が必要か。具体策も含めた自分の意見を他の人に伝えることができる。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	イントロダクション			配布資料を読み、理解する。		60	
第2回	児童館			ゲストスピーカーの話聞き、理解を深める。		60	
第3回	武蔵野の歴史			配布資料を読み、理解する。		60	
第4回	乳幼児支援			配布資料を読み、理解する。		60	
第5回	幼稚園			ゲストスピーカーの話聞き、理解を深める。		60	
第6回	図書館			配布資料を読み、理解する。		60	
第7回	子ども食堂			ゲストスピーカーの話聞き、理解を深める。		60	
第8回	コミュニティセンター			配布資料を読み、理解する。		60	
第9回	フリースクール			ゲストスピーカーの話聞き、理解を深める。		60	
第10回	社会福祉協議会			配布資料を読み、理解する。		60	
第11回	外国籍の親を持つ子どもへの支援			ゲストスピーカーの話聞き、理解を深める。		60	
第12回	高齢者福祉			配布資料を読み、理解する。		60	
第13回	精神的問題を抱える人とその家族への支援			ゲストスピーカーの話聞き、理解を深める。		60	
第14回	まとめ			授業で学んだことを振り返り、自分で調べたことをレポートとして提出する。		60	
<p>〔授業の方法〕 授業では、スライドや映像を用いる。いくつかの授業では、武蔵野市やその近隣で活動されている方をゲストスピーカーとして招き、お話を伺う。</p>							
〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕							
<p>〔課題等へのフィードバック方法〕 レポートの講評は、授業内に行う</p>							
<p>〔成績評価の方法〕 平常点（授業への参加態度、小レポート）100%</p>							

<p>〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.</p>
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし</p>
<p>〔テキスト〕 授業で配布するプリント</p>
<p>〔参考書〕</p>
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する</p>
<p>〔特記事項〕</p>

講義名	近現代のアジアB<1>						
教員名	小二田 章						
講義コード	120899010	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 後期
<p>[テーマ・概要]</p> <p>もともと伝統近世国家が東アジア（中国・日本・朝鮮・ベトナムなど）には存在し、特に中国の影響下のもと、国家編纂の歴史書（「史書」）を自らの政権の歴史的根拠として編んでいた。強制的に「近代」秩序のなかに組み込まれるなかで、「伝統」をある意味体現する「史書」はそのあり方・存在を大きく変えながら近代及び現代の社会に影響を残した。本講義は現在に至る東アジア社会の特徴的な一面、「歴史」に対する人々の基礎的な理解を得るため、近世→近代→現代に至る社会の歴史の変遷とその中の「歴史」編纂の変化について概観する。</p>							
<p>[科目内容を踏まえた到達目標の詳細]</p> <p>DP2（教養の修得）を実現するため、次の3点を到達目標とする。</p> <p>①東アジアの伝統社会から現代に向かう歴史を概観し、基礎的な知識を身につける。</p> <p>②近代と「歴史」の関わり方を20世紀東アジア社会の「歴史」に対する態度から理解する。</p> <p>③自分たちが学ぶ「歴史」の意義と位置づけの基礎を理解する。</p>							
[授業の計画と準備学修]							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	授業ガイダンス： 授業の進め方、予習・復習の仕方等を説明する。 「歴史」の歴史（近現代東アジア）を学ぶ意義			予習：シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 復習：授業の全体像や進め方、評価基準等について確認する。		60	
第2回	「近代」および「現代」とは何か： 西欧に生まれ、世界を席卷した枠組である「近代」とその転換した「現代」について概念を確認する。			予習：適宜、興味のある参考文献の「序章」「序論」などに目を通す。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第3回	前提理解（1）中国の「近世」と史書： 前近代「史書」編纂の中心にあった中国・清朝について政治・文化・史書編纂を概観する。			予習：参考文献Aの関連個所に目を通しておく。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第4回	前提理解（2）日本の「近世」と史書： 日本・江戸幕府（徳川期）について、「史書」を試みて編めなかった理由を中心に考える。			予習：参考文献Bの関連個所に目を通しておく。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第5回	前提理解（3）朝鮮の「近世」と史書： 朝鮮・朝鮮王朝期について、史書編纂の困難と「歴史」文化の特徴を概観する。			予習：参考文献Cの関連個所に目を通しておく。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第6回	前提理解（4）ベトナムの「近世」と史書： ベトナムの史書編纂の過程を、黎朝から阮朝に至る諸勢力の試みと併せて概観する。			予習：参考文献Dの関連個所に目を通しておく。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第7回	補足回・東アジアのそとの「歴史」： オスマン帝国・ペルシア王朝・中央アジア諸ハン国を例に「歴史」のあり方を概観する。			予習：興味のある地域の「近現代史」について、適宜参考文献に目を通す。 復習：今回の内容が東アジアに影響した/されたか考えてみる。		60	
第8回	東アジアの「近代」と史書（1）中国： 中国における「近代」の到来とその中で試みられた史書と歴史の試みを概観する。			予習：参考文献Eの関連個所に目を通しておく。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第9回	東アジアの「近代」と史書（2）日本： 日本における「近代」の到来と史書編纂の「放棄」に至る過程を考えてみる。			予習：参考文献Bの関連個所に目を通しておく。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第10回	東アジアの「近代」と史書（3）朝鮮とベトナム： 朝鮮・ベトナムへの「近代」強要と被植民地支配を通じて「歴史」の意義変化を概観する。			予習：参考文献C、Dの関連個所に目を通しておく。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第11回	東アジアの「現代」と史書（1）中国： 大戦後の中国における政治・社会の変化となお編まれる「史書」について考える。			予習：参考文献Aの関連個所に目を通しておく。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第12回	東アジアの「現代」と「歴史」（2）日本： 大戦後の日本における政治・社会の変化と「歴史学」の展開について考える。			予習：参考文献Bの関連個所に目を通しておく。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第13回	東アジアの「現代」と実態の「歴史」（3）朝鮮とベトナム： 大戦後の朝鮮・ベトナムの政治・社会の変化と「歴史」の持った意義を概観する。			予習：参考文献C、Dの関連個所に目を通しておく。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第14回	まとめ、授業の内容確認（期末テスト）			予習：講義で配布したレジュメ、制作したレポートを再度確認する。 復習：テストの内容を再確認するとともに、興味を持った事柄を調べ進めてみる。		60	
<p>[授業の方法]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業は講義形式（毎回レジュメを配布し、講師の話とPPTを視聴する）で行う。 ・授業にて毎回リアクションペーパーを配り、授業終了時に提出させる。 ・授業の進度によって内容が変更する場合もある。 							
[パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）]							
<p>[課題等へのフィードバック方法]</p> <p>リアクションペーパーの一部について、次回時に（または動画にて）教員が回答を行う。</p>							

<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>毎回の授業後に提出するリアクションペーパーと授業態度（20%） 小レポートの提出（文献の要約と感想、20%）、 期末テスト（最終回授業時に行う、60%） による総合評価とする。</p>
<p>〔成績評価の基準〕</p> <p>成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.</p> <p>次の点に着目し、その達成度により評価する。</p> <p>①東アジア史、特に「歴史」編纂の意義について基本的な理解ができているか。 ②近現代史を歴史的視座から概観し理解することができるか。</p>
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕</p> <p>高校の際に「世界史」「日本史」など歴史科目を履修しなかった学生も歓迎します。 授業内容のより深い理解のため、歴史に興味関心を持つことができればなお歓迎です。 前期の「近現代のアジアA」と一部内容が重複しますが、 両方受講して学びを深くすることも、どちらかだけ受講するのでも問題ありません。</p>
<p>〔テキスト〕</p> <p>特になし</p>
<p>〔参考書〕</p> <p>A 山本英史『現代中国の履歴書』（慶応義塾大学出版会、2003） B 小風秀雅『日本近現代史』（放送大学教育振興会、2009） C 須川英徳・三ツ井崇『韓国朝鮮の歴史と文化』（放送大学教育振興会、2021） D 岡田雅志『一冊でわかるベトナム史』（河出書房新社、2024） E 吉澤誠一郎『愛国主義の創成』（岩波書店、2003） その他、授業時に適宜紹介する。</p>
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕</p> <p>ポータルサイトで周知します。 また、授業終了後に教室で受け付けます。</p>
<p>〔特記事項〕</p>

講義名	近現代のアジアB<2>						
教員名	小二田 章						
講義コード	120899020	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 後期
<p>[テーマ・概要]</p> <p>もともと伝統近世国家が東アジア（中国・日本・朝鮮・ベトナムなど）には存在し、特に中国の影響下のもと、国家編纂の歴史書（「史書」）を自らの政権の歴史的根拠として編んでいた。強制的に「近代」秩序のなかに組み込まれるなかで、「伝統」をある意味体現する「史書」はそのあり方・存在を大きく変えながら近代及び現代の社会に影響を残した。本講義は現在に至る東アジア社会の特徴的な一面、「歴史」に対する人々の基礎的な理解を得るため、近世→近代→現代に至る社会の歴史の変遷とその中の「歴史」編纂の変化について概観する。</p>							
<p>[科目内容を踏まえた到達目標の詳細]</p> <p>DP2（教養の修得）を実現するため、次の3点を到達目標とする。</p> <p>①東アジアの伝統社会から現代に向かう歴史を概観し、基礎的な知識を身につける。</p> <p>②近代と「歴史」の関わり方を20世紀東アジア社会の「歴史」に対する態度から理解する。</p> <p>③自分たちが学ぶ「歴史」の意義と位置づけの基礎を理解する。</p>							
[授業の計画と準備学修]							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	授業ガイダンス： 授業の進め方、予習・復習の仕方等を説明する。 「歴史」の歴史（近現代東アジア）を学ぶ意義			予習：シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 復習：授業の全体像や進め方、評価基準等について確認する。		60	
第2回	「近代」および「現代」とは何か： 西欧に生まれ、世界を席卷した枠組である「近代」とその転換した「現代」について概念を確認する。			予習：適宜、興味のある参考文献の「序章」「序論」などに目を通す。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第3回	前提理解（1）中国の「近世」と史書： 前近代「史書」編纂の中心にあった中国・清朝について政治・文化・史書編纂を概観する。			予習：参考文献Aの関連個所に目を通しておく。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第4回	前提理解（2）日本の「近世」と史書： 日本・江戸幕府（徳川期）について、「史書」を試みて編めなかった理由を中心に考える。			予習：参考文献Bの関連個所に目を通しておく。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第5回	前提理解（3）朝鮮の「近世」と史書： 朝鮮・朝鮮王朝期について、史書編纂の困難と「歴史」文化の特徴を概観する。			予習：参考文献Cの関連個所に目を通しておく。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第6回	前提理解（4）ベトナムの「近世」と史書： ベトナムの史書編纂の過程を、黎朝から阮朝に至る諸勢力の試みと併せて概観する。			予習：参考文献Dの関連個所に目を通しておく。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第7回	補足回・東アジアのその「歴史」： オスマン帝国・ペルシア王朝・中央アジア諸ハン国を例に「歴史」のあり方を概観する。			予習：興味のある地域の「近現代史」について、適宜参考文献に目を通す。 復習：今回の内容が東アジアに影響した/されたか考えてみる。		60	
第8回	東アジアの「近代」と史書（1）中国： 中国における「近代」の到来とそこで試みられた史書と歴史の試みを概観する。			予習：参考文献Eの関連個所に目を通しておく。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第9回	東アジアの「近代」と史書（2）日本： 日本における「近代」の到来と史書編纂の「放棄」に至る過程を考えてみる。			予習：参考文献Bの関連個所に目を通しておく。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第10回	東アジアの「近代」と史書（3）朝鮮とベトナム： 朝鮮・ベトナムへの「近代」強要と被植民地支配を通じて「歴史」の意義変化を概観する。			予習：参考文献C、Dの関連個所に目を通しておく。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第11回	東アジアの「現代」と史書（1）中国： 大戦後の中国における政治・社会の変化となお編まれる「史書」について考える。			予習：参考文献Aの関連個所に目を通しておく。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第12回	東アジアの「現代」と「歴史」（2）日本： 大戦後の日本における政治・社会の変化と「歴史学」の展開について考える。			予習：参考文献Bの関連個所に目を通しておく。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第13回	東アジアの「現代」と実態の「歴史」（3）朝鮮とベトナム： 大戦後の朝鮮・ベトナムの政治・社会の変化と「歴史」の持った意義を概観する。			予習：参考文献C、Dの関連個所に目を通しておく。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第14回	まとめ、授業の内容確認（期末テスト）			予習：講義で配布したレジュメ、制作したレポートを再度確認する。 復習：テストの内容を再確認するとともに、興味を持った事柄を調べ進めてみる。		60	
<p>[授業の方法]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業は講義形式（毎回レジュメを配布し、講師の話とPPTを視聴する）で行う。 ・授業にて毎回リアクションペーパーを配り、授業終了時に提出させる。 ・授業の進度によって内容が変更する場合もある。 							
[パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）]							
<p>[課題等へのフィードバック方法]</p> <p>リアクションペーパーの一部について、次回時に（または動画にて）教員が回答を行う。</p>							

<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>毎回の授業後に提出するリアクションペーパーと授業態度（20%） 小レポートの提出（文献の要約と感想、20%）、 期末テスト（最終回授業時に行う、60%） による総合評価とする。</p>
<p>〔成績評価の基準〕</p> <p>成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.</p> <p>次の点に着目し、その達成度により評価する。</p> <p>①東アジア史、特に「歴史」編纂の意義について基本的な理解ができているか。 ②近現代史を歴史的視座から概観し理解することができるか。</p>
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕</p> <p>高校の際に「世界史」「日本史」など歴史科目を履修しなかった学生も歓迎します。 授業内容のより深い理解のため、歴史に興味関心を持つことができればなお歓迎です。 前期の「近現代のアジアA」と一部内容が重複しますが、 両方受講して学びを深くすることも、どちらかだけ受講するのでも問題ありません。</p>
<p>〔テキスト〕</p> <p>特になし</p>
<p>〔参考書〕</p> <p>A 山本英史『現代中国の履歴書』（慶応義塾大学出版会、2003） B 小風秀雅『日本近現代史』（放送大学教育振興会、2009） C 須川英徳・三ツ井崇『韓国朝鮮の歴史と文化』（放送大学教育振興会、2021） D 岡田雅志『一冊でわかるベトナム史』（河出書房新社、2024） E 吉澤誠一郎『愛国主義の創成』（岩波書店、2003） その他、授業時に適宜紹介する。</p>
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕</p> <p>ポータルサイトで周知します。 また、授業終了後に教室で受け付けます。</p>
<p>〔特記事項〕</p>

講義名							
教員名							
講義コード		単位数		配当年次		開講時期	
[テーマ・概要]							
[科目内容を踏まえた到達目標の詳細]							
[授業の計画と準備学修]							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の 目安（分）	
第1回							
第2回							
第3回							
第4回							
第5回							
第6回							
第7回							
第8回							
第9回							
第10回							
第11回							
第12回							
第13回							
第14回							
[授業の方法]							
[パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）]							
[課題等へのフィードバック方法]							
[成績評価の方法]							

[成績評価の基準]
[必要な予備知識／先修科目／関連科目]
[テキスト]
[参考書]
[質問・相談方法等 (オフィス・アワー)]
[特記事項]